

令和8年度
(2026年度)

学生の葉
シラバス (授業要綱)
2年次

学籍番号

氏名

福岡医療短期大学
歯科衛生学科

建学の精神

歯科衛生学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な歯科衛生士を養成し、保健福祉に貢献すると共に、歯科衛生学の進展に寄与する

教育の理念

本学は、「教育基本法及び学校教育法の精神に基づき、歯科衛生士に必要な専門の知識と技術を教授研究し、教養と良識を備え、口腔医学に基づいた歯科医療を実践できる有能な人材を育成するとともに、もって医療、保健、福祉に寄与する」（学則第1条）ことを使命とする。

近年、医療・保健・福祉を取り巻く環境の変貌は著しく、それらの高度化・専門化が進行している。これに伴い、歯科医療チームの一員としての歯科衛生士の役割はますます重要視されるとともに、指導的役割を果たすことのできる優秀な人材の育成が強く求められている。これらの社会的要請に応えるために、幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた歯科衛生士の養成を目指す。

入学者受入れの方針（アドミSSION・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる「知識・理解・技能」や「思考力・判断力・表現力」及び「態度・主体性」を備えた人を求めます。

- 1 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識・理解や実技を行う能力を有している。（知識・理解・技能）
- 2 物事を多面的かつ論理的に考えることができる。（思考力・判断力）
- 3 自分の考えを的確に表現し伝えることができる。（表現力）
- 4 対話を通して、相互理解に努めようとする態度を有している。（態度）
- 5 口腔保健に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。（主体性）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、医療人としての自覚と倫理観を持ち、生涯を通じた口腔の健康管理、要介護者および高齢者や障害者への専門的口腔ケア（口腔介護）を実践できる歯科衛生士の養成を目的にカリキュラムを編成しています。1年次から3年次へと体系的・順序性を考慮して「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」、「選択必修分野」、「自由科目」にわけて、カリキュラムを編成し、講義、実習を適切に組み合わせた授業を開講しています。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連、学修の段階や順序等を表した番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすくシラバスに明示しています。

（教育内容）

- 1 「基礎分野」（知識・理解、態度・主体性）
生命科学および情報処理の理解を深め、豊かな感性や教養を持った歯科衛生士の育成を目指します。また、グローバルな対人コミュニケーション能力を身につけた人材を育成します。
- 2 「専門基礎分野」（知識・理解、態度）
高度化および専門化する口腔医学に対応するために、歯科衛生士として必要な基礎医学を系統立てて理解した人材を育成します。また、疾病の予防と回復過程の知識を身につけ、歯や口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組みを理解し、地域における関係諸機関等との連携ができる能力を持つ人材を育成します。
- 3 「専門分野」（知識・理解・技能、思考力・判断力・表現力、態度・主体性）
生涯を通じた継続的な口腔保健管理を理解し、疾病やライフステージ別の予防法や予防システムの構築を学ぶとともに、生活環境や全身状態が多様な個人および集団に対して、専門的立場から歯科保健指導を実践する能力を身につけた歯科衛生士を育成します。また、「歯科医療チームの一員として歯科医師の診療の補助ができる歯科衛生士」、「福岡歯科大学医科歯科総合病院での臨床実習を通して、医療人としての自覚と倫理観を備え、専門性を発揮できる歯科衛生士」、「キャンパス内外の介護保険施設等での臨地実習では多職種と連携し、要介護高齢者や障害者の口腔介護を実践できる歯科衛生士」、「口腔および全身介護の実践で必要となる生活介護や身体介護を修得し、超高齢社会に対応した知識・技能を身につけた歯科衛生士」の育成を目指します。
- 4 「選択必修分野」（知識・理解、表現力、態度・主体性）
すべてのライフステージにおける口腔保健管理のサポートに必要な豊かな人間性と職業倫理観や、生涯にわたって学修を継続する意欲を持ち、また、アジアに視点をのこした幅広いコミュニケーション能力を身につけ、国際的にも活躍できる歯科衛生士の育成を目指します。
- 5 「自由科目」（知識・理解・技能、表現力）
口腔介護の実践で必要となる生活介護や身体介護を修得し、超高齢社会に対応した知識・技能を身につけた歯科衛生士を育成します。

(教育方法)

- 1 主体的に学ぶ力を高めるために、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実践します。(思考力・判断力、態度・主体性)
- 2 教育効果を上げるために、シラバスに学修内容や準備学修の項目を設け、ホームワークやレポートは整合性や連続性を図ると共に、形成的評価のための学期中のフィードバックを行います。(知識・理解)
- 3 目標・記録・評価の総合的ツールであるポートフォリオを3年間かけて作成し、自己の学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」を行います。(態度・主体性)
- 4 国家試験に必要な専門的知識の修得確認のために外部テスト(歯科衛生士模擬試験)を導入し、結果のモニタリングを行い、自己学修の推進を図ります。また、模擬試験や国家試験対策のための時間を設定し、2年次から段階を追った学修プログラムを実施します。(知識・理解)
- 5 臨床・臨地実習は、指導教員および実習指導者から助言を受けながら知識や技能を深め、また、小グループでのグループ学修により他者の意見も聞き、考えを広げ、専門知識を活用した問題発見や問題解決の方法の修得を図ります。(知識・理解・技能、思考力・判断力・表現力、態度・主体性)

(教育評価)

- 1 履修した各講義や実習科目においては、シラバスに明記された評価方法に従い、学期末毎の学修到達度の評価を行います。不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。
- 2 各年次において、修得すべき全単位を取得した場合を進級とします。
- 3 3年次臨床・臨地実習の期間に、身に付けるべき能力の修得について評価します。臨床・臨地実習試験の不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。
- 4 3年次期末に、それまでの専門基礎分野および専門分野の修得を確認する「卒業試験」を行います。不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

本学科では、建学の精神を基本理念とし、下記(I)の目指すべき人物像に向けて、本学の学位プログラムの課程を修め、すべての単位取得を充たした上で、医療・保健・福祉を取り巻く環境の変化に対応した専門知識・技術を修得し、下記(II)の能力を身につけた者に卒業認定を行います。

I 目指すべき人物像

豊かな教養と人間性を持ち、口腔保健の専門性を発揮するとともに、多職種と協働、連携し、歯科衛生士のリーダーとして活躍できる人物。

II 修得すべき能力

(知識・理解)

- 1 歯科衛生士として豊かな教養と人間性を持ち、基本的な医療・保健・福祉の知識を体系的に理解し、多様な対象者を支援することができる。

(思考力・判断力)

- 2 多様な情報や知識を論理的に分析、考察することができる。
- 3 科学的思考力を持ち、口腔保健活動における問題を発見・解決することができる。

(態度・主体性)

- 4 医療人としての自覚と倫理観を備えている。
- 5 口腔の健康管理に関心を持ち、生涯にわたって学修を継続することができる。
- 6 自己管理能力や主体性を発揮し、社会や他者のために責任ある行動をとることができる。
- 7 国際交流にも視点をおいた多様な対象者に対して幅広いコミュニケーションを図ることができる。

(技能、表現力)

- 8 根拠や理論に基づいた口腔保健管理のための知識や技能を活用し、対象者の生活の質(QOL)の向上を図ることができる。

別表 I 歯科衛生学科 (1・2年)

科目		科目番号	時間数	単位	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	
基礎分野	科学的思考の基盤	生物概論 I	DH011001	30	1	30					
		情報処理概論 I	DH011002	18	1		18				
		情報処理概論 II	DH021003	18	1			18			
		情報処理実習 I	DH011004	42	1		42				
		情報処理実習 II	DH021005	42	1			42			
	人間と社会生活の理解	経済学	DH021011	30	1			30			
		英語 I	DH011012	60	2	30	30				
		英語 II	DH021013	30	1			30			
		キャリアデザイン	DH021014	20	1				20		
		健康生理学 I	DH011015	30	1	30					
		健康生理学 II	DH011016	30	1		30				
		解剖学	DH011101	30	2	30					
専門基礎分野	人体の構造と機能	全身疾患の病態・生理学	DH021102	30	2			30			
		口腔解剖学・組織発生学 I	DH011111	30	2	30					
	歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学・組織発生学 II	DH011112	30	1		30				
		口腔生理学	DH011113	30	2	30					
	7	口腔生化学	DH011114	30	2		30				
		口腔病理学	DH011121	30	2		30				
	疾病の成り立ちと回復の促進	口腔微生物学	DH011122	30	2	30					
		歯科薬理学	DH011123	30	2		30				
	歯・口腔の健康と予防に関する	口腔衛生学 I	DH011131	30	2	30					
		口腔衛生学 II	DH011132	30	2		30				
	人間と社会の仕組み	歯科衛生統計	DH031133	18	1				18		
		衛生学・公衆衛生学	DH021134	30	2			30			
26	衛生行政	DH031135	18	1					18		
	社会福祉	DH031136	18	1					18		
専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	DH011201	30	1	30					
		看護学総論	DH021202	30	1			30			
	臨床歯科医学	歯科臨床概論	DH011211	30	1	30					
		歯科保存修復・歯内治療学	DH011212	30	1		30				
		歯周病治療学	DH021213	30	1			30			
		歯科補綴学	DH011214	30	1		30				
		口腔外科学	DH011215	30	1		30				
		小児歯科学	DH011216	30	1		30				
		矯正歯科学	DH011217	30	1		30				
		高齢者・障害者歯科学	DH021218	30	1			30			
		歯科麻酔学・歯科放射線学	DH021219	30	1				30		
		歯科予防処置論	歯科予防処置論(講義) I	DH011221	20	1	20				
	歯科予防処置論(講義) II		DH021222	18	1			18			
	歯科予防処置実習 I		DH011223	40	1	40					
	歯科予防処置実習 II		DH011224	40	1		40				
	歯科予防処置実習 III		DH021225	40	1			40			
	歯科予防処置実習 IV		DH021226	80	2			80			
	歯科予防処置実習 V		DH021227	40	1				40		
	歯科保健指導論		DH021227	40	1				40		
	歯科保健指導論	歯科保健指導論(講義) I	DH021231	20	1			20			
		歯科保健指導論(講義) II	DH021232	18	1				18		
		栄養学	DH021233	30	1			30			
		食育	DH021234	24	1				24		
		歯科保健指導実習 I	DH011235	30	1	30					
		歯科保健指導実習 II	DH011236	30	1		30				
		歯科保健指導実習 III	DH021237	30	1			30			
歯科保健指導実習 IV		DH021238	30	1				30			
歯科診療補助論	歯科診療補助論(講義) I	DH011241	20	1	20						
	歯科診療補助論(講義) II	DH021242	24	1			24				
	歯科材料学	DH011243	30	1	30						
	歯科診療補助実習 I	DH011244	40	1	40						
	歯科診療補助実習 II	DH011245	40	1		40					
	歯科診療補助実習 III	DH021246	40	1			40				
	歯科診療補助実習 IV	DH021247	40	1				40			
口腔・全身介護演習	DH021251	80	2				80				
臨床・臨地実習	臨床実習(含口腔介護施設実習)	DH031261	900	20					450	450	
	口腔保健テーマ別講義	DH031271	60	2						60	
	卒業業務研究	DH031272	50	2					30	20	
	必修合計		2908	98	480	530	480	354	498	566	
選択必修分野	コミュニケーションスキル*	DH022301	30	2				30			
	接遇*	DH022302	30	2				30			
	中国語**	DH022303	30	2				30			
	韓国語**	DH022304	30	2				30			
	物理学***	DH012305	18	1	18						
	化学***	DH012306	18	1	18						
	心理学****	DH022307	30	2			30				
倫理学****	DH022308	30	2			30					
選択合計		108	7	18	0	30	60	0	0		
総計		3016	105	498	530	510	414	498	566		
科目別	介護研修	4	介護研修****	DH043401	131.5	4		131.5			

講義15時間～30時間を1単位、実習30時間～45時間を1単位とする。
 *コミュニケーションスキルまたは接遇を選択 **中国語または韓国語を選択
 物理学または化学を選択 *心理学または倫理学を選択
 *****介護研修は全学年選択可能(自由科目(卒業要件外科目))

福岡医療短期大学試験、 成績の評価及び進級に関する規則

(平27.4.1適用)

(試験)

- 第1条 試験は定期試験、追試験、再試験及び卒業試験とする。ただし、必要に応じ随時に試験を行うことがある。
- 2 定期試験は、学期末又は学年末に各授業科目について行う。
 - 3 追試験は、病気その他やむを得ない事由により定期試験を受けることができなかった者に対し当該試験科目について行う。
 - 4 再試験は、定期試験において不合格となった試験科目のある者（当該試験科目について）及び卒業試験に不合格となった者に対し、必要がある場合行う。
 - 5 卒業試験は、学則第13条に定める別表Ⅰ、Ⅱの教育課程を履修した者に対して行う。

(試験方法)

- 第2条 試験は、筆記又は口頭による質疑応答又は実習、実技の審査によるほか、レポート、論文の審査又は平常の成績をもって替えることができる。

(受験資格)

- 第3条 次の各号の一に該当する者は試験を受けることができない。ただし、相当の事由がある場合は、仮に試験を受けさせることができる。

- (1) 各授業科目について、出席日数が授業時間数の3分の2に達しない者及び実習については5分の4に満たない者
- (2) 学則第33条の規定により現に懲戒（停学）処分中の者
- (3) 学生納付金及び追試験又は再試験の場合における受験料を未納の者
- (4) その他短大学長の指定した者

(受験者心得)

- 第4条 受験者は次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

- (1) 試験開始後20分経過した後は試験場に入る（受験する）ことを認められないこと及び試験開始後30分までは退場を認められないこと。
- (2) 試験場においては、必ず学生証（追・再試験の場合は追・再試験受験票、以下本号において同じ）を机上に提示すること（当日学生証を忘れた者は、あらかじめ事務室で臨時学生証の交付を受けること）。
- (3) 試験場においては、指定の場所に着席すること。
- (4) 試験場においては、指定ある場合を除きノート、教科書、参考書等を身辺に置かないこと。
- (5) 試験場においては、監督者の指示に従うこと。
- (6) 答案用紙は白紙でも学籍番号、氏名を明記し、提出すること。
- (7) 試験に関する掲示に注意すること。
- (8) 追・再試験を受けようとする者は、短大学長の許可を受け、受験料を納付し追・再試験受験票の交付を受けること。

(試験中の不正行為)

第5条 試験中不正行為を認めるときは、監督員は直ちに答案を没収し、退場を命ずるとともに試験終了後速やかに短大学長に報告しなければならない。

2 不正行為を行った者に対しては、当該学期の全受験科目の評価を無効とし、かつ、学則第33条の規定により懲戒処分を行うものとする。

(成績の評価)

第6条 試験の成績は、優・良・可・不可の評語をもって表わし、可以上を合格とする。ただし、再試験においては可又は不可とし、卒業試験においては合又は否とする。

(進級及び留級)

第7条 学則第16条の規定により、当該学年において修得すべき全授業科目に合格した場合は進級とし、不合格の科目がある場合は、短大学長が進級又は留級を決定する。

(留級者)

第8条 留級者は原則として当該学年において修得すべき全授業科目のうち特に免除された科目のほかの授業に出席し、試験を受けなければならない。

福岡医療短期大学試験、 成績の評価に関する細則

(平31.4.1適用)

試験、成績の評価等の取り扱いについて

1 試験の成績における評語の点数区分等

試験の成績における各評語の点数区分は次のとおりとする。

なお、「優、良、可、不可」はそれぞれ「A、B、C、D」で表すこともできる。

(1) 定期試験等

優	(A)	100点～80点
良	(B)	79点～70点
可	(C)	69点～60点
不可	(D)	59点～0点

(2) 卒業試験等

合	100点～70点
否	69点～0点

2 追・再試験の採点方法

(1) 追試験

点数は最高100点とする。

(2) 再試験

点数は最高60点とする。ただし、卒業試験の再試験は最高70点とする。

3 再試験欠席者の成績評価

(1) 再試験欠席者の成績(学年成績)の評価は、通常、定期試験の成績をもって代えるものとするが、これによることなく、担当教員が必要に応じてその他の方法により評価を行うことができる。

(2) 再試験の成績報告書において欠席の旨表示された者については、定期試験の成績をもってその学年成績とする。

福岡医療短期大学 GPA に関する実施要項

(令5.4.1適用)

(目的)

第1条 この要項は、福岡医療短期大学（以下「本学」という。）におけるグレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という。）に関し必要な事項を定め、教育課程における学修到達度を客観的に評価することにより、大学教育の質を保証するとともに、学修支援等に資することを目的とする。

(評価等)

第2条 学生が履修した授業科目のグレード・ポイント（評価により与えられる数値。以下「GP」という。）は、次表のとおりとする。

区分	グレード	1単位あたりのGP	成績評価基準	学修成果の達成度
合格	S	4	100点～90点	基準を大きく超えて優秀である
	A	3	89点～80点	基準を超えて優秀である
	B	2	79点～70点	望ましい基準に達している
	C	1.5	69点～60点	単位を認める基準に達している
	C*	1	再試験合格60点	単位を認める最低限の基準には達している
不合格	D	0	59点～0点	基準を下回っている

(GPAの算定)

第3条 各学期のGPA（以下「学期GPA」という。）及び累積のGPA（以下「累積GPA」という。）は、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第一位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

学期GPA =

$$\frac{\text{当該学期の履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数}}{\text{当該学期の履修登録した科目の総単位数}}$$

累積GPA =

$$\frac{\text{全学期の履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数}}{\text{修得した科目の総単位数}}$$

(対象授業科目等)

第4条 本学で進級あるいは卒業により認定されたすべての授業科目をGPAの対象授業科目とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の場合は、GPAの対象外科目とする。

- (1) 選択科目で必要単位数を超えて取得した科目
- (2) 編入学または転入学等の単位認定科目
- (3) 本学入学前に修得した単位認定科目
- (4) その他教授会で認めたGPA算出除外科目

(GPAの公表)

第5条 GPAは、成績配付時に学生へ公表する。

(GPAの活用)

第6条 学期GPAは、次のとおり活用するものとする。

- (1) 1つの学期（1 Semester）のGPAが1.5未満となった場合は、学生本人を呼び出し、学年担任による注意と指導を行う。
- (2) GPA 1.5未満が2学期（2 Semester）連続した場合は、学生本人及び保証人（父母又はこれに準ずる者）に対して学科長と学年担任による面談を実施し、学年担任と助言教員等が継続的な学修支援等を行う。
- (3) GPA 1.5未満が3学期（3 Semester）連続した場合は、学生本人及び保証人（父母又はこれに準ずる者）に対して学科長と学年担任による面談を実施し、退学するか、就学を継続するか意思確認を行う。就学意思がある場合には、学年担任及び助言教員等が継続的な学修支援・生活指導等を行う。なお、面談に応じない、または面談の結果、学修意欲の改善が著しく困難と判断された場合は、退学勧告を行うことができる。

2 累積GPAは、次のとおり活用するものとする。

- (1) 学生の主体的な学修を促進するための指標
 - (2) 学生の学業成績を総合的に判断する指標
 - (3) 特別奨学生や奨学金等の算定基礎資料
 - (4) 学生の推薦や就職活動等にかかる資料
- (その他)

第7条 この要項に定めるもののほか、GPAの取扱いに関し必要な事項は、学務・FD委員会が別に定める。

福岡医療短期大学出欠の確認に関する細則

(平25.4.1適用)

- 1 福岡医療短期大学出欠の確認に関する細則は、次のとおりとする。
- 2 出席の確認は各授業開始時に行う。
- 3 出席確認時にあらかじめ決められた座席に着席していない者は欠席とする。
- 4 授業担当者が正当な理由がないと判断した授業途中の退室は欠席とする。
- 5 授業中の携帯電話の使用は禁止する。使用した者はその授業を欠席とし、退室を命じる。
- 6 法令、天災その他本人の責によらない場合には、速やかに届け出ること。

シラバス（授業要綱）

科目ナンバリングのコード配分規則（歯科衛生学科：科目群）

（例）DH011001 『8桁』の科目番号

DH 01 1 001 ⇒ 『生物学』

	学部	学年水準	履修区分	通し番号
（例）	DH （歯科衛生学科）	01 （第1年次）	1 （必修）	001 （先頭の科目）
詳細	別表1	別表2	別表3	別表4

別表1〔学科〕

識別文字	学科名等	英語標記
DH	歯科衛生学科	Dental Hygiene
HP	専攻科	Dental Hygiene Postgraduate Course

別表2〔学年水準〕

番号	付加情報	番号	付加情報
00	導入レベル	21	専攻1年
01	1年		
02	2年		
03	3年		
04	1～3年		

別表3〔履修区分〕

番号	付加情報
0	なし
1	必修
2	選択必修
3	自由

別表4-1〔通し番号〕歯科衛生学科

番号	科目分野	科目群
001～100	基礎分野	科学的思考の基盤 001～ 人間と社会生活の理解 011～
101～200	専門基礎分野	人体の構造と機能 101～ 歯・口腔の構造と機能 111～ 疾病の成り立ちと回復の促進 121～
201～300	専門分野	歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み 131～ 歯科衛生士概論 201～ 臨床歯科医学 211～ 歯科予防処置論 221～ 歯科保健指導論 231～ 歯科診療補助論 241～ 口腔・全身介護演習 251～ 臨床・臨地実習 261～ 総括 271～
301～400	選択必修分野	301～
401～500	自由科目	介護研修 401～

別表4-2〔通し番号〕専攻科口腔保健衛生学専攻

番号	科目分野
001～100	専攻外科目
101～200	関連科目
201～300	専門科目

歯科衛生学科

Department of Dental Hygiene

■学習・教育目標

近年、医療・保健・福祉を取り巻く環境の変貌は著しく、それらの高度化・専門化が進行している。これに伴い、歯科医療チームの一員としての歯科衛生士の役割はますます重要視されるとともに、指導的役割を果たすことのできる優秀な人材の育成と高齢社会に対応した歯科衛生士が強く求められている。また本学は、キャンパス内に福岡歯科大学および同大学医科歯科総合病院、福岡看護大学、介護老人保健施設、介護老人福祉施設を擁する福岡学園のグループ校であり、医療・保健・福祉教育に絶好の環境にある。これらの施設での臨床・臨地実習を通じて、医療人としての自覚と倫理観を持ち、地域歯科保健のリーダーとなり、また「口腔・全身介護」を実践できる歯科衛生士の養成を目標とする。

科目領域の学習・教育目標

歯
科
衛
生
学
科

基礎分野

生命科学および情報処理の理解を深め、豊かな感性や教養を持った歯科衛生士を目指す。また、国際交流にも視点をおいた対人コミュニケーションを身につける。「選択必修：物理学/化学」

人間と社会生活の理解

科学的思考の基盤

専門基礎分野

高度化・専門化する口腔医学に対応するために、歯科衛生士として必要な基礎医学を系統立てて理解する。また、疾病の予防と回復過程の知識を身につけ、口腔のセルフケア能力を高めるための教育的役割や、地域における関係諸機関等との調整能力を養う。

人体の構造と機能

歯・口腔の構造と機能

疾病の成り立ちと回復の促進

歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み

専門分野

生涯を通じた継続的な口腔保健管理を理解し、疾患やライフステージ別の予防法や予防システムの構築を学ぶとともに、多様な生活環境や全身状態にある個人および集団に対して、専門的立場から歯科保健指導ができる能力を身につける。また、歯科医療チームの一員として歯科医師の診療の補助ができる歯科衛生士を目指す。さらに、口腔および全身介護の実践で必要となる生活介護や身体介護を、根拠に基づいた技術により修得し、超高齢社会に対応した多様な情報・知識を身につける。臨床・臨地実習は福岡歯科大学医科歯科総合病院での臨床実習を通して、医療人としての自覚と倫理観を備え、多職種と連携して専門性を発揮できる歯科衛生士を目指す。また、キャンパス内の介護保険施設での臨地実習を通して、高齢者や障害者の「口腔および全身介護」を実践できる歯科衛生士を目標とする。

歯科衛生士概論

臨床歯科医学

歯科予防処置論

歯科保健指導論

歯科診療補助論

口腔・全身介護演習

臨床・臨地実習

総括

選択必修分野

すべてのライフステージにおける口腔保健のサポートに必要な豊かな人間性と職業倫理観を身につける。また、国際交流にも視点をおいた幅広いコミュニケーション能力を身につけ、研究者として国際的にも活躍できる歯科衛生士を目指す。

自由科目

口腔介護の実践で必要となる生活介護を、根拠に基づいた技術により習得し、超高齢社会に対応した多様な情報・知識を身につける。

1 年 次

前期

後期

DH011012 英語 I	②		
DH011015 健康生理学 I	①	DH011016 健康生理学 II	①
DH011001 生物学	①	DH011002 情報処理概論 I	①
DH012305 物理学	①	DH011004 情報処理実習 I	①
DH012306 化学	①		
DH011101 解剖学	②		
DH011111 口腔解剖学・組織発生学 I	②	DH011112 口腔解剖学・組織発生学 II	①
DH011113 口腔生理学	②	DH011114 口腔生化学	②
DH011122 口腔微生物学	②	DH011121 口腔病理学	②
		DH011123 歯科薬理学	②
DH011131 口腔衛生学 I	②	DH011132 口腔衛生学 II	②
DH011201 歯科衛生士概論	①		
DH011211 歯科臨床概論	①	DH011212 歯科保存修復・歯内治療学	①
		DH011214 歯科補綴学	①
		DH011215 口腔外科学	①
		DH011216 小児歯科学	①
		DH011217 矯正歯科学	①
DH011221 歯科予防処置論(講義) I	①		
DH011223 歯科予防処置実習 I	①	DH011224 歯科予防処置実習 II	①
DH011235 歯科保健指導実習 I	①	DH011236 歯科保健指導実習 II	①
DH011241 歯科診療補助論(講義) I	①		
DH011243 歯科材料科学	①		
DH011244 歯科診療補助実習 I	①	DH011245 歯科診療補助実習 II	①

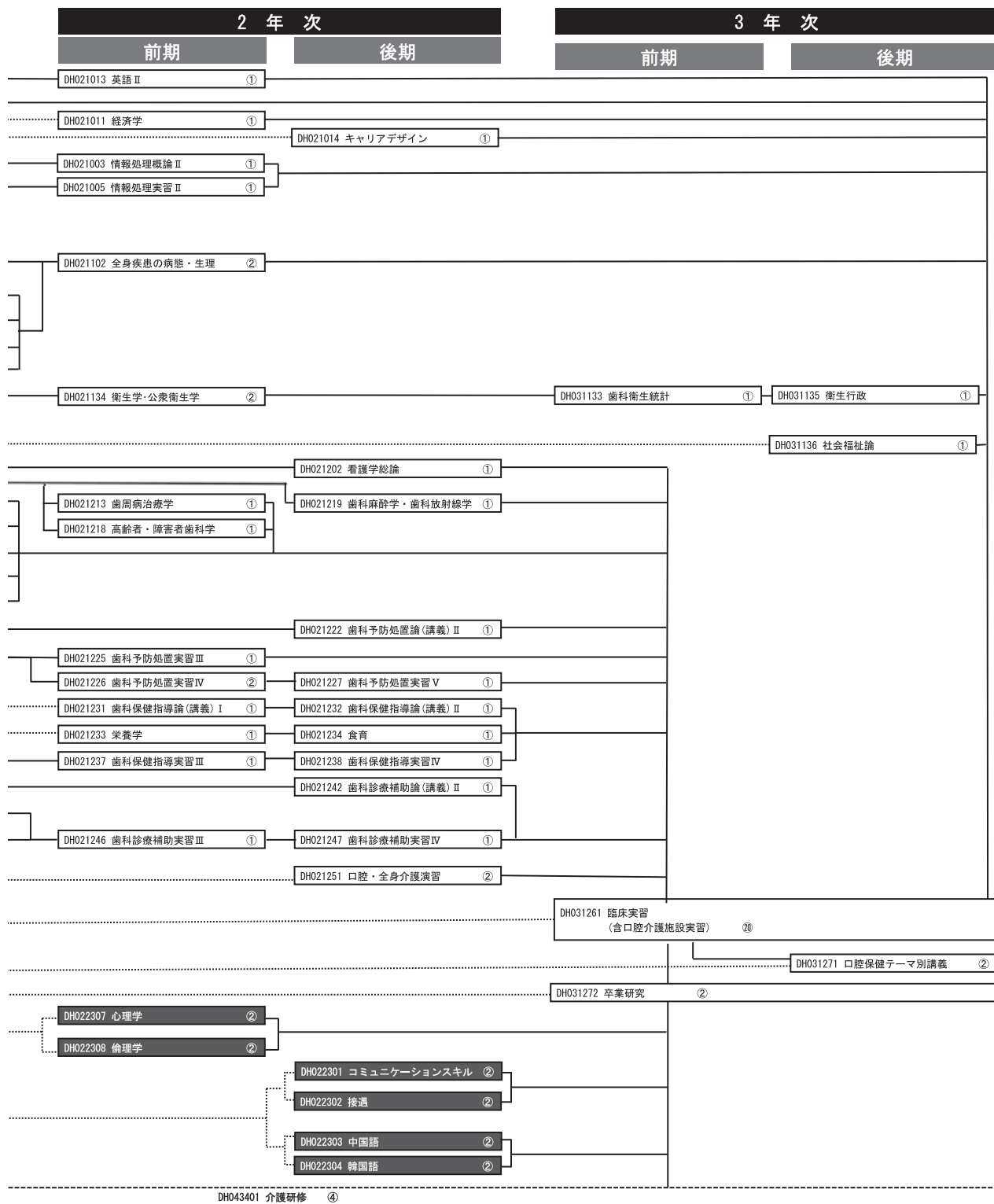
必修科目

選択科目

自由科目

○の中の数字は単位数

■キーワード
 歯科予防処置
 歯科診療補助
 歯科保健指導
 口腔介護



2 年 次

基礎分野科目

情報処理概論Ⅱ	〔DH021003〕	71
情報処理実習Ⅱ	〔DH021005〕	73
経済学	〔DH021011〕	76
英語Ⅱ	〔DH021013〕	78
キャリアデザイン	〔DH021014〕	80

専門基礎分野科目

全身疾患の病態・生理	〔DH021102〕	83
衛生学・公衆衛生学	〔DH021134〕	86

専門分野科目

看護学総論	〔DH021202〕	89
歯周病治療学	〔DH021213〕	91
高齢者・障害者歯科学	〔DH021218〕	95
歯科麻酔学・歯科放射線学	〔DH021219〕	97
歯科予防処置論（講義）Ⅱ	〔DH021222〕	100
歯科予防処置実習Ⅲ	〔DH021225〕	102
歯科予防処置実習Ⅳ	〔DH021226〕	105
歯科予防処置実習Ⅴ	〔DH021227〕	109
歯科保健指導論（講義）Ⅰ	〔DH021231〕	112
歯科保健指導論（講義）Ⅱ	〔DH021232〕	114
栄養学	〔DH021233〕	116
食育	〔DH021234〕	118
歯科保健指導実習Ⅲ	〔DH021237〕	120
歯科保健指導実習Ⅳ	〔DH021238〕	123
歯科診療補助論（講義）Ⅱ	〔DH021242〕	125
歯科診療補助実習Ⅲ	〔DH021246〕	128
歯科診療補助実習Ⅳ	〔DH021247〕	131
口腔・全身介護演習	〔DH021251〕	133

選択必修分野科目

コミュニケーションスキル	〔DH022301〕	138	
接	遇	〔DH022302〕 140	
中	国	語	〔DH022303〕 143
韓	国	語	〔DH022304〕 145
心	理	学	〔DH022307〕 148
倫	理	学	〔DH022308〕 150

自由科目

介	護	研	修	〔DH043401〕	152
---	---	---	---	------------	-------	-----

情報処理概論Ⅱ

開講時期： 2年次前期
 授業時間数： 9コマ；18時間 1単位
 受験資格要件： 2/3（6コマ）以上の出席
 科目番号： DH021003
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 内田 竜司

1. 一般目標

本講義において、歯科衛生士に必要な情報通信技術（ICT）、数理・データサイエンス・AIを活用する基本的知識、技能、態度を修得し、これらが示唆する分析結果を主体的に使いこなし、健康や生活に関する問題に対し、的確な判断・解決ができる学術的・実践的能力を身に付けることを目指す。また、医療人として必須となるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を目的として、協働で課題を解決することを体験しながら、自らの専門領域を発展させる能力を身に付ける。

2. 教育方法

スライドによる解説を中心に、内容に応じて双方向学修形式の講義を行う。

3. 教育教材

PC、プリント、PDFファイル、動画

4. 学修方法

授業中に配付資料の内容を理解し、要点や補足を追記すること。講義時間内に実施する確認テスト（Googleフォーム等）により、講義内容の理解度を確認する。また、授業で提示する演習課題に取り組み、疑問点は随時、質問すること。授業後は、講義・実習内容の確認をその日のうちに行うこと。また、本講義を理解するうえで、情報処理概論Ⅰ・情報処理実習Ⅰで得た知識・技能・態度が必須であり、各自不十分な部分について復習すること。

【単位修得に必要な授業外学修時間：27時間】

5. 評価方法

[形成的評価] 講義時間内で実施する確認テストにより講義内容の理解度を確認する。また、授業で提示する演習課題に取り組み、随時、指導する。

[フィードバック] 講義時間内で実施する確認テストは、回答終了時に得点が表示され、理解度を自己確認できる。また、演習課題の模範解答例を講義・実習時に提示するので、自己評価し、修正する。

[総括的評価] 講義時間内で実施する確認テストおよびメールに添付して提出する演習課題について、提出方法を含め評価し、集計後に通知する。

6. 教科書・テキスト

プリント、PDFファイル

7. 参考書

なし

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	4/10 (金) 1限	内田竜司	オリエンテーション ユニット1 プレゼンテーション基礎 [講義]	1) 効果的なプレゼンテーション技法と、建設的なフィードバック法を修得する。	1) 上手なプレゼンテーションのポイントを説明できる。 2) フィードバックのポイントを説明できる。	プレゼンテーション法 フィードバック法 3時間	認知 (解釈)
2	4/24 (金) 1限	内田竜司	ユニット2 企画立案 [講義]	1) 企画を立案する手順や企画書にまとめるポイントを修得する。	1) 企画を立案する必要性を説明できる。 2) 企画を立案する手順を説明できる。 3) 企画書にまとめるポイントを説明できる。	企画の立案 3時間	認知 (解釈)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
3	5/1 (金) 1限	内田竜司	ユニット3 プレゼンテー ション基礎 [講義]	1) 効果的なプレゼン テーション技法と、建 設的なフィードバ ック法を修得する。	1) 上手なプレゼンテー ションのポイントを説 明できる。 2) フィードバックのポイントを説明できる。	フィードバ ック法 3時間	認知 (想起)
4	5/8 (金) 1限	内田竜司	ユニット4 プレゼンテー ション基礎 [講義]	1) 効果的なプレゼン テーション技法と、建 設的なフィードバ ック法を修得する。	1) 上手なプレゼンテー ションのポイントを説 明できる。 2) フィードバックのポイントを説明できる。	プレゼンテ ーション資 料 3時間	認知 (解釈)
5	5/15 (金) 1限	内田竜司	ユニット5 情報収集 [講義]	1) レポート作成に必要 な情報収集方法を修 得する。	1) 必要な情報の収集方法について説明でき る。 2) 文献の検索方法を説明できる。	文献引用 課題の理解 3時間	認知 (解釈)
6	5/22 (金) 1限	内田竜司	ユニット6 情報収集 [講義]	1) レポート作成 (医学 系) に必要な情報収集 方法を修得する。	1) 必要な情報の収集方法について説明でき る。 2) 文献の検索方法を説明できる。	文献引用 課題の理解 3時間	認知 (解釈)
7	5/29 (金) 1限	内田竜司	ユニット7 レポート作成1 [講義]	1) レポートの作成方法 を修得する。	1) レポートの構成について説明できる。 2) 参考文献の引用方法について説明できる。	文献引用 課題の理解 3時間	認知 (解釈)
8	6/3 (水) 1限	内田竜司	ユニット8 データ統計の基 礎1 [講義]	1) データ統計に必要な 統計的手法を修得す る。	1) 基本的な統計学の用語について説明でき る。 2) データのわかりやすい表現方法について説 明できる。	文献引用 レポート内 容の理解 3時間	認知 (解釈)
9	6/5 (金) 2限	内田竜司	ユニット9 データ統計の基 礎2 [講義]	1) データ統計に必要な 統計的手法を修得す る。	1) 基本的な統計学の用語について説明でき る。 2) 基本統計量について説明できる。	統計学の用 語 3時間	認知 (想起)

情報処理実習Ⅱ

開講時期： 2年次前期
 授業時間数： 21コマ；42時間1単位
 受験資格要件： 4/5（17コマ）以上の出席
 科目番号： DH021005
 評価責任者： 古野みはる
 授業担当者： 内田 竜司

1. 一般目標

本講義において、歯科衛生士に必要な情報通信技術（ICT）、数理・データサイエンス・AIを活用する基本的知識、技能、態度を修得し、これらが示唆する分析結果を主体的に使いこなし、健康や生活に関する問題や歯科衛生士の現状と課題に対し、的確な判断・解決ができる学術的・実践的能力を身に付けることを目指す。また、医療人として必須となるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を目的として、協働で課題を解決することを体験しながら、自らの専門領域を発展させる能力を身に付ける。

2. 教育方法

スライドによる解説講義を踏まえた演習課題への取り組みを中心に、内容に応じて双方向学修形式の講義・実習を行う。

3. 教育教材

PC、プリント、PDFファイル、動画

4. 学修方法

講義中はデモ画面を注視すること。授業にはUSBメモリーを必ず持参し、授業で作成した提出課題のファイルを保存しておくこと（演習課題の模範解答例を講義・実習時に提示するので、自己評価し、修正する）。日頃、パソコンにできるだけ触れること。また、本講義を理解するうえで、情報処理概論Ⅰ・情報処理実習Ⅰで得た知識・技能・態度が必須であり、各自不十分な部分について復習すること。

【単位修得に必要な授業外学修時間：21時間】

5. 評価方法

〔形式的評価〕講義時間内で実施する確認テストにより講義内容の理解度を確認する。また、授業で提示する演習課題に取り組み、随時、指導する。

〔フィードバック〕講義時間内で実施する確認テストは、回答終了時に得点が表示され、理解度を自己確認できる。また、演習課題の模範解答例を講義・実習時に提示するので、自己評価し、修正する。

〔総括的評価〕講義時間内で実施する確認テストおよびメールに添付して提出する演習課題について、提出方法を含め評価し、集計後に通知する。

6. 教科書・テキスト

プリント、PDFファイル

7. 参考書

なし

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	4/10 (金) 2限	内田竜司	ユニット1 プレゼンテーション基礎 [実習]	1) 効果的なプレゼンテーション技法と、建設的なフィードバック法を修得する。	1) 決められた時間内でプレゼンテーションができる。 2) 建設的なフィードバックを実践する。	プレゼンテーション法 フィードバック法 1時間	認知 (問題解決) 情意 (反応)
2	4/24 (金) 2限	内田竜司	ユニット2 企画立案 [実習] [相互学修]	1) 企画を立案する手順や企画書にまとめるポイントを修得する。	1) 企画を立案できる。 2) 企画書にまとめることができる。 3) 立案した企画のプレゼンテーションができる。	企画書 1時間	認知 (問題解決) 情意 (反応)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
3	5/1 (金) 2限	内田竜司	ユニット3 プレゼンテーション基礎 [実習]	1) 効果的なプレゼンテーション技法と、建設的なフィードバック法を修得する。	1) 決められた時間内でプレゼンテーションができる。 2) 建設的なフィードバックを実践する。	フィードバック法 1時間	認知 (解釈)
4	5/8 (金) 2限	内田竜司	ユニット4 レポート作成1 [実習]	1) 効果的なプレゼンテーション技法と、建設的なフィードバック法を修得する。	1) 決められた時間内でプレゼンテーションができる。 2) 建設的なフィードバックを実践する。	プレゼンテーション資料 1時間	認知 (問題解決)
5	5/15 (金) 2限	内田竜司	ユニット5 情報収集 [実習]	1) レポート作成に必要な情報収集方法を修得する。	1) 必要な情報を収集することができる。 2) 文献検索を使って必要な医学論文を探すことができる。	レポート作成 1時間	認知 (問題解決)
6	5/22 (金) 2限	内田竜司	ユニット6 情報収集 [実習]	1) レポート作成(医学系)に必要な情報収集方法を修得する。	1) 必要な情報を収集することができる。 2) 文献検索を使って必要な医学論文を探すことができる。	レポート作成 1時間	認知 (問題解決) 情意 (反応)
7	5/29 (金) 2限	内田竜司	ユニット7 レポート作成1 [実習]	1) レポートの作成方法を修得する。	1) レポートを作成できる。 2) 参考文献リストを作成できる。	レポート作成 1時間	認知 (問題解決) 情意 (反応)
8	6/3 (水) 2限	内田竜司	ユニット8 データ統計の基礎1 [実習]	1) データ統計に必要な統計的手法を修得する。	1) 基本的な統計量を求めることができる。 2) データをわかりやすく表現できる。	基本的な統計量 1時間	認知 (問題解決) 情意 (内面化)
9	6/5 (金) 2限	内田竜司	ユニット9 データ統計の基礎2 [実習]	1) データ統計に必要な統計的手法を修得する。	1) 基本的な統計量を求めることができる。 2) データをわかりやすく表現できる。	基本的な統計量を用いたデータ表現 1時間	認知 (解釈)
10	6/12 (金) 1限	内田竜司	ユニット10 データ統計の基礎3 [講義]	1) データ統計に必要な統計的手法を修得する。	1) 度数分布表とヒストグラムについて説明できる。 2) 散布図について説明できる。	度数分布表とヒストグラム 1時間	認知 (問題解決)
11	6/12 (金) 2限	内田竜司	ユニット10 データ統計の基礎3 [実習]	1) データ統計に必要な統計的手法を修得する。	1) 度数分布表とヒストグラムを作成できる。 2) 散布図を作成できる。	散布図 1時間	情意 (反応)
12	6/19 (金) 1限	内田竜司	ユニット11 データ分析1 [講義]	1) データから情報を取り出すための分析方法を修得する。	1) 分析方法について説明できる。 2) データの活用について説明できる。	データの情報化 1時間	認知 (問題解決)
13	6/19 (金) 2限	内田竜司	ユニット11 データ分析1 [実習]	1) データから情報を取り出すための分析方法を修得する。	1) データを分析できる。 2) 分析結果を解釈し、課題を特定することができる。 3) 分析結果についてプレゼンテーションができる。	データ分析方法 1時間	認知 (内面化)
14	6/26 (金) 1限	内田竜司	ユニット12 データ分析2 [講義]	1) データから情報を取り出すための分析方法を修得する。	1) 分析方法について説明できる。 2) データの活用について説明できる。	データ活用方法 1時間	認知 (問題解決)

回	授業日	授 業 担 当 者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
15	6/26 (金) 2限	内田竜司	ユニット12 データ分析2 [実習]	1) データから情報を取り出すための分析方法を修得する。	1) データを分析できる。 2) 分析結果を解釈し、課題を特定することができる。 3) 分析結果についてプレゼンテーションができる。	分析結果のプレゼンテーション 1時間	情意 (内面化)
16	7/3 (金) 1限	内田竜司	ユニット13 情報リテラシーと 情報セキュリティ [講義]	1) 情報リテラシーを身に付ける。 2) 情報セキュリティ対策を修得する。	1) 情報リテラシーについて説明できる。 2) 情報セキュリティについて説明できる。	情報リテラシー 1時間	認知 (問題解決)
17	7/3 (金) 2限	内田竜司	ユニット13 情報リテラシーと 情報セキュリティ [実習]	1) 情報リテラシーを身に付ける。 2) 情報セキュリティ対策を修得する。	1) 情報リテラシーについて実践できる。 2) 情報セキュリティについて実践できる。	情報セキュリティ 1時間	情意 (内面化)
18	7/17 (金) 1限	内田竜司	ユニット14 医療・ヘルスケア 分野におけるIoT [講義]	1) 医療・ヘルスケア分野で活用されているIoTについて理解する。	1) IoTについて説明できる。 2) 医療・ヘルスケア分野で活用されているIoTについて説明できる。	IoT 1時間	認知 (問題解決)
19	7/17 (金) 2限	内田竜司	ユニット14 歯科医療提供体制 [実習]	1) 医療・ヘルスケア分野で活用されているIoTについて理解する。	1) IoTの活用について説明できる。 2) 医療・ヘルスケア分野で活用されているIoTを活用できる。	医療・ヘルスケア分野で活用されているIoT 1時間	情意 (内面化)
20	7/28 (火) 3限	内田竜司	ユニット15 プロフェッショナル リズム [講義]	1) 歯科衛生士の現状と課題に関して収集した情報をもとに、テーマに関する考えをまとめ、パワーポイントを作成する。グループ内でプレゼンテーションを行い、協議を通して考察を深める。 2) 歯科衛生学科の学生としてプロフェッショナルリズムに基づいた学びの姿勢や日常生活の在り方を身に付ける。	1) 歯科衛生士の現状と課題についてデータを分析できる。 2) 分析結果を解釈し、課題を特定することができる。 3) 分析結果についてプレゼンテーションができる。 4) プロフェッショナルについて説明できる。 5) プロフェッショナルリズムについて説明できる。	プロフェッショナル 1時間	認知 (問題解決)
21	7/28 (火) 4限	内田竜司	ユニット15 歯科衛生課程 [実習]	1) 歯科衛生士の現状と課題に関して収集した情報をもとに、テーマに関する考えをまとめ、パワーポイントを作成する。グループ内でプレゼンテーションを行い、協議を通して考察を深める。 2) 歯科衛生学科の学生としてプロフェッショナルリズムに基づいた学びの姿勢や日常生活の在り方を身に付ける。	1) 歯科衛生士の現状と課題についてデータを分析できる。 2) 分析結果を解釈し、課題を特定することができる。 3) 分析結果についてプレゼンテーションができる。 4) 歯科衛生士の社会的使命について説明できる。 5) 歯科衛生士としてのプロフェッショナルリズムを実践できる。	プロフェッショナルリズム 1時間	情意 (内面化) 情意 (反応)

経済学

開講時期： 2 年次前期
 授業時間数： 15 コマ ; 30 時間 1 単位
 受験資格要件： 2/3 (10 コマ) 以上の出席
 科目番号： DH021011
 評価責任者： 古野 みはる
 担当教員： 新鞍 拓生

1. 一般目標

本講義では、まず経済学がどのような学問なのかという所からはじめる。様々な具体例を検討しつつ、社会の在り方を経済学の視点から捉え、ミクロ経済学についての教養を身に着ける。ミクロ経済学を理解することで、現代社会の時事問題から多様な情報、問題関心を引き出し、経済的側面から論理的かつ良識ある分析・考察ができる。

2. 教育方法

講義、アクティブラーニング

3. 教育教材・機材

テキスト、配布資料による講義、必要に応じて板書

4. 学修方法

事前にテキストを熟読し、問題意識をもって講義に臨むこと。講義 1 回あたり最低 60 分以上の事前・事後学習が望ましい。授業中は配布プリントの穴埋めを完成させること。事後学習は、テキストと配布プリントを参考に、復習を行い、また、次の授業で小テストがある場合は、その範囲を学習しておくこと。レポート課題の締め切りは守ること。本講義は、3 年次における臨床実習の患者・利用者の理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：15 時間]

5. 評価方法

[形成的評価] 確認テスト・レポート

[フィードバック] 不十分な部分についてコメントを付して返却し、場合によっては再提出を求める。

[総括的評価] 記述試験 (50%) ・確認テスト 2 回 (20%) ・レポート (10%) ・授業参加状況 (20%)

[フィードバック] 解答例を示し、答案を返却する。

6. 教科書・テキスト

『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門 ミクロ編』ティモシー・テイラー(著), 池上彰(著), 高橋璃子(翻訳)かんき出版, 2013 年。

7. 参考書

『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門 マクロ編』ティモシー・テイラー(著), 池上彰(著), 高橋璃子(翻訳)かんき出版, 2013 年。

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育目標 領域
1	4/14 (火) 2 限	新鞍	イントロダクション ユニット 1 経済学の考え方 経済学とは何か [講義]	1) 経済学の身につけ方 2) だまされないために 経済学を学ぶ 3) マクロ経済とミクロ 経済について	1) 経済学の重要性について理解できる。 2) マクロ経済とミクロ経済の違いが説明できる。	経済学全般について調べる。 (1 時間)	認知 (想起)
2	4/21 (火) 2 限	新鞍	ユニット 1 分業 需要と供給 [講義]	1) 分業の意味について知る 2) 需要と供給について知る	1) 分業について説明できる。 2) 需要と供給について説明できる。 3) 価格決定のメカニズムについて説明できる。	分業について調べる。 (1 時間)	認知 (解釈)
3	4/28 (火) 2 限	新鞍	ユニット 2 価格統制 [講義]	1) 価格統制の理解	1) 価格統制について家賃を例に説明することができる。 2) 価格統制の問題点について論じることができる。	価格統制について調べる。 (1 時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育目標 領域
4	5/12 (火) 2限	新鞍	ユニット2 価格弾力性 [講義]	1) 価格弾力性について理解する	1) 価格弾力性についてタバコ、ガソリン、コーヒーを例に説明することができる。 2) 需要と供給を用いて価格弾力性を説明することができる。	価格弾力性について調べる。 (1時間)	認知 (解釈)
5	5/19 (火) 2限	新鞍	ユニット2 労働市場 [講義]	1) 労働市場について理解する 2) 給与決定の仕組みを理解する	1) 労働市場について正しく説明することができる。 2) 現代の労働市場について論じることができる。 3) 給与決定の仕組みについて説明ができる。	労働市場について調べる。 (1時間)	認知 (解釈)
6	5/26 (火) 2限	新鞍	ユニット2 資本市場 [講義] [確認のテスト1]	1) 利子率の理解 2) 企業の資金調達を理解	1) 利子率について説明できる。 2) 企業の資金調達について説明できる。	資本市場について調べる。 (1時間)	認知 (解釈)
7	6/2 (火) 2限	新鞍	ユニット2 個人投資 [講義] [討論]	1) リスクの理解 2) 流動性の理解 3) 税金の理解	1) 個人投資について、リスクや流動性や税金などを理解したうえで、普通預金、MMF、定期預金、社債、株式、不動産、貴金属など適切な投資先について判断できる。	普通預金、定期預金、社債、株式、不動産、貴金属などの投資について調べる。 (1時間)	認知 (問題解決)
8	6/9 (火) 2限	新鞍	ユニット3 完全競争と独占 [講義]	1) 完全競争、独占、独占的競争、寡占についての理解。	1) 完全市場、独占、独占的競争、寡占について具体的な業種・企業名を挙げて説明できる。	独占について調べる。 (1時間)	認知 (解釈)
9	6/16 (火) 2限	新鞍	ユニット4 独占禁止法 [講義]	1) 独占禁止法についての理解。	1) 再販価格維持、排他的取引、抱き合わせ販売、略奪的価格設定について説明できる。 2) 独占禁止法の必要性について説明できる。	独占禁止法について調べる。 (1時間)	認知 (問題解決) 情意 (受入)
10	6/23 (火) 2限	新鞍	ユニット4 規制と規制緩和 負の外部性 [講義]	1) 総括原価方式についての理解。 2) 規制より技術競争の促進が有効な状況とは。 3) 規制の限界、私情原理による解決の理解。	1) 総括原価方式について説明できる。 2) インターネットの発展は何に支えられたか規制緩和の側面から説明できる。 3) 現代の環境問題について経済学の知見を使って自分の意見を述べるができる。	規制と規制緩和について調べる。 (1時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
11	6/30 (火) 2限	新鞍	ユニット4 負の外部性(続き) [講義] [レポート]	1) 規制の限界、市場原理による解決の理解。	1) 現代の環境問題について経済学の知見を使って自分の意見を述べるができる。	負の外部性について調べる。 (1時間)	認知 (問題解決) 情意 (受入)
12	7/7 (火) 2限	新鞍	ユニット4 正の外部性 [講義]	1) 知的財産権とは。 2) 知的財産権と外部性の関係。	1) 特許権、著作権、商標権、企業秘密について説明できる。	知的財産権について調べる。 (1時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
13	7/14 (火) 2限	新鞍	ユニット5 公共財 [講義] [確認テスト2]	1) 公共財と市場との関係	1) 公衆衛生対策、道路、科学研究、教育はなぜ市場に任せることができないのか説明ができる。	公共財について調べる。 (1時間)	認知 (問題解決) 情意 (受入)
14	7/21 (火) 2限	新鞍	ユニット5 貧困と福祉 格差問題 [講義]	1) 現代の貧困問題について知る。 2) 金銭的援助と意欲の問題について知る。	1) 日本の貧困問題に関して理解できる。 2) 社会保障の必要性について説明できる。	貧困と福祉について調べる。 (1時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
15	7/28 (火) 2限	新鞍	ユニット5 情報の非対称性 企業と政府のガバナンス 講義のまとめ [講義]	1) 情報の非対称性と保険市場。 2) 医療費増大の社会的問題について。	1) 情報の非対称性を説明できる。 2) 医療費増大の社会的問題について自分の考えと経済学の知識で論じることができる。	情報の非対称性について調べる。 (1時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)

英語Ⅱ (English Conversation)

開講時期： 2年次前期
 授業時間数： 15コマ；30時間 1単位
 受験資格要件： 2/3 (10コマ) 以上の出席
 科目番号： DH021013
 評価責任者： 古野みはる
 授業担当者： Haynes David Joseph Michael
 Nielsen P. Moelgaard

1. (General Aim)

As a dental hygienist, learners will obtain an interpersonal communication both skills and attitude, and improve their English competence for cultural enrichment.

2. (Method of Instruction)

Lecture・Group work.

3. (Education Material・Device)

Textbook、Handouts、DVD、PC+Projector.

4. (Method of Learning)

Learners must bring a textbook shown below in the class. Every time they should study the contents that they are going to study before the class. Also they are expected to review the contents they learned on the same day. Learners will be able to communicate widely with a diverse range of people, with a perspective on international exchange. **【Necessary Studying Hours to Earn Enough Credits for Graduation : 15hours】**

5. (Evaluation)

Written Examination (80%)

Class Participation (approx.20%)

The results of the exams are announced after the exams.

Detailed information will be explained on the first class.

6. (Textbook)

New Connection Book 1, Teruhiko Kadoyama, Andrey Dubinsky, David Edward Keane, Mike Corsini, SEIBIDO

7. (Reference Book)

English Japanese Dictionary & Japanese English Dictionary (electronic dictionary is also available)

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習項目と必要時間	教育目標領域
1	4/14 (火) 1限	Haynes Nielsen	Orientation Unit 1 Meeting People Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 1. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 1 1hour	Cognitive(Int erpretation) ・ Affective(Res ponding)
2	4/21 (火) 1限	Haynes Nielsen	Unit 2 Time to Eat Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 2. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 2 1hour	Cognitive(Int erpretation) ・ Affective(Res ponding)
3	4/28 (火) 1限	Haynes Nielsen	Unit 3 Living with Technology Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 3. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 3 1hour	Cognitive(Int erpretation) ・ Affective(Res ponding)
4	5/12 (火) 1限	Haynes Nielsen	Unit 4 Shopping for Clothes Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 4. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 4 1hour	Cognitive(Int erpretation) ・ Affective(Res ponding)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復 習項目と 必要時間	教育目標領域
5	5/19 (火) 1限	Haynes Nielsen	Unit 5 A Helping Hand at Home Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 5. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 5 1hour	Cognitive(Int erpretation) ・ Affective(Res ponding)
6	5/26 (火) 1限	Haynes Nielsen	Unit 6 Going Places Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 6. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 6 1hour	Cognitive(Int erpretation) ・ Affective(Res ponding)
7	6/2 (火) 1限	Haynes Nielsen	Unit 7 Not Feeling So Good Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 7. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 7 1hour	Cognitive(Int erpretation) ・ Affective(Res ponding)
8	6/9 (火) 1限	Haynes Nielsen	Unit 8 The Big Screen Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 8. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in unit 8 1hour	Cognitive(Int erpretation) ・ Affective(Res ponding)
9	6/16 (火) 1限	Haynes Nielsen	Unit 9 How Do You Feel? Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 9. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 9 1hour	Cognitive(Int erpretation) ・ Affective(Res ponding)
10	6/23 (火) 1限	Haynes Nielsen	Unit 10 All in Good Fun Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 10. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 10. 1hour	Cognitive(Int erpretation) ・ Affective(Res ponding)
11	6/30 (火) 1限	Haynes Nielsen	Unit 11 Game Time Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 11. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 11 1hour	Cognitive(Int erpretation) ・ Affective(Res ponding)
12	7/7 (火) 1限	Haynes Nielsen	Unit 12 Rain or Shine Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 12. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 12 1hour	Cognitive(Int erpretation) ・ Affective(Res ponding)
13	7/14 (火) 1限	Haynes Nielsen	Unit 13 Eating Out Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 13. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 13 1hour	Cognitive(Int erpretation) ・ Affective(Res ponding)
14	7/21 (火) 1限	Haynes Nielsen	Unit 14 School Life Lecture & Group Work	1)To understand the contents of the unit 14. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of the unit and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words in Unit 14 1hour	Cognitive(Int erpretation) ・ Affective(Res ponding)
15	7/28 (火) 1限	Haynes Nielsen	Unit 15 Review lessons and oral test Lecture & Group Work	1)To understand the contents of all the units. 2)To speak and listen using the expressions they learned in the class.	1) The students can translate the contents of all the units and speak & listen using the expressions they learned in the class.	Consult words that you don' t know in the textbook 1hour	Cognitive(Int erpretation) ・ Affective(Res ponding)

キャリアデザイン

開講時期： 2年次後期
授業時間数： 10コマ；20時間 1単位
受験資格要件： 2/3（7コマ）以上の出席
科目番号： DH021014
評価責任者： 南レイラ
授業担当者： 黒木まどか、井上庸子、石井綾子、
南レイラ、高木未沙稀、手嶋直美、
安河内笑香、眞村仁美、青山理恵、
杉本清楓、稲富美宥、臼井葵、岩田彩華、
星野京香、西崎 結、清水静香

1. 一般目標

キャリアとは単なる職歴・経歴だけではなく、仕事への憧れやこだわり、その仕事を通じて実現できる生活水準などを含んだ、生涯にわたるライフスタイルのプロセス（過程）を指す。したがって、キャリアデザインとは、どのようなプロセスを描き、何を実現したいかを明確にすることである。

この授業では、多様化し拡大している歯科衛生士の業務や専門性を今一度考察し、自分は「どのような仕事をするのか」「どのような経験を積んでいくのか」を考え、自身の将来像を描くこと（デザインすること）や人生のプランニングの基礎を修得することを目標とする。また、3年次から始まる臨地実習では、チーム医療の一員としての行動やコミュニケーションが必要であり、医療安全の視点を通してこれを学修する。

2. 教育方法

講義を行う。

歯科医療機関（福岡歯科大学医科歯科総合病院、歯科医院）や介護保険施設において、歯科医師あるいは歯科衛生士として診療に携わった実務経験を活かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

プリント、配布資料、PC+プロジェクター、DVD

4. 学修方法

授業には配布プリント等を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を精読し、求められている課題についてノートにまとめること。授業中はノートを取る。授業後は、配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。理解できなかった項目については教員に質問し、説明を受けて確実に理解すること。レポート課題は締切日を守る。授業は定刻に始まるので遅刻は欠席になる。

本授業を理解するうえで、保存修復学、歯科補綴学、口腔外科学、矯正歯科学、小児歯科学、高齢者歯科学、障がい者歯科学の理解が必要である。 [単位修得に必要な授業外学修時間：25時間]

5. 評価方法

[形成的評価] レポートなど

[フィードバック] 不十分な部分についてコメントを付して返却し、場合によっては再提出を求める。

[総括的評価] 課題レポート（80%）授業参加状況（予習・復習の実施状況等）（20%）

6. 教科書・テキスト

特になし

7. 参考書

1. 「みがこう！コミュニケーション・センス 歯科医院での医療安全のために」 中島丘 他 医歯薬出版 2017
2. 新・歯科衛生士教育マニュアル『歯科臨床の基礎と概論』 栢 豪洋 他 クインテッセンス出版 2015

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 〔授業方法〕	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	9/14 (月) 3限	手嶋 稲富	ユニット 2-2 歯科衛生士の専門性 の理解 ユニット 4 患者との信頼関係の 形成 〔講義・スライド〕	1) 大学病院における 歯科衛生士とキャリア モデルを理解する。 2) 口腔医療センター における歯科衛生士と キャリアモデルを理解 する。 3) 歯科保健指導にお ける信頼関係形成のた めのコミュニケーション を理解する。	1) 大学病院における歯科衛 生士とキャリアモデルを説 明することができる。 2) 口腔医療センターにお ける歯科衛生士とキャリア モデルを説明することが できる。 3) 行動変容を起こさせ るための歯科衛生士の 行動を説明できる。	「大学病院にお ける歯科衛生士の役 割」について調べ る。 (2.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
2	9/28 (月) 2限	白井 安河内	ユニット 2-2 歯科衛生士の専門性 の理解 ユニット 4 患者との信頼関係の 形成 〔講義・スライド〕	1) 矯正歯科における 歯科衛生士とキャリア モデルを理解する。 2) 小児歯科を担う歯 科衛生士のキャリアを 理解する。 3) 歯科保健指導にお ける信頼関係形成の ためのコミュニケーション を理解する。	1) 矯正歯科における歯科衛 生士とキャリアモデルを説 明することができる。 2) 小児歯科における歯 科衛生士とキャリアモデ ルを説明することができる。 3) 行動変容を起こさせ るための歯科衛生士の 行動を説明できる。	「矯正歯科・小 児 歯科における歯科衛 生士の役割」につ いて調べる。 (2.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
3	10/5 (月) 2限	西崎 岩田	ユニット 2-2 歯科衛生士の専門性 の理解 ユニット 4 患者との信頼関係の 形成 〔講義・スライド〕	1) 訪問歯科にお ける歯科衛生士とキャ リアモデルを理解する。 2) 障がい者歯科にお けるインフォームド・ アセントを理解する。 3) 歯科保健指導にお ける信頼関係形成の ためのコミュニケーション を理解する。	1) 訪問歯科にお ける歯科衛生士とキャ リアモデルを説明す ることができる。 2) 障がい者歯にお ける歯科衛生士とキャ リアモデルを説明す ることができる。 3) 行動変容を起こさ せるための歯科衛生 士の行動を説明でき る。	「訪問歯科・小 障 がい者科における 歯科衛生士の役 割」について調べ る。 (2.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
4	10/19 (月) 2限	星野 眞村	ユニット 2-2 歯科衛生士の専門性 の理解 ユニット 4 患者との信頼関係の 形成 〔講義・スライド〕	2) 補綴科・インプラ ント科における歯科衛 生士とキャリアモデル を理解する。 1) 総合歯科・保存科 における歯科衛生士と キャリアモデルを理解 する。 3) 歯科保健指導にお ける信頼関係形成の ためのコミュニケーション を理解する。	1) 補綴科・インプラ ント科における歯科衛 生士とキャリアモデ ルを説明することが できる。 2) 総合歯科・保存科 にお ける歯科衛生士とキャ リアモデルを理解す る。 3) 行動変容を起こさ せるための歯科衛生 士の行動を説明でき る。	「補綴科・イン プラ ント科・総合歯 科・保存科にお ける 歯科衛生士の役 割」について調べ る。 (2.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
5	10/26 (月) 2限	清水 石井	ユニット 2-2 歯科衛生士の専門性 の理解 ユニット 4 患者との信頼関係の 形成 〔講義・スライド〕	1) 介護施設を有する 病院歯科でのキャリア 2) 障害者・老年歯科 指導歯科衛生士とし てのキャリア形成 3) 歯科保健指導にお ける信頼関係形成の ためのコミュニケーション を理解する。	1) 介護施設を有する病 院 歯科における歯科衛 生士とキャ リアモデルを説明す ることができる。 2) 認定・指導歯科衛 生士 としてのキャリアモデ ルを説明することが できる。 3) 行動変容を起こさ せるた めの歯科衛生士の行 動を説明できる。	「介護施設を有 す る病院歯科の役 割と老年・障害者 歯 科認定歯科衛生 士」について調べ る。 (2.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
6	11/2 (月) 2限	青山 杉本	ユニット 2-2 歯科衛生士の専門性 の理解 ユニット 4 患者との信頼関係の 形成 〔講義・スライド〕	1) 精神鎮静法・全身 麻酔を実施する手術 室 での歯科衛生士の キャ リアモデルを理解す る。 2) 周術期管理を担 う 歯科衛生士のキャ リアモデルを理解す る。 3) 歯科保健指導にお ける信頼関係形成の ためのコミュニケーション を理解する。	1) 精神鎮静法・全身 麻 酔を実施する手術 室 での歯科衛生士の キャ リアモデルを説明 す ることができる。 2) 口腔外科にお ける 歯科衛生士とキャ リアモデルを説明 す ることができる。 3) 行動変容を起こ さ せるための歯科衛 生 士の行動を説明 す る。	「手術室・口腔 外 科における歯科 衛 生士の役割」につ いて調べる。 (2.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
7	11/12 (木) 2限	黒木	ユニット 2-1 歯科衛生士の専門性 の理解 〔演習・グループワ ーク〕	1) 開発国における 歯科衛生介入につ いて理解する。	1) 開発国における 歯科保健の 現状を理解する 2) 開発国にお ける 歯科衛生介入 につ いて理解する。 3) 開発国にお ける 歯科保健の 課題を述べること が できる。	「開発国にお ける 歯科医療支援活 動」につ いて調べる。 (2.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
8	11/16 (月) 2限	石井	ユニット 2-1 歯科衛生士の専門性 の理解 ユニット 4 患者との信頼関係の 形成 [講義・スライド]	1) 歯科衛生士としての キャリアと展望につ いて理解する。 2) 歯科保健指導にお ける信頼関係形成のた めのコミュニケーション を理解する。 3) 歯科衛生士として の就職活動についての 理解	1) 歯科衛生士としてのキャ リアと展望について理解で きる。 2) 行動変容を起こさせるた めの歯科衛生士の行動を説 明できる。 3) 求人票の閲覧方法や就職 活動の心得、面接等の取り 組みについて説明できる、	「インフォーム ド・アセント」に ついて調べる。 (2.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
9 10	1/21 (木) 1・2限 1/21 (木) 3・4限	南 井上 高木	ユニット 3 病院見学 歯科衛生士の専門性 の理解 [演習・グループワ ーク]	1) 大学病院における 歯科衛生士業務を理解 する。 2) 自分の目指す歯科 衛生士像を示す。	1) 医療従事者として相応の 身だしなみを実施できる。 2) 自分の目指す歯科衛生士 像を述べるができる。	第1回～第5回の講 義内容を復習す る。(2.5時間) 講義後、大学病院 における歯科衛生 士の業務内容につ いてまとめる (2.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入)

全身疾患の病態・生理

開講時期： 2年次前期
 授業時間数： 15コマ；30時間 2単位
 受験資格要件： 2/3（10コマ）以上の出席
 科目番号： DH021102
 評価責任者： 田口 智章
 授業担当者： 田口 智章

1. 一般目標

口腔内には全身疾患の症状や服用中の薬の副作用がでることがあり、また口腔内の病気が全身疾患に影響することもある。一方、医療・介護の現場では、医師や看護師をはじめ理学療法士、作業療法士、歯科衛生士などによる多職種連携が重要である。本授業では、全身疾患と口腔との関連を理解し、歯科診療上の注意点と対応を修得するとともに、歯科衛生士は多職種協働の一翼を担うことも理解した上で、その共通言語の働きをする全身疾患の知識を通して、医療人としての自覚・倫理観を身につける。

2. 教育方法

講義・討議

医療機関（病院等）で医師として診療に携わった実務経験を活かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、PC、プロジェクター

4. 学修方法

授業には指定教科書を必ず持参し、下記の表の予習・復習項目欄にある教科書の該当箇所を予習しておくこと。また、授業で重要と説明された部分は下線を引くとともに必要に応じてメモをとること。さらに、理解できない点や疑問点があったら積極的に質問すること。本授業には、生物学、解剖学、組織学、生理学、生化学、微生物学、病理学、薬理学等の基本知識が必要で、本授業で得た知識は口腔外科学、歯周病治療学、高齢者・小児・障害者歯科学などの理解に重要である。
 [単位修得に必要な授業外学修時間：60時間]

5. 評価方法

[形式的評価] ミニテスト、討議

[フィードバック] 不十分な部分に対して追加のコメントないし回答する。

[総括的評価] 定期試験：試験（記述式と国試形式）（70%）・ミニテスト（10%）・討議（10%）・授業参加状況（10%）

[フィードバック] 試験終了後に正解例を示すとともに、結果（成績）を通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック（橋本賢二・増本一真 編著）、医歯薬出版株式会社、2021
2. 歯科衛生学シリーズ 臨床検査 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2023

7. 参考書

1. 歯科衛生士国試対策集 2027 年対応（歯科衛生士国試対策研究会 編）、クインテッセンス出版株式会社、2026

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習項目と必要時間	教育目標領域
1	4/9 (木) 1限	田口	オリエンテーション 全身疾患総論 [講義] ユニット1 代謝・内分泌疾患 [講義]	1) 歯科衛生士に全身疾患の知識が必要な理由を理解する。 2) 体の系、疾患の全体像、診療科を理解する。 3) 全身疾患の診断法と治療法を理解する。 1) 主な代謝・内分泌疾患を理解する。 2) 代謝・内分泌疾患と口腔との関連を理解する。	1) 歯科衛生士に全身疾患の知識が必要な理由を説明できる。 2) 体の系10種類および疾患分類10種類を説明でき、診療科との関係を説明できる。 3) 全身疾患の診断法と治療法の種類を説明できる。 1) 糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺疾患を説明できる。 2) 代謝・内分泌疾患における歯科領域の注意点と対応を説明できる。	教科書 P6-9および P12-26を通読 4時間	認知 (想起)

回	授業日	授 業 担 当 者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目と必要時間	教育目標 領域
2	4/13 (月) 1限	田口	ユニット 2 消化器疾患 [講義]	1) 消化器の管腔臓器の疾患の概要を理解する。 2) 消化器の実質臓器の疾患の概要を理解する。 3) 消化器疾患と口腔との関連を理解する。	1) 胃・食道逆流症、胃炎、消化性潰瘍、胃がんを説明できる。 2) 肝炎、肝硬変、肝臓がん、膵炎、膵臓がんなどを説明できる。 3) 消化器疾患における歯科領域の注意点と対応を説明できる。	教科書 P28-43を通読 4時間	認知 (想起)
3	4/20 (月) 1限	田口	ユニット 3 循環器疾患 [講義]	1) 心臓の虚血性疾患と炎症性疾患を理解する。 2) 不整脈と除細動を理解する。 3) 高血圧と低血圧を理解する。 4) 循環器疾患と口腔との関連を理解する。	1) 狭心症、心筋梗塞、弁膜症、心筋炎を説明できる。 2) 不整脈と自動体外式除細動器(AED)を説明できる。 3) 高血圧と低血圧を説明できる。 4) 循環器疾患における歯科領域の注意点と対応を説明できる。	教科書 P44-54を通読 4時間	認知 (想起)
4	4/27 (月) 1限	田口	ユニット 4 血液疾患 [講義]	1) 赤血球の疾患を理解する。 2) 白血球の疾患を理解する。 3) 血小板と血液凝固因子の疾患を理解する。 4) 血液疾患と口腔との関連を理解する。	1) 貧血を説明できる。 2) 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫を説明できる。 3) 特発性血小板減少性紫斑病や血友病を説明できる。 4) 血液疾患における歯科領域の注意点と対応を説明できる。	教科書 P56-59を通読 4時間	認知 (想起)
5	5/11 (月) 1限	田口	ユニット 5 呼吸器疾患 [講義]	1) 呼吸器の炎症・感染症やアレルギー疾患を理解する。 2) 歯科領域に関連するその他の肺疾患を理解する。 3) 呼吸器疾患の病態把握に使う検査法を理解する。 4) 呼吸器疾患と口腔との関連を理解する。	1) 肺炎・誤嚥性肺炎、結核、気管支喘息を説明できる。 2) 慢性閉塞性肺疾患、睡眠時無呼吸症候群、過換気症候群を説明できる。 3) スパイロメーターや動脈血酸素飽和度(SpO ₂)測定を説明できる。 4) 呼吸器疾患における歯科領域の注意点と対応を説明できる。	教科書 P60-77を通読 4時間	認知 (想起)
6	5/18 (月) 1限	田口	ユニット 6 腎・泌尿器疾患 [講義]	1) 腎疾患を理解する。 2) 頻尿と尿失禁をきたす疾患を理解する。 3) 腎・泌尿器疾患と口腔との関連を理解する。	1) 慢性腎臓病を説明できる。 2) 頻尿と尿失禁をきたす疾患を説明できる。 3) 腎・泌尿器疾患における歯科領域の注意点と対応を説明できる。	教科書 P78-84を通読 4時間	認知 (想起)
7	5/25 (月) 1限	田口	ユニット 7 [小グループ学習 I]	全身疾患に関する重要なテーマを理解する。	グループ別のテーマをpp 4枚にまとめ発表する、そのテーマについて質疑応答し理解を深める。	各グループの資料を共有し、内容を復習する。4時間	認知 (想起)
8	6/15 (月) 1限	田口	ユニット 8 免疫疾患・膠原病 [講義]	1) アレルギー疾患を理解する。 2) 膠原病(自己免疫疾患)を理解する。 3) アレルギーの診断によく使われる検査法を理解する。 4) 免疫疾患・膠原病と口腔との関連を理解する。	1) アトピー性の皮膚炎・鼻炎・結膜炎、アナフィラキシーショックを説明できる。 2) 全身性エリテマトーデス、慢性関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病を説明できる。 3) パッチテストやブリックテストを説明できる。 4) 免疫疾患・膠原病における歯科領域の注意点と対応を説明できる。	教科書 P86-99を通読 4時間	認知 (想起)
9	6/17 (水) 1限	田口	ユニット 9 感染症 [講義]	1) 感染症を理解する。 2) ウイルス性感染症、細菌性感染症、真菌感染症を理解する。 3) 感染症と口腔との関連を理解する。 4) ワクチンについて理解する。	1) 病原微生物、感染源、感染経路、日和見感染を説明できる。 2) インフルエンザ、エイズ、新型コロナウイルス感染症、カンジダ症を説明できる。 3) 感染症における歯科領域の注意点と対応を説明できる。 4) ワクチンの意義について説明できる。	教科書 P100-111を通読 4時間	認知 (想起)
10	6/22 (月) 1限	田口	ユニット 10 神経系疾患 [講義]	1) 脳血管障害を理解する。 2) 脳血管障害の診断に使われる検査法を理解する。 3) てんかんを理解する。 4) てんかんの診断に使われる検査法を理解する。5) 認知症を理解する。 6) 神経難病である神経変性疾患を理解する。 7) 脊髄損傷や脳性麻痺を理解する。 8) 神経系疾患と口腔との関連を理解する。	1) 脳梗塞、脳塞栓症、脳出血、くも膜下出血を説明できる。 2) コンピュータ断層撮影(CT)や磁気共鳴イメージング(MRI)を説明できる。 3) てんかんを説明できる。 4) 脳波(EEG)を説明できる。5) 認知症を説明できる。 6) パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症(ALS)を説明できる。 7) 脊髄損傷や脳性麻痺を説明できる。 8) 神経系疾患における歯科領域の注意点と対応を説明できる。	教科書 P112-129を通読 4時間	認知 (想起)
11	6/29 (月) 1限	田口	ユニット 11 精神疾患 [講義]	1) 心身症・神経症やうつ病を理解する。 2) 統合失調症を理解する。 3) 発達障害を理解する。 4) 精神疾患と口腔との関連を理解する。	1) 心身症・神経症やうつ病を説明できる。 2) 統合失調症を説明できる。 3) 発達障害を説明できる。 4) 精神疾患における歯科領域の注意点と対応を説明できる。	教科書 P130-138を通読 4時間	認知 (想起)

回	授業日	授 業 担 当 者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項 目と必要時間	教育目標 領域
12	7/6 (月) 1限	田口	ユニット 12 がん [講義]	1) がんの特徴や種類、病因、転移を理解する。 2) 全身的ながんと口腔との関連を理解する。 3) 頭頸部がんを理解する。 4) 頭頸部がんにおける歯科衛生士のかかわりを理解する。	1) がんの特徴や種類、病因、転移を説明できる。 2) 全身的ながんにおける歯科領域の注意点と対応を説明できる。 3) 頭頸部のがんを説明できる。 4) 頭頸部がんにおける歯科領域の注意点と対応を説明できる。	教科書 P140-149を通読 4時間	認知 (想起)
13	7/13 (月) 1限	田口	ユニット 13 その他：産科・婦人科疾患・妊娠・運動器疾患、感覚器疾患、皮膚疾患 [講義]	1) 妊娠中の身体の変化と口腔内の変化を理解する。 2) 更年期障害と口腔との関連を理解する。 3) 老人に多い運動器疾患を理解する。 4) 老人に多い感覚器疾患を理解する。	1) 妊娠による身体の変化と口腔内の変化に対して歯科診療における注意点・対応を説明できる。 2) 更年期障害における歯科領域の注意点と対応を説明できる。 3) 大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症を説明できる。 4) 白内障、老人性難聴、皮膚の加齢性変化、老人性乾皮症(老人性皮膚掻痒症)、瘡癤を説明できる。	教科書 P150-159を通読 4時間	認知 (想起)
14	7/15 (水) 1限	田口	ユニット 14 複数領域にまたがる医療項目 [講義]	1) 検体検査を理解する。 2) 紹介状と照会状、医療面接を理解する。 3) 生活習慣病、廃用症候群、メタボリック症候群を理解する。 4) ロコモティブ症候群、サルコペニア、高齢者のフレイルを理解する。 5) リハビリテーション、周術期口腔ケア、観血的処置、救命救急、トリアージを理解する。	1) 検体検査の主な種類とデータを説明できる。 2) 紹介状と照会状、医療面接を説明できる。 3) 生活習慣病、廃用症候群、メタボリック症候群を説明できる。 4) ロコモティブ症候群、サルコペニア、高齢者のフレイルを説明できる。 5) リハビリテーション、周術期口腔ケア、観血的処置、救命救急、トリアージを説明できる。	教科書 P160-172およびP26を通読 4時間	認知 (想起)
15	7/15 (水) 2限	田口	ユニット 7 [小グループ学習Ⅱ]	全身疾患に関する重要なテーマを理解する。	グループ別のテーマをpp4枚にまとめ発表する、そのテーマについて質疑応答し理解を深める。	各グループの資料を共有し、内容を復習する。4時間	認知 (想起)

衛生学・公衆衛生学

開講時期：	2年次前期
授業時間数：	15コマ；30時間2単位
受験資格要件：	2/3（10コマ）以上の出席
科目番号：	DH021134
評価責任者：	古野みはる
授業担当者：	藤本暁江 内藤麻利江

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として、口腔領域だけでなく、健康と予防医学の概念および人間を取り巻く自然的・社会的環境要因と健康との関係性についての知識と洞察力を備えるとともに、医療、保健、福祉の専門家の一員として多職種連携のできる歯科衛生士として地域保健活動を実践・活躍するために、法律や制度など人々の健康を守る基本的な医療、保健、福祉の知識と社会の仕組みを体系的に理解する。

2. 教育方法

教科書、スライドおよびプリントによる講義、ディスカッション

3. 教育教材

教科書、配布資料、PC+プロジェクター

4. 学修方法

衛生学・公衆衛生学は社会と密接に関連している学問であり、普段から、新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどを通じて、環境や健康の問題に広く関心を持つことは、授業の理解に役立ちます。

授業には、指定教科書を必ず持参し、下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。授業後は、記憶が鮮明なその日のうちに、教科書や配布プリントなどで講義内容の確認を行いましょ。授業内容は多岐にわたりますので、特段の理由のない限り、毎回出席しましょ。

また、本科目は、3年次に学習する衛生行政とも関連しています。授業中、ポイントとなる点については、教科書や配布プリントの記載に、～と関連があると追加して説明することがあります。板書されたことだけをノートに取るのではなく、しっかりと言葉を聞き取りメモしましょ。

[単位修得に必要な授業外学修時間：60時間]

5. 評価方法

定期試験：客観試験・記述試験（試験において、知識と理解度の評価判定を行う）（80%）

平常評価：授業態度（発問・質疑・グループワークでの発言や協力等）（20%）

必要に応じて口頭試問、レポートを課す場合がある。

フィードバック：成績の集計後、結果を通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 保健生態学」（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 第1版
(2025年発行)

7. 参考書

なし

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	4/6 (月) 4限	藤本	ユニット1 健康の概念 講義 ディスカッション	1) 衛生・保健・健康の概念について理解する	(1) 衛生学・公衆衛生学の概略について説明できる。 (2) 健康の概念、プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション、ICFについて説明することができる。	教科書の総論 (I編1章P2~5、III編1章P.229~231) を精読する 4時間	認知 (解釈)
2	4/13 (月) 4限	藤本	ユニット2 予防医学の概念 講義	1) 衛生・保健・健康の概念について理解する	(3) 第一・二・三次予防について説明することができる。	教科書の総論 (I編1章P2~7、II編4章152~153、6章193~194) を精読する 4時間	認知 (解釈)
3	4/20 (月) 4限	藤本	ユニット3 人口に関する統計 講義	1) 人口および人口統計について理解する。	(1) 人口動態統計と静態統計について説明することができる。 (2) 日本の人口構造、高齢化とその指標について説明することができる。 (3) 出生、死亡、生命表、平均余命、平均寿命について説明することができる。	教科書の人口 (I編3章P18~33) を精読する 4時間	認知 (解釈)
4	4/27 (月) 4限	藤本	ユニット4 地球環境 講義	1) 地球環境と健康の関わりについて理解する。	(1) 地球環境の変化と健康への影響について説明することができる。	教科書の健康と環境 (I編4章P50~53) を精読する 4時間	認知 (想起)
5	5/11 (月) 4限	藤本	ユニット10 大気 講義	1) 大気への健康への影響と地球規模の環境問題について理解する。	(1) 空気に含まれる異常成分と健康への影響について説明することができる。 (2) 気温、気湿、気流、放射熱などの温熱環境について説明することができる。	教科書の健康と環境 (I編4章P36~42) を精読する 4時間	認知 (想起)
6	5/18 (月) 4限	内藤	ユニット5 水質 講義	1) 水質環境と健康被害について理解する。	(1) 水質汚濁と健康被害について説明することができる。 (2) 水質の浄化方法について説明することができる。	教科書の健康と環境 (I編4章P42~45) を精読する 4時間	認知 (問題解決)
7	5/25 (月) 4限	藤本	ユニット6 公害 講義	1) 公害と環境問題について理解する。	(1) 地球規模の環境問題について説明することができる。	教科書の健康と環境 (I編4章P53~57) を精読する 4時間	認知 (想起)
8	6/1 (月) 4限	内藤	ユニット7 感染症 講義	1) 感染症の原因、成り立ちおよびその予防と主な感染症の動向を理解する。	(1) 感染成立の三要因およびその対策について説明することができる。 (2) 主な感染症の動向について説明することができる。	教科書の感染症 (I編5章P62~73) を精読する 4時間	認知 (想起)
9	6/8 (月) 4限	藤本	ユニット8 廃棄物 講義	1) 廃棄物とその処理について理解する。	(1) 一般廃棄物と産業廃棄物について説明することができる。 (2) 特別管理廃棄物について説明することができる。 (3) 診療室から出る廃棄物の種類と処理方法について説明することができる。	教科書の健康と環境 (I編4章P57~61) を精読する 4時間	認知 (想起)
10	6/15 (月) 4限	藤本	ユニット10 大気 講義	1) 大気への健康への影響と地球規模の環境問題について理解する。	(1) 空気に含まれる異常成分と健康への影響について説明することができる。 (2) 気温、気湿、気流、放射熱などの温熱環境について説明することができる。	教科書の健康と環境 (I編4章P36~42) を精読する 4時間	認知 (想起)
11	6/22 (月) 4限	内藤	ユニット11 地域保健 講義	1) 地域保健について理解する。	(1) 地域保健を担う組織、ヘルスプロモーションならびに地域保健の基本的な進め方について説明することができる。	教科書の地域保健・公衆衛生 (III編1章P214~249) を精読する 4時間	認知 (想起)
12	6/29 (月) 4限	藤本	ユニット12 母子保健 講義	1) 母子保健事業について理解する。	(1) 母子保健事業 (母子健康手帳、妊産婦・乳幼児の保健指導および健康診査など) について説明することができる。	教科書の母子保健 (III編2章P250~263) を精読する 4時間	認知 (想起)
13	7/6 (月) 4限	内藤	ユニット13 学校保健 講義	1) 学校保健について理解する。	(1) 学校保健の対象者と関係職員、保健教育・保健管理・学校保健委員会について説明することができる。	教科書の学校保健 (III編2章P264~279) を精読する 4時間	認知 (想起)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
14	7/13 (月) 4限	藤本	ユニット 14 成人保健・産業保健 講義	1) 成人および産業保健 について理解する。	(1) 成人保健の現状およびその 対策について説明する ことができる。 (2) 生活習慣病のリスクファ クターについて説明する ことができる。 (3) 産業保健の目的、根拠法 令、作業環境管理、作業管 理、健康管理およびT H P について説明することが できる。	教科書の成人保健 (Ⅲ編 4章 P280～ 289)と産業保健(Ⅲ 編 5章 P290～300)を 精読する 4時間	認知 (想起)
15	7/27 (水) 1限	内藤	ユニット 15 高齢者保健・国際 保健 講義	1) 高齢者保健について 理解する。 2) 国際保健について理 解する。	(1) 高齢者保健の現状および その対策について説明す ることができる。 (2) 介護保険制度の概要につ いて説明できる。 (3) 国際保健の概要を説明す ることができる。	教科書の高齢者保健 (Ⅲ編 6章 P301～ 311)、国際保健(Ⅲ編 9章 P331～337)を精 読する 4時間	認知 (想起)

看護学総論

開講時期： 2 年次後期
 授業時間数： 15 コマ；30 時間 1 単位
 受験資格要件： 2/3 (10 コマ) 以上の出席
 科目番号： DH021202
 評価責任者： 古野みはる
 授業担当者： 山下久恵

1. 一般目標

歯科衛生士が、全身疾患を視野に入れた口腔管理や予防を重視した実践に必要な看護師と歯科衛生士の協働や連携について学ぶ。また、病院における歯科衛生士の役割を理解し、看護の概念、歯科衛生士に必要な基本的な看護技術や看護実務について理解することができる。さらに、地域医療活動における歯科衛生士の役割について理解することができる。

2. 教育方法

講義、ディスカッション

3. 教育教材

教科書、プリント、DVD+PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業には、遅刻せず始業時間には着席していること。指定教科書と配布資料等を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。歯科保健指導や健康学などと関連付けた学修をする。授業中はノートを取る。授業後は、教科書や配布資料等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。レポート課題は、締め切り期日を守る。 【単位修得に必要な授業外学修時間：15時間】

5. 評価

総括評価：記述試験（100%）

フィードバック：試験結果（成績）、模範解答は試験終了後に通知する。

尚、詳細は講義の初日に解説する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生士のための看護学大意 第4版」全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会編 医歯薬出版 2023

7. 参考書

1. 「基礎看護学①看護学概論」メヂカルフレンド社 宮脇美保子 2021

2. 「医療安全 改訂第2版 多職種でつくる患者安全をめざして」南江堂 山内豊明, 荒井有美 2024

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/15 (火) 3限	山下	オリエンテーション ユニット 1 病院における歯科 衛生士の役割と多 職種連携 講義	1) 歯科衛生士の活動の場 について理解し、医療 チームの中の歯科衛 生士の役割について理 解する。	(1)活動の場について理解し、医療チ ームの中での活動について理解する ことができる。 (2)歯科衛生士の役割、医療チームの職 種について説明できる。	教科書のP2-16を精 読する。 (1時間)	認知 (想起)
2	9/29 (火) 3限	山下	ユニット 2 看護の概念 講義	1) 看護の歴史について学 び、看護の起こりと歴 史的変遷を理解する。	(1)近代看護について理解することが できる。 (2)ナイチンゲールが現代の看護に貢献 している点について説明できる。	教科書のP14-19を精 読し、ノートに書 く。 (1時間)	認知 (想起)
3	10/6 (火) 3限	山下	ユニット 2 看護の概念 講義	2) 看護とは何かについて 理解することができる。	(1)看護とはなにか、誰のために、ど のように行うのか理解することができ る。 (2)看護の対象者について説明できる。	教科書1. のP2-10 を精読し、ノートに 書く。 (1時間)	認知 (想起)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
4	10/13 (火) 3限	山下	ユニット3 歯科衛生士が知っ ておくべき看護技 術 講義	1) 健康とは何か、健康の 状態の把握について理 解する。	(1)バイタルサインの測定方法について 理解することができる。 (2)測定時の留意点について説明でき る。	教科書のP20-21を精 読し、ノートに書 く。 (1時間)	認知 (想起・ 解釈)
5	10/20 (火) 3限	山下	ユニット3 歯科衛生士が知っ ておくべき看護技 術 講義	2) 患者の安全と安楽につ いて理解する。	(1)安楽への援助と具体的技術について 理解することができる。 (2)安楽な体位の工夫について説明でき る。	教科書のP46-49を精 読し、ノートに書 く。 (1時間)	認知 (想起)
6	10/27 (火) 3限	山下	ユニット3 歯科衛生士が知っ ておくべき看護技 術 講義	3) 患者の観察と外来、病 棟での業務について理 解する。	(1)外来、入院患者の特徴と基本的看護 について理解することができる。 (2)全身疾患を有する患者の看護におけ る留意点について説明できる。	教科書のP58-59を精 読し、ノートに書 く。 (1時間)	認知 (想起)
7	11/10 (火) 3限	山下	ユニット3 歯科衛生士が知っ ておくべき看護技 術 講義	4) 酸素療法と吸引につい て理解する。	(1)吸引の種類と方法について、安全で 適切な方法について理解することが できる。酸素療法について理解する ことができる。 (2)吸引方法の種類と留意点について述 べることができる。	教科書のP54-55を精 読し、ノートに書 く。 (1時間)	認知 (想起)
8	11/17 (火) 3限	山下	ユニット3 歯科衛生士が知っ ておくべき看護技 術 講義・演習	5) 薬物治療患者への看護 について理解する。	(1)与薬について、薬物の種類や保管方 法について理解することができる。 (2)与薬上の留意点について説明でき る。	教科書のP52-53、配 布資料を精読し、ノ ートに書く。 (1時間)	認知 (想起)
9	11/24 (火) 3限	山下	ユニット4 歯科衛生士に必要 な看護実務 講義	1) 救急時の看護について 理解する。	(1)一次救命処置について理解すること ができる。 (2)心肺蘇生時の留意点について説明で きる。	教科書のP81-97を精 読し、ノートに書 く。 (1時間)	認知 (想起)
10	12/1 (火) 3限	山下	ユニット4 歯科衛生士に必要 な看護技術 講義	2) 排泄への支援について 理解する	(1)尿管カテーテルと管理について理解 することができる。 (2)尿管カテーテルの留意点について説 明できる。	教科書のP46-47を精 読し、ノートに書 く。 (1時間)	認知 (想起)
11	12/8 (火) 3限	山下	ユニット4 歯科衛生士に必要 な看護技術 講義	3) 摂食への支援について 理解する。	(1)経管栄養法、静脈栄養法について理 解することができる。 (2)経管栄養における留意点について説 明できる。	教科書のP61-10を精 読し、ノートに書 く。 (1時間)	認知 (想起)
12	12/15 (火) 3限	山下	ユニット5 歯科衛生士が知っ ておくべき看護技 術 講義	1) 災害時の看護について 理解する。	(1)どのような災害があるか理解するこ とができる。 (2)具体的な支援について理解すること ができる。	配布資料を精読し、 ノートに書く。 (1時間)	認知 (想起)
13	12/22 (火) 3限	山下	ユニット5 歯科衛生士が知っ ておくべき看護技 術 講義	2) 患者の安全と危機管理 について理解する。	(1)消毒と滅菌方法および、取扱いにつ いて理解し、感染予防対策やリスク マネジメントについて理解すること ができる。 (2)標準予防対策について説明できる。	配布資料を精読し、 ノートに書く。 (1時間)	認知 (想起)
14	1/12 (火) 3限	山下	ユニット6 地域活動における 歯科衛生士の役割 講義	1) 地域社会における看護 の在り方について理解 する。	(1)在宅医療について理解することがで きる。 (2)在宅医療を支える職種について説明 できる。	教科書のP99-102を 精読する。 (1時間)	認知 (想起)
15	1/19 (火) 3限	山下	ユニット7 地域活動における 歯科衛生士の役割 ディスカッション	1) 在宅医療における看護 活動から医療と保険、 福祉についての協働と 連携について理解す る。	(1)地域医療にかかわるチーム医療の実 際について理解することができる。 (2)ディスカッション後の意見について まとめることができる。	教科書のP103-114を 精読する。 (1時間)	認知 (想起・ 解釈)

歯周病治療学

開講時期： 2年次前期
授業時間数： 15コマ；30時間1単位
受験資格要件： 2/3（10コマ）以上の出席
科目番号： DH021213
評価責任者： 古野みはる
授業担当者： 永井 淳

1. 一般目標

将来歯科衛生士として、理論と根拠に基づいた歯周治療管理、歯周病予防処置ならびに歯周保健管理を、多様な対象者に対し実施するために必要とされる知識を体系的に修得する。

2. 教育方法

講義形式授業で認知領域（知識）の伝達拡充をはかる（12コマ）とともに、アクティブラーニング（小グループ学習・討議、3コマ）で認知・情意領域（知識・態度）の能力を身につける。

3. 教育教材

指定教科書・参考書に加えて、印刷教材、PC+プロジェクターを用いたプレゼンテーション資料を用いる。

4. 学修方法

授業は定刻に始めるので、遅刻は欠席になる。本科目の履修にあたっては、基礎系科目（解剖学、組織学、生理学、薬理学、細菌学、免疫学、病理学）の知識が不可欠であるため、これらを履修したことを前提とする。また、各回の授業で取り上げる概念や術式を理解するために必要な専門用語は、教科書の索引収録語群からあらかじめ指定する。各回の授業開始までに、以下の予習をすませておくことを強く推奨する。

[予習項目] 教科書の授業範囲（シラバスに記載された教科書のページ範囲）を通読し、その範囲に出現するあらかじめ指定した索引語をマーキングする。

[単位修得に必要な授業外学修時間：15時間]

5. 評価方法

[形成的評価] ミニテスト、レポートなど

[フィードバック] 提出後、正解例を掲示板（または講義）で提示する。

[総括的評価]

1. 授業参加状況（24%）：予習状況（15%、出席・指定索引収録語へのマーキング（1%）×授業15回）、グループ学習における積極的な発言・提案（9%、3%×授業3回）

2. 記述試験（76%）

[フィードバック] 個別の採点結果等は原則としてフィードバックしない。

6. 教科書

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第2版」佐藤 聡ほか、医歯薬出版、2026年

7. 参考書

1. 日本歯周病学会編、歯周治療のガイドライン2022、日本歯周病学会、2024年改訂版

(URL:<https://www.perio.jp/publication/guideline.shtml>)

2. 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」高阪利美ほか、医歯薬出版、2023年

3. 「歯科診療補助論」合場千佳子ほか編、医歯薬出版、2023年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	4/6 (月) 2限	永井	ユニット1 歯周病学概論 [講義]	1) 本講義の進み方、授業のルール、課題と評価のしかたを理解する。 2) 歯周病治療法の研究発展の歴史を理解する。	①歯周病とはどのような病気か説明できる。 ②本講義では、歯周病治療法の概要を、歯周病の成り立ちを理解しながら学んでいくことを理解する。	教科書の授業範囲 (pp. 2-7) を通読し、指定した索引語にマーキングする (1時間)	認知 (想起)
2	4/13 (月) 2限	永井	ユニット2 正常な歯周組織 はどのような構造と機能をもつか [講義]	1) 健康な歯周組織の構造と機能について、基礎系科目での学びをふりかえることができる。	①歯周組織とその構成細胞の特徴について、既に履修した内容を振り返ることができる。 ②歯肉の機能および種類、歯肉上皮の種類、およびセメント質の種類と歯周組織再生との関わりを説明できる。 ③歯周組織の加齢変化について説明できる。	教科書の授業範囲 (pp. 9-16) を通読し、指定した索引語にマーキングする。(1時間)	認知 (想起)
3	4/23 (木) 3限	永井	ユニット3 歯周病とはどのような病気か [講義]	1) 歯周病の多くが細菌感染を原因とする歯周組織の炎症性疾患であることを説明できる。	①歯周組織の炎症・免疫応答および再生能力について説明できる。②歯肉病変の分類とその特徴を説明できる。 ③歯周炎の分類とその特徴を説明できる。	教科書の授業範囲 (pp. 17-31) を通読し、指定した索引語にマーキングする。(1時間)	認知 (問題解決)
4	4/27 (月) 2限	永井	小グループ学修・討議 [アクティブ・ラーニング]	2) 歯周病病巣の病理組織学的な構造を説明できる。	④健康な歯周組織の構造を図示し、その機能の特徴を説明できる。⑤歯肉炎と歯周炎の特徴を、病理組織学的な変化と関連づけて説明できる。		認知 (想起) 情意 (態度)
5	5/11 (月) 2限	永井	ユニット4 原因・リスク因子に着目した歯周病の分類 [講義]	1) 歯周病の発症と進行に見られる個体差が、歯周病細菌の種類だけでなく、リスク因子の個体差をも反映したものであることを説明できる。 2) 歯周病の分類について説明できる。 3) 全身疾患が歯周病の発症と進行に影響することを説明できる。	①歯周病の原因および遺伝的・後天的リスク因子と歯周病発症との関わりを模式図*1を用いて説明できる。 ②日本歯周病学会による歯周病の分類(2006年)を説明できる。 ③歯周病の発症と進行に特徴のある歯周病を説明できる。 ④局所的なリスク因子を列挙しその解決法について説明できる。	教科書の授業範囲 (pp. 32-42) を通読し、指定した索引語にマーキングする。(1時間) *1 参考書1(p. 19 図1)	認知 (想起)
6	5/18 (月) 2限	永井	ユニット5 ペリオドンタル・メディシン (歯周医学) [講義]	1) 歯周病が全身の健康に与える影響について説明できる。	①歯周ポケットに生息する細菌の口腔外伝播経路について説明できる。 ②歯周ポケットから伝播した歯周病細菌による遠隔臓器の機能修飾の面からペリオドンタルメディシンを説明できる。	教科書の授業範囲 (pp. 42-46) を通読し、指定した索引語にマーキングする。(1時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
7	5/25 (月) 2限	永井	ユニット6 歯周治療の進め方 [講義]	1) 歯周病の予防法と歯周治療の基本的考え方・進め方を説明できる。	①歯周病の予防・歯周治療の基本的な考え方を説明できる。 ②歯周治療の流れを説明できる。 ③治療途中段階の再評価検査について、フローチャート*2を用いて説明できる。 ④歯周治療の流れと歯科衛生士の役割を概説できる。	教科書の授業範囲 (pp. 52-56) を通読し、指定した索引語にマーキングする。(1時間) *2 参考書1(p. 80 図16)	認知 (想起)
8	6/1 (月) 1限	永井	ユニット8 歯周病の検査 [講義]	1) 歯周病検査の目的と方法を説明できる。 2) 検査結果がどのようなリスク因子を反映しているか説明できる。 3) 検査において歯科衛生士が果たす役割について説明できる。	①口腔内所見から局所的なリスク因子を指摘できる。 ②問診の情報から全身的なリスク因子を推定することを説明できる。 ③関連する医療職への情報提供依頼について説明できる。 ④歯周組織の破壊程度の検査の手技と使用器具について説明できる。	教科書の授業範囲 (pp. 57-77) を通読し、指定した索引語にマーキングする。(1時間)	認知 (想起)
9	6/8 (月) 2限	永井	ユニット9 歯周病の診断と歯周治療の流れ 小グループ学修・討議 [アクティブ・ラーニング]	1) 歯周病検査の所見が、どのような病理学的な変化を反映しているか説明できる。 2) 歯周病検査の結果がどのように解釈されて治療につながっていくのか理解する。	①個別の症例について歯周病検査所見と病理組織学的な模式図とを関連づけて、歯周病の病態を説明できる。 ②どのような組織の変化を期待して歯周治療を行なうか説明できる。 ③歯周病の治癒、病状安定がどのように判定されるか説明できる。		認知 (想起) 情意 (態度)
10	6/15 (月) 2限	永井	ユニット10 歯周基本治療の目的 [講義]	1) 歯周基本治療の目的と内容を説明できる。 2) 歯周基本治療において歯科衛生士が果たす役割を説明できる。	①歯周基本治療で実施する、リスク因子に対する治療法や指導管理法*3を、術式および目的と関連づけて説明できる。 ②歯周基本治療における歯周組織の状態の変化を、病理組織学的な模式図と関連づけて説明できる。	教科書の授業範囲 (pp. 78-91, 164-202) を通読し、指定した索引語にマーキングする。(2時間) *3 参考書1(p. 41 図6①, ②, p. 42 図6③)	認知 (想起)
11	6/22 (月) 2限	永井	ユニット11 歯周外科治療 [講義]	1) 歯周外科治療の目的による分類について説明できる。	①歯周外科治療の術式を、目的によって分類して説明できる。 ②歯周外科治療の適応と術式*4を、病理組織学的な模式図と関連づけて説明できる。	教科書の授業範囲 (pp. 92-111) を通読し、指定した索引語にマーキングする。(1時間) *4 参考書1(p. 56 図7, p. 55 表12, p. 58 図10, p. 63 図11)	認知 (想起)
12	6/29 (月) 2限			2) 歯周外科手術の目的に応じた術式と器具について説明できる。	③歯周外科治療の目的や術式と関連づけて、使用器具の名称、形状の特徴および用途を説明できる。 ④歯周外科治療術後の予想される治癒形態、術後の注意点を説明できる。	教科書の授業範囲 (pp. 112-119, 128-143) を通読し、指定した索引語にマーキングする。(1時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
13	7/6 (月) 2限	永井	ユニット12 歯周組織再生療法 [講義]	1) 歯周組織再生療法の目的および術式と器具について説明できる。	①歯周組織再生療法の目的および分類を述べることができる。 ②歯周組織再生療法の適応を説明できる。 ③歯周組織再生療法の術式と使用する器具について説明できる。 ④歯周組織再生療法術後の治癒過程と注意点を説明できる。	教科書の授業範囲 (pp. 120-127) を通読し、指定した索引語にマーキングする。(1時間)	認知 (想起)
14	7/13 (月) 2限	永井	ユニット13 歯周治療に用いる器材 小グループ学修・討議 [アクティブ・ラーニング]	1) 歯周治療に用いる器具・材料とそれらの管理について説明できる。	①歯周治療に使用する器具・機材の名称および用途を説明できる。 ②器具・器材の滅菌・消毒管理を説明できる。	教科書の授業範囲 (pp. 100-111, 179-201) を通読する。(1時間)	認知 (想起) 情意 (態度)
			ユニット14 口腔機能回復治療 [講義]	1) 歯周治療における口腔機能回復治療について説明できる。	①歯周治療における咬合調整ならびに固定法の意義を説明できる。 ②歯周治療における矯正ならびに補綴治療の意義を説明できる。	教科書の授業範囲 (pp. 144-157) を通読し、指定した索引語にマーキングする。(1時間)	認知 (想起)
15	7/21 (火) 4限	永井	ユニット15 継続管理 (メインテナンス・SPT および重症化予防) [講義]	1) 継続管理について説明できる。 2) 継続管理の意義ならびに継続管理における歯科衛生士の役割について説明できる。	①歯周治療の流れの中での継続管理の位置づけを説明できる。 ②継続管理における患者教育の重要性と意義について説明できる。 ③継続管理における歯周組織検査のポイントを説明できる。 ④継続管理における歯科衛生士の役割を説明できる。	教科書の授業範囲 (pp. 158-161, 202-208) を通読し、指定した索引語にマーキングする。(1時間)	認知 (想起)
			ユニット16 ふりかえり	1) 歯周病治療学の授業をふりかえることができる。	①本講義を通じて、歯周病の成り立ちとその理解にもとづく治療法を理解できたか、自己評価する。		認知 (問題解決)

高齢者・障害者歯科学

開講時期： 2年次前期
 授業時間数： 15コマ；30時間1単位
 受験資格要件： 2/3（10コマ）以上の出席
 科目番号： DH021218
 評価責任者： 古野みはる
 授業担当者： 梅崎陽二朗、江頭留依
 森田浩光、田崎園子

1. 一般目標

精神・身体的な能力の不全を有し、歯科保健医療を健全な人達と同じように受けることができない障害者や重篤な基礎疾患を有した者、要介護高齢者を対象に、歯科保健医療を提供するための基本的知識や歯科治療法および口腔ケアに関する問題点とそれらへの対処法について理解する。

2. 教育方法

スライドおよび配付プリントを用いた講義
 実際の患者の診療中の動画の閲覧や講義中のディスカッションなど、臨床現場での歯科衛生士の役割を理解し実践に活かせるよう、自主性を促す実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業には、指定教科書と配布プリント等を持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修を怠らないこと。授業中はノートを取る。授業後は、教科書や配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。本講義は、3年次「臨床実習」の理解に必要な不可欠である。

【単位修得に必要な授業外学修時間：15 時間】

5. 評価方法

[総括的評価] 定期試験：記述試験（100%）
 [フィードバック] 試験結果（成績）は、試験終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

全国歯科衛生士教育協議会 監修：「歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学」、医歯薬出版、2026
 森戸光彦 編集主幹：歯科衛生士講座 高齢者歯科学、第4版、永末書店、2025

7. 参考書

「スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科」日本障害者歯科学会 編集 第2版、医歯薬出版、2017
 「有病者歯科学 第3版」日本有病者歯科医療学会 編集 第3版、永末書店、2024

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育目標 領域
1	4/6 (月) 3限	田崎	ユニット1 障害者歯科学序論 [講義]	1) 障害の概念を理解する。 2) 障害者が置かれた環境について理解する。	(1) 障害者の定義を説明できる。 (2) 障害者関連法規を説明できる。 (3) 障害者の医療、福祉制度を説明できる。 (4) ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインを説明できる。 (5) 障害者のQOLを説明できる。 (6) 国際生活機能分類を説明できる。 (7) 障害者の家族の心理を説明できる。 (8) 障害者歯科におけるパターンリズムとインフォームドコンセントを説明できる。	配布資料を確認し復習する。 (1時間)	認知 (解釈)
2	4/13 (月) 3限	田崎	ユニット2 障害児の成長発達 ユニット3 障害各論 (1) [講義]	1) 障害児の成長・発達について健常児との違いを理解する。 2) 種々の疾患（障害）の特徴と歯科保健医療上の留意事項について理解する。	(1) 発達の異常について説明できる。 (2) 脳性麻痺について説明できる。 (3) 重症心身障害について説明できる。 (4) てんかんについて説明できる。	配布資料を確認し復習する。 (1時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育目標 領域
3	4/20 (月) 3限	田崎	ユニット3 障害各論 (2) [講義]	1) 種々の疾患 (障害) の特徴と歯科保健医療上の留意事項について理解する。	(1) 身体障害について説明できる。 (2) 内部障害が列挙できる。 (3) 精神遅滞について説明できる。 (4) Down 症候群について説明できる。	配布資料を確認し復習する。 (1時間)	認知 (解釈)
4	4/27 (月) 3限	田崎	ユニット3 障害各論 (3) [講義]	1) 種々の疾患 (障害) の特徴と歯科保健医療上の留意事項について理解する。	(1) 精神疾患について説明できる。 (2) 発達障害について説明できる。 (3) 重症心身障害について説明できる。	配布資料を確認し復習する。 (1時間)	認知 (解釈)
5	5/11 (月) 3限	田崎	ユニット4 障害者への対応 [講義]	1) 障害者歯科診療における患者への対応法について理解する。 2) 障害者の QOL の維持・向上について理解する。	(1) 行動調整法について説明できる。 (2) 身体拘束について説明できる。 (3) 障害者に対する障壁を無くし、対応法を考える。	配布資料を確認し復習する。 (1時間)	認知 (解釈)
6	5/18 (月) 3限	森田	ユニット5 疾患各論 (5) [講義]	1) 種々の疾患 (内部障害) の特徴と歯科治療時の留意事項について理解する。	(1) 関節リウマチについて説明できる。 (2) 脳血管障害について説明できる。 (3) 上記疾患の歯科治療・口腔衛生管理時の注意点について説明できる。	配布資料を確認し復習する。 (1時間)	認知 (解釈)
7	5/25 (月) 3限	森田	ユニット6 疾患各論 (6) [講義]		(1) 主な循環器疾患について説明できる。 (2) 主な循環器疾患の歯科治療・口腔衛生管理時の注意点について説明できる。	配布資料を確認し復習する。 (1時間)	認知 (解釈)
8	6/1 (月) 3限	梅崎	ユニット7 高齢社会の現状 [講義]	1) 高齢社会の現状について理解する。	(1) 高齢社会の現状を説明できる。 (2) おもな人口学的指標を列挙できる。 (3) 高齢社会の問題点を説明できる。	配布資料を確認し復習する。 (1時間)	認知 (問題解決)
9	6/8 (月) 3限	梅崎	ユニット8 加齢変化と高齢者の特性 [講義]	1) 全身と口腔の加齢変化を理解する。	(1) 老化のメカニズムを説明できる。 (2) 高齢者の身体的特徴を説明できる。 (3) 口腔領域の加齢変化を説明できる。 (4) 認知症の症状、分類を説明できる。	配布資料を確認し復習する。 (1時間)	認知
10	6/15 (月) 3限	梅崎	ユニット9 要介護高齢者の歯科医療と医療安全 [講義]	1) 訪問診療の実際を理解する。 2) リスクマネージメントを理解する。	(1) 訪問診療の特徴を説明できる。 (2) 診療時の介助を説明できる。 (3) 要介護高齢者の診療上の留意点を説明できる。 (4) 医療事故防止策を説明できる。	配布資料を確認し復習する。 (1時間)	認知 (解釈)
11	6/22 (月) 3限	梅崎	ユニット10 高齢者に多い疾患と頻用される薬剤 [講義]	1) 高齢者に多い疾患と歯科治療上の留意点を理解する。 2) 高齢者の薬剤代謝の特性を理解する。	(1) 高齢者に多い疾患の概略を説明できる。 (2) 老年症候群、サルコペニアを説明できる。 (3) 高齢者に頻用される薬剤とその副作用を説明できる。	配布資料を確認し復習する。 (1時間)	認知 (解釈)
12	6/29 (月) 3限	江頭	ユニット11 口腔ケア [講義]	1) 要介護高齢者の口腔ケアを理解する。	(1) 口腔ケアの意義を説明できる。 (2) 口腔ケアの定義と関連用語を説明できる。 (3) オーラルフレイルと廃用症候群を説明できる。 (4) 口腔ケアの必要度を示す指標を説明できる。	配布資料を確認し復習する。 (1時間)	認知 (解釈)
13	7/6 (月) 3限	江頭	ユニット12 摂食・嚥下障害 [講義]	1) 摂食・嚥下障害の診断を理解する。 2) 摂食嚥下障害のリハビリテーションを理解する。	(1) 嚥下の解剖と生理を説明できる。 (2) 嚥下障害のスクリーニングを説明できる。 (3) 摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。	配布資料を確認し復習する。 (1時間)	認知 (解釈)
14	7/13 (月) 3限	江頭	ユニット13 要介護高齢者の身体機能と栄養評価 [講義]	1) 要介護高齢者の機能評価を理解する。 2) 高齢者の栄養評価を理解する。	(1) 高齢者の検査所見と臨床指標を説明できる。 (2) 高齢者の栄養評価を説明できる。	配布資料を確認し復習する。 (1時間)	認知 (解釈)
15	7/27 (金) 3限	江頭	ユニット14 要介護高齢者の福祉 [講義]	1) 介護保険の概要を理解する。 2) 福祉と医療の多職種連携を理解する。	(1) 介護保険制度を説明できる。 (2) 要介護高齢者の医療と福祉に係る職種を説明できる。 (3) 各種の介護福祉施設の特徴を説明できる。	配布資料を確認し復習する。 (1時間)	認知 (解釈)

歯科麻酔学・歯科放射線学

開講時期： 2 年次後期
 授業時間数： 15 コマ；30 時間 1 単位
 （歯科麻酔学 7 コマ、歯科放射線学 8 コマ）
 受験資格要件： 2/3（10 コマ）以上の出席
 科目番号： DH021219
 評価責任者： 古野みはる
 担当教員： 池田水子、野上堅太郎、守永紗織
 香川豊宏、筑井朋子、稲富大介

1. 一般目標

歯科麻酔学： 歯科衛生士として歯科臨床業務に従事する際に必要な局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔に関する事項を理解する。また周術期の全身管理、緊急事態の回避および対処法についても理解を深める。そしてそれらを基盤に一般歯科、口腔外科、インプラント、障害者歯科、高齢者歯科、有病者歯科などについても理解を深めるとともに、安心して安全な歯科医療を患者に提供でき、他職種の医療従事者とも連携できるようになること。

歯科放射線学： 歯科放射線診療における適切な補助および放射線防護を行うために放射線の基礎的知識および画像診断学の基本を修得することにより、安全な歯科医療を患者に提供でき、他職種の医療従事者とも連携できるようになること。

2. 教育方法

講義、プリント配布を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業には、指定教科書を必ず持参すること。

歯科麻酔学の理解には解剖学、生理学、薬理学、口腔外科学、内科学などの知識が必要である。また歯科麻酔学は日常の歯科臨床業務では不可欠な知識であるうえ、全身管理や緊急事態の回避および対処については医療従事者として必要不可欠な知識である。

歯科放射線学の理解には解剖学、口腔外科学などの知識が必要である。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。授業中はノートを取ること。授業後は、教科書や配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。

【単位修得に必要な授業外学修時間：15時間】

5. 評価

〔総括的評価〕 定期試験：記述試験（100%）

〔フィードバック〕 試験結果（成績）は、試験終了後に通知する。尚、詳細は講義の初日に説明する。

6. 教科書・テキスト

「歯科衛生士講座 口腔外科」古森孝英 編著 永末書店 2020年

「わかりやすい歯科放射線学 歯科衛生士テキスト」第3版 有地榮一郎他 監修 学建書院 2017年

7. 参考書

「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔 最新歯科衛生士教本」全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2017

回	授業日	授業者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目と必要時間	教育目標 領域
1	9/15 (火) 4限	野上	ユニット1 術前管理 〔講義〕	歯科医療における術前管理について理解する。	(1) 患者の全身状態の評価として、バイタルサインについて説明することができる。 (2) 術前の評価として、全身疾患の診察や問診上の注意点、検査項目とその内容について説明することができる。	バイタルサインについて理解する。それぞれのバイタルサインの計測の仕方、評価を理解する。全身疾患の診察や問診上の注意点を理解する。それぞれの臨床検査について理解する。 (1時間)	認知 (解釈)
2	9/29 (火) 4限	野上	ユニット2 局所麻酔薬 〔講義〕	各種の局所麻酔製剤を理解する。	(1) 各種局所麻酔薬の特徴を理解し、作用について説明できる。 (2) 各種血管収縮薬の特徴を理解し、使用目的と注意点について説明できる。	それぞれの局所麻酔薬の特徴を理解する。各種血管収縮薬を分類し、それぞれの長所と短所を理解する。 (1時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習項目と必要時間	教育目標 領域
3	10/6 (火) 4限	野上	ユニット2 局所麻酔法 〔講義〕	各種の局所麻酔方法を理解する。	(1)表面麻酔、浸潤麻酔、伝達麻酔の違いと特徴を理解する。 (2)各種の伝達麻酔について、奏功範囲について理解する。	表面麻酔、浸潤麻酔、伝達麻酔の違いを理解する。 伝達麻酔の奏功範囲を図で説明する。 (1時間)	認知 (解釈)
4	10/13 (火) 4限	野上	ユニット3 救急救命処置 〔講義〕	救急救命処置を理解する。	(1)一次救命処置の各項目について説明することができる。	一次救命処置の手順、各項目について理解する。 (1時間)	認知 (解釈)
5	10/20 (火) 4限	野上	ユニット4 歯科治療中の偶発症 〔講義〕	救急救命処置を理解する。	(1)歯科治療中の偶発症の各項目について説明することができる。	歯科治療中の偶発症の各項目について症状と治療法を理解する。 (1時間)	認知 (解釈)
6	10/27 (火) 4限	守永	ユニット5 精神鎮静法 〔講義〕	精神鎮静法を理解する。	(1)精神鎮静法の使用目的と適応症・禁忌症について説明できる。 (2)笑気吸入鎮静法と静脈内鎮静法の使用薬剤について理解し説明できる。	笑気吸入鎮静法と静脈内鎮静法の使用薬剤、適応症、禁忌症、取り扱い方法、実施上の注意点を理解すること。 (1時間)	認知 (解釈)
7	11/10 (火) 4限	池田	ユニット6 全身麻酔 〔講義〕	全身麻酔を理解する。	(1)全身麻酔の概念と4要素について説明することができる。 (2)術前管理、術中のモニタリング、使用する薬剤や機器について説明することができる。	全身麻酔の概念を理解する。術前管理を理解する。吸入麻酔薬、静脈麻酔薬、筋弛緩薬、麻薬を理解する。気道確保の方法を理解する。術中管理、術後管理について理解する。 (1時間)	認知 (想起)
8	11/17 (火) 4限	香川	ユニット1 画像診断概論 〔講義〕	1) 画像診断の概要について理解する。	1) 各種画像検査法の原理を説明することができる。 2) 各種画像検査の特徴を説明することができる。	教科書のP1-3, 115-127を精読する。 (1時間)	認知 (解釈)
9	11/24 (火) 4限	稲富	ユニット2 放射線物理学 〔講義〕	1) 放射線の特徴について理解する。 2) エックス線発生について理解する。	1) 放射線の種類を説明することができる。 2) エックス線の発生原理を説明することができる。 3) エックス線と物質の相互作用を説明することができる。 4) エックス線発生装置の構造を説明することができる。	教科書のP421-20, 30-35を精読する。 (1時間)	認知 (想起)
10	12/1 (火) 4限	筑井	ユニット3 写真処理法 〔講義〕	1) エックス線写真の画像形成について理解する。	1) 現像方式によるエックス線画像形成を説明することができる。 2) デジタル方式のエックス線画像形成を説明することができる。	教科書のP36-51を精読する。 (1時間)	認知 (想起)
11	12/8 (火) 4限	香川	ユニット4 エックス線撮影法 〔講義〕	1) 口内法エックス線撮影法の原理および適用を理解する。	1) 二等分法の撮影法および適用を説明することができる。 2) 平行法の撮影法および適用を説明することができる。 3) 咬翼法の撮影法および適用を説明することができる。 4) 偏心投影法の撮影法および適用を説明することができる。 5) 咬合法の撮影法および適用を説明することができる。	教科書のP32-89を精読する。 (1時間)	認知 (解釈)
12	12/15 (火) 4限	香川	ユニット5 エックス線撮影法 〔講義〕	1) 口外法エックス線撮影法の原理および適用を理解する。	1) パノラマエックス線撮影法の原理および適応を説明することができる。 2) 顔面骨エックス線撮影法の種類および適応を説明することができる。	教科書のP90-114を精読する。 (1時間)	認知 (解釈)
13	12/22 (火) 4限	香川	ユニット6 エックス線撮影法 〔講義・グループ学習〕	1) エックス線解剖を理解する。 2) 基本的な疾患のエックス線所見を理解する。	1) 口内法エックス線写真の解剖を説明することができる。 2) パノラマエックス線写真の解剖を説明することができる。う蝕、歯石、歯周病、歯根嚢胞、歯牙腫、等のエックス線所見を説明することができる。 3) 任意の画像から病変を検出できる。	教科書のP144-163を精読する。 (1時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目と必要時間	教育 目標 領域
14	1/12 (火) 4限	香川	ユニット7 放射線生物学 [講義]	1) 放射線が生物に与える影響について理解する。	1) 放射線の間接的影響、直接的影響を説明することができる。 2) 確率的影響、確定的影響を説明することができる。 3) 早期障害、晩期障害を説明することができる。 4) 身体的影響、遺伝的影響を説明することができる。	教科書のP12-29を精読する。 (1時間)	認知 (解釈)
15	1/19 (火) 4限	香川	ユニット8 放射線生物学 [講義]	1) 放射線防護の目標および基本概念を理解する。	1) 放射線の線量の単位を説明することができる。 2) 被曝のカテゴリーを説明することができる。 3) 放射線防護の3原則を説明することができる。	教科書のP162-179を精読する。 (1時間)	認知 (解釈)

歯科予防処置論（講義）Ⅱ

開講時期： 2年次後期
 授業時間数： 9コマ；18時間 1単位
 受験資格要件： 2/3(6コマ)以上の出席
 科目番号： DH021222
 評価責任者： 井上庸子
 授業担当者： 田口智章、馬場篤子、泉喜和子、
 井上庸子、南レイラ、後藤加寿子、
 森沙耶香、川尻望、常清美佑、高木未沙稀

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として根拠や理論に基づいた口腔保健管理を実施するために必要な齲蝕予防法や歯周病予防法に関する情報や知識を理論的に分析・考察し、さらに問題解決・発見能力を修得する。

2. 教育方法

講義・演習・グループ討議を行う。

大学病院において、歯科医師または歯科衛生士として治療に携わった実務経験を生かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、DVD、PC + プロジェクター

4. 学修方法

授業には、該当する指定の教科書と配布プリント等を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。授業中はノートを取る。授業後は、教科書や配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。レポート課題は、締め切り期日を守る。授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席となる。本授業を理解する上で、歯科予防処置論Ⅰの知識が必要であり、本授業は臨床臨地実習の理解に不可欠である。
[単位修得に必要な授業外学修時間：27時間]

5. 評価方法

[総括的評価] 定期試験：記述試験（80％） 平常評価：レポート・観察記録・授業態度（発問・質疑・グループワークでの発言や協力等）（20％）

[フィードバック] 試験結果（成績）は、試験終了後に通知する。尚、詳細は講義の初日に説明する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025

2. 「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版」（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025

3. 「新フッ化物ではじめるむし歯予防」 筒井昭仁等 医歯薬出版 2019

4. 「歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 第1版第3刷」（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 2025

7. 参考書

1. 「歯科衛生学シリーズ 臨床検査」（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2023

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育目標 領域
1	9/18 (水) 1限	井上	ユニット1 臨床検査法 (全身の検査) [講義・グループ討議]	1) 全身の臨床検査の目的について理解する。 2) 生体検査・検体検査について理解する。	(1) 生体検査が説明できる。 ・体温測定、脈拍測定、血圧測定、経皮的動脈血酸素飽和度 (2) 検体検査が説明できる。 ・血液検査	教科書 3 P78-85、322-330 を精読する。生体検査、検体検査について、検査法を調べる(3時間)	認知 (解釈)
2	10/5 (月) 4限	南	ユニット4 PMTC [講義]	1) PMTCについて理解する。	(1) PMTC の目的が説明できる。 (2) PMTC の有効性が説明できる。 (3) PMTC で必要な器具や材料が説明できる。 (4) PMTC の手順が説明できる。	教科書 1 の P196-203 を精読する(3時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
3 4	10/13 (火) 1・2限 10/14 (水) 1・2限	田口 泉 森/川尻 常清	ユニット9 臨床検査法 (血液型・血糖値) [講義・実習]	1) 歯科領域に必要な臨床検査の概要を説明できる。 2) 臨床検査の補助ができる。	(1) 歯科領域に必要な臨床検査(検体検査)を理解し、補助の役割を説明できる。 (2) 微量穿刺全血の採取方法(血糖検査)の準備ができる。 (3) 血液型検査、血糖値検査の手順や結果を説明できる。	教科書2のP62-65、付1を精読する(2時間)	認知 (解釈) 精神 運動 (コントロール)
5	11/26 (木) 3限	馬場	ユニット8 小窩裂溝充填塞法(フィッシャーシーラント) [講義]	1) 小窩裂溝充填塞法(フィッシャーシーラント)について理解する。	(1) 小窩裂溝充填塞法(フィッシャーシーラント)の目的が説明できる。 (2) 小窩裂溝充填塞法(フィッシャーシーラント)の有効性が説明できる。 (3) 小窩裂溝充填塞法(フィッシャーシーラント)の必要な器具や材料が説明できる。 (4) 小窩裂溝充填塞法(フィッシャーシーラント)の手順が説明できる。	教科書1、「小窩裂溝充填塞」P258-267教科書7、「小窩裂溝充填塞(フィッシャーシーラント)」P181-185を精読する(3時間)	認知 (解釈)
6 7	11/30 (月) 1,2限 12/3 (木) 1,2限	馬場 後藤/南 川尻 常清 高木	ユニット4 シーラント [マネキン実習]	1) シーラントの対象歯を選択できる。 2) ラバーダム防湿法が実施できる。 3) シーラントが実施できる。	(1) 患者の口腔内において、シーラントの対象歯を選択できる。 (2) シーラント対象歯において、ラバーダム防湿法を安全に実施できる。 (3) 患者に対し、シーラントの事前説明が実施できる。 (4) シーラントに必要な器具や材料が準備できる。 (5) シーラントを安全に実施できる。 (6) シーラントの患者説明ができる。	教科書1のP236-242と参考書2のP95-101と参考書4のP112-114、181-185を精読する(0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール)
8 9	12/8 (火) 1,2限 12/11 (金) 1,2限	馬場 泉 井上 常清 高木	ユニット4 シーラント 2人1組術者2人目 [相互実習]	1) シーラントの対象歯を選択できる。 2) ラバーダム防湿法が実施できる。 3) シーラントが実施できる。	(1) 患者の口腔内において、シーラントの対象歯を選択できる。 (2) シーラント対象歯において、ラバーダム防湿法を安全に実施できる。 (3) 患者に対し、シーラントの事前説明が実施できる。 (4) シーラントに必要な器具や材料が準備できる。 (5) シーラントを安全に実施できる。 (6) シーラントの患者説明ができる。 【授業アンケート】	教科書1のP236-242と参考書2のP95-101と参考書4のP112-114、181-185を精読する(0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール)

歯科予防処置実習Ⅲ

開講時期： 2年次前期
 授業時間数： 20コマ；40時間1単位
 受験資格要件： 4/5（16コマ）以上の出席
 科目番号： DH021225
 評価責任者： 川尻 望
 授業担当者： 永田俊彦、泉喜和子、後藤加寿子、
 馬場篤子、黒木まどか、井上庸子、
 石井綾子、南レイラ、森沙耶香、
 川尻 望、高木未沙稀、常清美佑、
 西川昌弘

1. 一般目標

本授業は将来、歯科衛生士として個人に対し、根拠や理論に基づいた口腔保健管理を実施するために必要な口腔内の情報を収集するとともに、口腔の健康を導き支援することができるための知識や技術および態度を修得する。

2. 教育方法

講義・演習・実習・相互学習・小グループ学習
 歯科医療機関において歯科医師あるいは歯科衛生士として診療に携わった実務経験を活かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、配布資料、PC+プロジェクター、DVD、各種実習器材

4. 学修方法

授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席になる。授業は予習していることを前提に開始する。レポート課題は締切期日を守る。本授業を理解する上で、歯科診療補助実習、歯科保健指導実習や口腔解剖学、口腔病理学、口腔衛生学、歯周病治療学で学習したことがベースとなるので、事前に理解を深めておくことが必要となる。準備学習を行うことにより他の科目との関連性を理解し、本科目に興味を持ち意欲的に取り組んでくれることを期待する。

[単位修得に必要な授業外学修時間：6時間]

5. 評価方法

[形成的評価] ミニテスト、レポートなど
 [フィードバック] 不十分な部分についてコメントを付して返却し、場合によっては再提出を求める。
 [総括的評価] 記述試験（80%）・ミニテスト・課題レポート（10%）授業参加状況（予習・復習の実施状況等）（10%）
 [フィードバック] 試験結果のフィードバックは採点后、結果を通知するとともに正解例を掲示する。

6. 教科書

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 （一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025
2. 「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論」第2版 （一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025

7. 参考書

1. 「新・歯科衛生士教育マニュアル 歯周病学」クインテッセンス出版 2018
2. 「歯科臨床の基礎と概論」クインテッセンス出版 2020
3. 歯科衛生学シリーズ「小児歯科学」医歯薬出 2025

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1 2	A班 4/10 (金) 3.4限 B班 4/14 (火) 3.4限	泉 馬場 石井 高木	ユニット1 口腔衛生アセスメント1 ～口腔・口腔周囲の観察・記録①軟組織 2人組相互実習 [講義・実習]	1) 口腔・口腔周囲の解剖名称と正常像を理解する。 2) 口腔・口腔周囲の軟組織（口腔粘膜、舌）の観察方法を理解する。	(1) 口腔・口腔周囲の軟組織解剖名称と部位を説明できる。 (2) 口腔・口腔周囲の軟組織（口腔粘膜、舌）の観察法を説明できる。 (3) 口腔・口腔周囲の軟組織（口腔粘膜、舌）の正常像について説明できる。	教科書1.のP16-25, 104-105, 123-124をまとめる。 (0.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
3 4	A班 4/15 (水) 1.2限 B班 4/15 (水) 3.4限	泉 後藤 川尻 高木	ユニット1 口腔衛生アセスメント1 ～口腔・口腔周囲の観察・記録②歯や歯列 2人組相互実習 [講義・実習]	1) 口腔・口腔周囲の解剖名称と正常像を理解する。 2) 口腔・口腔周囲の硬組織(歯や歯列、閉閉口、咬合関係)の観察方法を理解する。	(1) 歯や歯列の解剖名称と部位を説明できる。 (2) 口腔・口腔周囲の硬組織(歯や歯列、閉閉口、咬合関係)の観察法を説明できる。 (3) 口腔・口腔周囲の硬組織の正常像について説明できる	教科書1.のP16-25,104-105,123-124をまとめる。 (0.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
5 6	4/21 (火) 3.4限	森 川尻 常清 高木	ユニット2 共同動作 復習 3人1組 術者1人目 [相互実習]	1) 適切なポジショニングを実施できる 2) バキュームの基本動作を実施できる	(1) 施術部位に応じたポジショニングが実施できる (2) 施術部位に応じたバキュームの基本動作が実施できる	教科書2のP80-86,88-95を精読する。 (0.5時間)	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神運動 (コントロール)
7 8	4/24 (金) 3.4限	森 泉 川尻 常清 高木	ユニット2 共同動作 復習 3人1組 術者2.3人目 [相互実習]	1) 適切なポジショニングを実施できる 2) バキュームの基本動作を実施できる	(1) 施術部位に応じたポジショニングが実施できる (2) 施術部位に応じたバキュームの基本動作が実施できる	教科書2のP80-86,88-95を精読する。 (0.5時間)	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神運動 (コントロール)
9 10	4/28 (火) 3.4限	南 井上 石井 常清 高木	ユニット3 口腔衛生アセスメント3 ～初診患者の対応～医療面接・歯式・口腔内写真(染色前後)・染色 3人1組 術者1人目 [相互実習]	1) 医療面接について理解する。 2) 健康調査票の記載法を理解する。 3) 歯牙の観察について理解する。	(1) 必要な医療面接が実施できる。 (2) 患者から収集した情報を、健康調査票に記録することができる。 (3) 歯式をとることが出来る	教科書1のP86を精読する。 ユニット1-2の学修内容を確認する。 患者の口腔所見をまとめる。 (0.5時間)	認知 (問題解決) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
11 12	4/30 (木) 3.4限	南 井上 森 常清 高木	ユニット3 口腔衛生アセスメント3 ～初診患者の対応～医療面接・歯式・口腔内写真(染色前後)・染色 3人1組 術者2人目 [相互実習]	1) 医療面接について理解する。 2) 健康調査票の記載法を理解する。 3) 歯牙の観察について理解する。	(1) 必要な医療面接が実施できる。 (2) 患者から収集した情報を、健康調査票に記録することができる。 (3) 歯式をとることが出来る	ユニット1-2の学修内容を確認する。 患者の口腔所見をまとめる。 (0.5時間)	認知 (問題解決) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
13 14	5/1 (金) 3.4限	南 井上 森 常清 高木	ユニット2 口腔衛生アセスメント3 ～初診患者の対応～医療面接・歯式・口腔内写真(染色前後)・染色 3人1組 術者3人目 [相互実習]	1) 医療面接について理解する。 2) 健康調査票の記載法を理解する。 3) 歯牙の観察について理解する。	(1) 必要な医療面接が実施できる。 (2) 患者から収集した情報を、健康調査票に記録することができる。 (3) 歯式をとることが出来る	ユニット1-2の学修内容を確認する。 患者の口腔所見をまとめる。 (0.5時間)	認知 (問題解決) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
15	6/9 (火) 3限	馬場	ユニット5 口腔機能発達不全症の理解 [講義]	1) 小児の口腔機能発達不全症を理解する。	(1) 口腔機能の種類とその評価方法を説明できる (2) 口腔機能発達不全症について説明できる (3) 口腔機能発達不全症にトレーニングについて説明できる。	教科書1.のP268、教科書2.のP369-380、参考書3.のP18-19を精読する。 (0.5時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)
16	6/9 (火) 4限	南 森 常清 高木	ユニット5 口腔機能発達不全症の理解 [演習]	1) 小児の口腔機能発達不全症を理解する。	(1) 口腔機能の種類とその評価方法を説明できる (2) 口腔機能発達不全症について説明できる (3) 口腔機能発達不全症にトレーニングについて説明できる。	教科書1.のP268、教科書2.のP369-380、参考書3.のP18-19を精読する。 (0.5時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)
17	6/30 (火) 3限	川尻	ユニット4 シャープニング [講義]	1) シャープニングについて理解できる。	(1) シャープニングの原則および目的を説明できる。 (2) シャープニングする各種スクレーパーの形態と名称を説明できる。 (3) 砥石と潤滑材について説明できる。	1年次に学習したスクレーパーの形態について、授業で配布されたプリントを復習する。 教科書1.のシャープニングP189-196を精読し、実習後まとめる。 (0.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
18	7/2 (木) 3限	常清 南 西川	ユニット6 セルフケアによる歯周 病予防 [演習]	1) 歯周病の原因について 理解する。 2) セルフケアの基本につ いて理解する。	(1) 生活習慣と歯周病リスクを関 連づけて説明できる。 (2) 口腔内に合った清掃用具を適 切に選択・使用できる。	演習内容をレポー トにまとめる。 (0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣) 情意 (反応)
19 20	A班 7/9 (木) 3.4限 B班 7/10 (金) 3.4限	川尻 永田 井上 常清	ユニット4 シャープニング [実習]	1) シャープニングが実施 できる。	(1) キュレットスクレーラーのシ ャープニングが実施でき る。 [授業アンケート]	講義で配布した講 義プリントを復習 する。 (0.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)

歯科予防処置実習Ⅳ

開講時期： 2年次前期
 授業時間数： 40コマ；80時間 2単位
 受験資格要件： 4/5（32コマ）以上の出席
 科目番号： DH021226
 評価責任者： 黒木まどか
 授業担当者： 南レイラ、常清美佑、石井綾子、
 川尻 望、森沙耶香、高木未沙稀、
 馬場篤子、泉喜和子、後藤加寿子、
 井上庸子、黒木まどか、永田俊彦、
 石橋佳代

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として多様な対象者のQOL向上支援を、根拠や理論に基づく論理的な分析・考察を通して実施するために必要な歯科予防処置の知識や技術を修得する。また、歯科医療に携わる専門職の自覚と倫理観を、口腔保健管理を実践するために必要な態度として修得する。

2. 教育方法

講義・演習・実習

大学病院、歯科医院において、歯科衛生士および歯科医師として患者の口腔保健管理に携わった実務経験を生かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、配布資料、PC+プロジェクター、DVD

4. 学修方法

授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席になる。授業には、指定教科書と配布プリント等を必ず持参すること。予習していることを前提に開始する。レポート課題は締切期日を守る。本授業を理解する上で、口腔解剖学、口腔生理学、歯科予防処置論Ⅰ・実習Ⅰ、保健指導論Ⅰ・実習Ⅰの知識が必要であり、本授業は歯周病治療学、歯科予防処置論Ⅱ・実習Ⅲ・実習Ⅴの理解、歯科保健指導論Ⅱ・実習Ⅱ実習Ⅲの理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：10時間]

5. 評価方法

[形成的評価] ミニテスト、レポート

[フィードバック] レポートは、不十分な部分についてコメントを付して返却し、場合によっては再提出を求める。ミニテストは次の回の講義時に答案を返却し、模範解答を示す。

[総括的評価] 記述試験（70%）・客観試験（ミニテスト）（20%：ユニット2）授業参加状況（発問・質疑・グループワークでの発言や協力等授業への貢献度）（10%）

[フィードバック] 以上を総合的に評価し、定期試験終了後に通知する。尚、詳細は各ユニットの初日に説明する。

6. 教科書・テキスト

1. 『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025
2. 『歯科衛生学シリーズ 歯周病学』（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025
3. 『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版』（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (G10)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	4/8 (水) 2限	黒木	ユニット1 口腔衛生アセスメント1 ～歯周組織の観察・記録～ [講義]	1) 歯周組織検査の種類と方法を理解する。 2) 根分岐部診査について理解する。	(1) 歯周組織検査の種類と方法を説明することができる。 (2) 根分岐部診査の方法を説明することができる。	教科書1. P28-44、104-140、教科書3. のP85-95をまとめる。 (0.5時間)	認知 (解釈)
2 3	4/22 (水) 3・4 限	黒木 永田 川尻 高木	ユニット2-1 口腔衛生アセスメント2 ～歯周組織の観察・記録、根分岐部病変含む～ (マネキン) [実習]	1) 歯周組織検査の操作法について理解する。 2) 根分岐部診査の操作法について理解する。	(1) プロービングの操作と動揺度診査をマネキン上で実施できる。 (2) ファーケーションプローブの操作をマネキン上で実施できる。	ユニット1-1で学修した内容を確認する。 ユニット1-2講義の内容をまとめる。 (0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
4 5	A: 5/7 (木) 3・4限	黒木 永田 森 高木	ユニット2-1 口腔衛生アセスメント4 ～歯周組織の観察記録①～ PMA・P検査 2人1組 術者1人目 [相互実習]	1) 口腔内情報 (歯周組織検査) の収集法を理解する。 2) 検査結果の説明方法を理解する。	(1) 口腔内診査(歯周組織検査)を実施し、チャートに記録することができる。 (2) 検査結果を患者に説明できる。	ユニット1-2の学修内容を確認する。患者の口腔所見をまとめる。 (0.5時間)	認知 (問題解決) 精神 精神運動 (模倣) 態度 (受入)
	B: 5/8 (金) 3・4限	黒木 永田 常清 高木					
6 7	A: 5/13 (水) 3・4限	黒木 永田 常清 高木	ユニット1-4 口腔衛生アセスメント4 ～歯周組織の観察記録①～ PMA・P検査 2人1組 術者2人目 [相互実習]	1) 口腔内情報 (歯周組織検査) の収集法を理解する。 2) 検査結果の説明方法を理解する。	(1) 口腔内診査(歯周組織検査)を実施し、チャートに記録することができる。 (2) 検査結果を患者に説明できる。	ユニット1-2の学修内容を確認する。患者の口腔所見をまとめる。 (0.5時間)	認知 (問題解決) 精神 精神運動 (模倣) 態度 (受入)
	B: 5/14 (木) 3・4限	黒木 永田 川尻 常清					
8 9	5/20 (水) 3・4限	黒木 永田 川尻 常清 高木	ユニット3 スクレーリング相互実習前オリエンテーション [講義・実習]	1) スクレーリング操作を理解する。 2) 口腔内の観察項目とポイントを理解する。 3) 歯周治療の流れを理解する。	(1) スクレーリング操作の手順を説明できる。 (2) スクレーリング時に起こりうる不fast事項とその予防法を説明できる。 (3) 口腔のアセスメント項目を列挙できる。 (4) 歯周治療の流れを説明できる。 (1時間)	教科書1の「スクレーリング・ルートプレーニング」 P155-177、教科書2の「歯周治療の進め方」 P44-54および「歯周基本治療」 P74-86を精読する。 (1時間)	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神運動 (模倣)
10 11	A: 5/22 (金) 3・4限	黒木 永田 南 常清 高木	ユニット1 スクレーリング相互 1 (部位: 31-48) (2人一組: 1人目) [実習]	1) スクレーリングが実施できる。 2) 口腔内状況に応じた患者指導ができる。	(1) 歯肉や歯石の状態に合わせてスクレーラーを選択し、安全なスクレーリング操作を実施できる。 (2) 部位に合わせた適切なポジショニングをとることができる。 (3) スクレーリング時に起こりうる不fast事項とその予防法を説明できる。 (4) 口腔アセスメントを実施し、記録できる。	教科書1の「スクレーリング・ルートプレーニング」 P155-177、教科書2「歯周治療における歯科衛生士の役割1-4」 P136-176を精読する。(各1時間)	情意 (反応) 精神運動 (コントロール) (模倣)
	B: 5/21 (木) 3・4限	黒木 永田 南 常清 高木					
12 13	A: 5/28 (木) 3・4限	黒木 永田 南 常清 高木	ユニット1 スクレーリング相互 2 (部位: 31-48) (2人一組: 2人目) [実習]	1) スクレーリングが実施できる。 2) 口腔内状況に応じた患者指導ができる。	(1) 歯肉や歯石の状態に合わせてスクレーラーを選択し、安全なスクレーリング操作を実施できる。 (2) 部位に合わせた適切なポジショニングをとることができる。 (3) スクレーリング時に起こりうる不fast事項とその予防法を説明できる。 (4) 口腔アセスメントを実施し、記録できる。	教科書1「スクレーリング・ルートプレーニング」 P155-177、教科書2「歯周治療における歯科衛生士の役割1-4」 P136-176を精読する。 (各1時間)	情意 (反応) 精神運動 (コントロール)
	B: 5/27 (水) 3・4限	黒木 永田 川尻 常清 高木					
14 15	A: 6/11 (木) 3・4限	黒木 永田 南 森 高木	ユニット1 スクレーリング相互 3 (部位: 11-28) (2人一組: 1人目) [実習]	1) スクレーリングが実施できる。 2) 口腔内状況に応じた患者指導ができる。	(1) 歯肉や歯石の状態に合わせてスクレーラーを選択し、安全なスクレーリング操作を実施できる。 (2) 部位に合わせた適切なポジショニングをとることができる。 (3) スクレーリング時に起こりうる不fast事項とその予防法を説明できる。 (4) 口腔アセスメントを実施し、記録できる。	教科書1「スクレーリング・ルートプレーニング」 P155-177、教科書2「歯周治療における歯科衛生士の役割1-4」 P136-176を精読する。 (各1時間)	情意 (反応) 精神運動 (コントロール)
	B: 6/10 (水) 3・4限	黒木 永田 南 森 高木					
16 17	A: 6/17 (水) 3・4限	黒木 永田 南 川尻 高木	ユニット1 スクレーリング相互 4 (部位: 11-28) (2人一組: 2人目) [実習]	1) スクレーリングが実施できる。 2) 口腔内状況に応じた患者指導ができる。	(1) 歯肉や歯石の状態に合わせてスクレーラーを選択し、安全なスクレーリング操作を実施できる。 (2) 部位に合わせた適切なポジショニングをとることができる。 (3) スクレーリング時に起こりうる不fast事項とその予防法を説明できる。 (4) 口腔アセスメントを実施し、記録できる。	教科書1「スクレーリング・ルートプレーニング」 P155-177、教科書2「歯周治療における歯科衛生士の役割1-4」 P136-176を精読する。 (各1時間)	情意 (反応) 精神運動 (コントロール)
	B: 6/12 (金) 3・4限	黒木 永田 井上 南 高木					

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
18	6/17 (水) 2限	南	ユニット4 歯面研磨 [講義]	1) 歯面研磨について理解できる。	(1) 歯面研磨・歯面清掃の目的と特徴を説明できる。 (2) 歯面研磨・歯面清掃の有用性を説明できる。 (3) 歯面研磨・歯面清掃の手順が説明できる。	教科書1の「歯面研磨P196-201」を精読する。 (1時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
19 20	A: 6/19 (金) 3・4限	黒木 永田 川尻 高木	ユニット2 口腔衛生アセスメント4 ～歯周組織の観察記録②～PMA・P検査 術者1人目 [相互実習]	1) 口腔内情報(歯周組織検査)の収集法を理解する。 2) 検査結果の説明方法を理解する。	(1) 口腔内診査(歯周組織検査)を実施し、チャートに記録することができる。 (2) 検査結果を患者に説明できる。	歯科予処置実習Ⅲ ユニット1-4の学修内容を確認する。 患者の口腔所見をまとめる。 (各1時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (模倣) 態度 (受入)
	B: 6/18 (木) 3・4限	黒木 永田 川尻 高木					
21 22	A: 6/25 (木) 1・2限	黒木 永田 馬場 高木	ユニット2 口腔衛生アセスメント4 ～歯周組織の観察記録②～PMA・P検査 術者2人目 [相互実習] [ピアサポート実習]				
	B: 6/24 (水) 1・2限	黒木 永田 馬場 川尻					
23 24	A: 6/24 (水) 3・4限	南 永田 泉 川尻 常清	ユニット4 歯面研磨・歯面清掃 (2人一組:1人目) [マネキン実習]	1) 歯面研磨・歯面清掃が実施できる。	(1) 歯面研磨・歯面清掃を行う器具を選択できる。 (2) 歯面研磨・歯面清掃方法を選択し、安全性や患者に配慮した操作で実施できる。 (3) 使用した器具・器材の適切なメンテナンスができる。	教科書1の「歯面研磨P196-201」を精読する。 講義で配布した授業プリントを復習する (0.5時間)	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神運動 (模倣)
	B: 6/25 (木) 3・4限	南 永田 黒木 川尻 常清					
25 26	A: 6/26 (金) 3・4限	南 永田 石井 川尻 常清	ユニット4 歯面研磨・歯面清掃(2人一組:2人目) [マネキン実習]	1) 歯面研磨・歯面清掃が実施できる。	(1) 歯面研磨・歯面清掃を行う器具を選択できる。 (2) 歯面研磨・歯面清掃方法を選択し、安全性や患者に配慮した操作で実施できる。 (3) 使用した器具・器材の適切なメンテナンスができる。	教科書1の「歯面研磨P196-201」を精読する。 講義で配布した授業プリントを復習する (1時間)	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神運動 (模倣)
	B: 7/1 (水) 3・4限	南 永田 黒木 川尻 常清					
27 28	A: 7/3 (金) 3・4限	南 永田 泉 常清	ユニット4 歯面研磨・歯面清掃 (3人一組:1人目) [相互実習]	1) 歯面研磨・歯面清掃が実施できる。	(1) 歯面研磨・歯面清掃を行う器具を選択できる。 (2) 歯面研磨・歯面清掃方法を選択し、安全性や患者に配慮した操作で実施できる。 (3) 使用した器具・器材の適切なメンテナンスができる。	ユニット4の学修内容を確認する。 講義で配布した授業プリントを復習する (1時間)	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神運動 (コントロール)
	B: 7/8 (水) 1・2限	南 永田 泉 常清					
29 30	A: 7/10 (金) 3・4限	南 石井 森 高木	ユニット4 歯面研磨・歯面清掃 (3人一組:2人目) [相互実習]				
	B: 7/15 (水) 3・4限	南 後藤 石井 高木					
31	7/14 (火) 3限	南	ユニット3 歯面清掃器 [講義]	1) 歯面清掃器の適応、使用方法について理解する。 2) 施術内容の説明方法を理解する。	(1) 歯面清掃の種類と特徴を説明することができる。 (2) 施術内容を患者に説明できる。	教科書1のP208-207を精読する。 (0.5時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
32 33	A : 7/15 (水) 3・4限	黒木 永田 泉 川尻 常清	ユニット5 スケーリング ルートプレーニング [実習]	1) スケーリング・ ルートプレーニン グ(SRP)について 理解する。	(1) SRP前の口腔内の観察と 留意点を述べることで きる。 (2) SRPの基本を説明で きる。 (3) マネキンでSRPの基本操 作ができる。	教科書1「スケーリン グ・ルートプレーニ ング」P155-177、教 科書2の「歯周治 療における歯科衛生 士の役割1-4,7」 P136-176,P191-195 を精読する。 (1時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
	B : 7/16 (木) 3・4限	黒木 永田 川尻 常清 高木					
34 35	A : 7/16 (木) 3・4限	南 井上 石井 森	ユニット4 歯面研磨・歯面清掃 (3人一組:3人目) [相互実習]	1) 歯面研磨・歯面 清掃が実施でき る。	(1) 歯面研磨・歯面清掃を行 う器材を選択できる。 (2) 歯面研磨・歯面清掃方法 を選択し、安全性や患者 に配慮した操作で実施で きる。 (3) 使用した器具・器材の適 切なメンテナンスがで きる。	教科書1の「歯面 研磨P196-201」を 精読する。 講義で配布した授業 プリントを復習する (1時間)	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神運動 (模倣)
	B : 7/22 (水) 1・2限	南 永田 石井 常清					
36 37	7/18 (金) 3,4限	常清	ユニット7 術前術後の比較(カル テ整理) [演習]	1) ユニット6-1で まとめた改善計 画が発表でき る。	(1) スケーリング前・後の口 腔内の状況を比較し、説 明できる。 (2) 歯周病のリスクを判断 し、立案した改善計画の 説明ができる。	教科書1の「歯科衛 生過程」P66-P89、 「成人期の歯科衛生 介入」P346-354を精 読し、情報を整理し 介入計画をまとめる (1時間)	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神運動 (コントロール)
38	7/23 (木) 3限	石橋 南 高木	ユニット3 歯面清掃器 2人1組 [マネキン実習]	1) 歯面清掃器の適 応、使用方法に ついて理解す る。 2) 施術内容の説明 方法を理解す る。	(1) 歯面清掃を実施するこ とができる。 (2) 施術時の注意点を説明 できる。	実習後に振り返りを行 う。 (0.5時間)	認知 (解釈) 精神 精神運動 (模倣) 態度 (受入)
39 40	A : 7/24 (金) 1・2限	南 井上 高木	ユニット3 歯面清掃器 2人1組 [相互実習]	1) 歯面清掃器の適 応、使用方法に ついて理解す る。 2) 施術内容の説明 方法を理解す る。	(1) 歯面清掃を実施するこ とができる。 (2) 施術内容を患者に説明 できる。 【授業アンケート】	教科書1のP230-233 を精読し、まとめ る。 (0.5時間)	認知 (想起) 精神 精神運動 (模倣) 態度 (受入)
	B : 7/24 (金) 3・4限	南 井上 高木					

歯科予防処置実習Ⅴ

開講時期： 2 年次後期
 授業時間数： 20 コマ ; 40 時間 1 単位
 受験資格要件： 4/5 (16 コマ) 以上の出席
 科目番号： DH021227
 評価責任者： 川尻 望
 授業担当者： 永田俊彦、馬場篤子、泉喜和子、
 黒木まどか、井上庸子、石井綾子、
 南レイラ、森沙耶香、川尻 望、
 高木未沙稀、常清美佑

1. 一般目標

本授業は将来、歯科衛生士として個人に対し、根拠や理論に基づいた口腔保健管理を実施するために必要な齲蝕予防、歯周病予防に関する知識、技術および態度を修得する。

2. 教育方法

講義・演習・実習・相互学習・小グループ学習
 歯科医療機関において歯科医師あるいは歯科衛生士として診療に携わった実務経験を活かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、配布資料、PC+プロジェクター、DVD、各種実習器材

4. 学修方法

授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席になる。授業は予習していることを前提に開始する。レポート課題は締切期日を守る。本授業を理解する上で、保存修復学、歯周病治療学、口腔衛生学、口腔解剖学等で学習したことがベースとなるので、事前に理解を深めておくことが必要となる。また、本授業は歯科予防処置実習、歯科診療補助実習、歯科保健指導実習の理解に不可欠である。準備学習を行うことにより他の科目との関連性を理解し、本科目に興味を持ち意欲的に取り組んでくれることを期待する。

[単位修得に必要な授業外学修時間：5 時間]

5. 評価方法

[形成的評価] ミニテスト、レポートなど
 [フィードバック] 不十分な部分についてコメントを付して返却し、場合によっては再提出を求める。
 [総括的評価] 記述試験 (70%)・ミニテスト (10%)・課題レポート (10%) 授業参加状況 (予習・復習の実施状況等) (10%)
 [フィードバック] 試験結果のフィードバックは採点后、答案を返却するとともに正解例を掲示する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」第 2 版 (一社) 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025

7. 参考書

1. 「新・歯科衛生士教育マニュアル 歯周病学」第 2 版 クインテッセンス出版 2020
2. 「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論」第 2 版 医歯薬出版 2025
3. 「口腔衛生学-口腔保健統計を含む-」第 4 版 学建書院 2020
4. 「歯科衛生学シリーズ 小児歯科」第 1 版第 3 刷 医歯薬出版 2025

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育目標 領域
1	9/15 (火) 2 限	川尻	ユニット1 機械的スクレーラー の取り扱い [講義]	1) 機械的スクレーラーについて理解する。	(1) 超音波スクレーラーの種類と特徴が説明できる。 (2) 超音波スクレーラーの使用方法が説明できる。 (3) エアスクレーラーの種類と特徴が説明できる。 (4) エアスクレーラーの使用方法が説明できる。	教科書 1. 機械的スクレーラーと操作 法 P177-188 を精読する (0.5 時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育目標 領域
2 3	A 班 9/24 (木) 1.2 限 B 班 9/18 (金) 1.2 限	川尻 永田 石井 南 常清 高木	ユニット1 機械的スクレーラーの準備、取り扱い (マネキン顎模型上) [実習]	1) 機械的スクレーラーの準備と取り扱いができる。	(1) 超音波スクレーラーの準備ができる。 (2) マネキン模型上で、超音波スクレーラーを安全に操作できる。 (3) エアスクレーラーの準備ができる。 (4) マネキン模型上で、エアスクレーラーを安全に操作できる。	教科書1. 機械的スクレーラーと操作法 P177-188を精読する (0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣) 情意 (受入)
4 5	A 班 9/30 (水) 1.2 限 B 班 9/25 (木) 1.2 限	川尻 永田 南 森 高木	ユニット1 機械的スクレーラーを用いたスクレーリング操作 (3人1組: 術者1人目) [相互実習]	1) 機械的スクレーラーを安全に操作できる。	(1) 超音波スクレーラーの準備ができる。 (2) 口腔内で、超音波スクレーラーを安全に操作できる。 (3) エアスクレーラーの準備ができる。 (4) 口腔内で、エアスクレーラーを安全に操作できる。 (5) スクレーリング後の患者説明ができる。	教科書1. 機械的スクレーラーと操作法 P177-188を精読する (0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣) 情意 (受入)
6 7	A 班 10/1 (木) 1.2 限 B 班 10/2 (金) 1.2 限	川尻 永田 馬場 井上 南 常清 高木	ユニット1 機械的スクレーラーを用いたスクレーリング操作 (3人1組: 術者2人目) [相互実習]	1) 機械的スクレーラーを安全に操作できる。	(1) 超音波スクレーラーの準備ができる。 (2) 口腔内で、超音波スクレーラーを安全に操作できる。 (3) エアスクレーラーの準備ができる。 (4) 口腔内で、エアスクレーラーを安全に操作できる。 (5) スクレーリング後の患者説明ができる。	教科書1. 機械的スクレーラーと操作法P177-188を精読する (0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣) 情意 (受入)
8 9	A 班 10/6 (火) 1.2 限 B 班 10/7 (水) 1.2 限	川尻 永田 泉 石井 常清	ユニット1 機械的スクレーラーを用いたスクレーリング操作 (3人1組: 術者3人目) [相互実習]	1) 機械的スクレーラーを安全に操作できる。	(1) 超音波スクレーラーの準備ができる。 (2) 口腔内で、超音波スクレーラーを安全に操作できる。 (3) エアスクレーラーの準備ができる。 (4) 口腔内で、エアスクレーラーを安全に操作できる。 (5) スクレーリング後の患者説明ができる。	教科書1. 機械的スクレーラーと操作法P177-188を精読する (0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣) 情意 (受入)
10 11	A 班 10/13 (火) 1.2 限 B 班 10/14 (水) 1.2 限	南 永田 石井 高木	ユニット2 PMTC [マネキン実習]	1) PMTCが実施できる。	(1) PMTCに必要な器具や材料が準備できる。 (2) 口腔内で、PMTCが安全に実施できる。 (3) PMTC後の手順が説明できる。 (4) PMTC後の患者説明ができる。	教科書1. P201-203を精読する。 (0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
12 13	A 班 10/15 (木) 1.2 限 B 班 10/16 (金) 1.2 限	南 永田 黒木 川尻 常清 高木	ユニット2 PMTC 2人1組術者1人目 [相互実習]	1) PMTCが実施できる。	(1) PMTCに必要な器具や材料が準備できる。 (2) 口腔内で、PMTCが安全に実施できる。 (3) PMTC後の手順が説明できる。 (4) PMTC後の患者説明ができる。	教科書1. P201-203を精読する。 (0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール) 情意 (受入)
14 15	A 班 10/30 (金) 1.2 限 B 班 10/22 (木) 1.2 限	南 永田 泉 川尻 高木	ユニット2 PMTC 2人1組術者2人目 [相互実習]	1) PMTCが実施できる。	(1) PMTCに必要な器具や材料が準備できる。 (2) 口腔内で、PMTCが安全に実施できる。 (3) PMTC後の手順が説明できる。 (4) PMTC後の患者説明ができる。	教科書1. P201-203を精読する。 (0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール) 情意 (受入)
16	1/8 (金) 1 限	川尻 常清 高木	ユニット3 機械的スクレーラーの準備、取り扱い 復習	1) 機械的スクレーラーを安全に操作できる。	(1) 超音波スクレーラーの準備ができる。 (2) 口腔内で、超音波スクレーラーを安全に操作できる。 (3) エアスクレーラーの準備ができる。 (4) 口腔内で、エアスクレーラーを安全に操作できる。 (5) スクレーリング後の患者説明ができる。	教科書1. 機械的スクレーラーと操作法P177-188を精読する (0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣) 情意 (受入)
17 18	A 班 1/12 (火) 1.2 限 B 班 1/14 (木) 1.2 限	川尻 南 森 常清 高木	ユニット3 機械的スクレーラーを用いたスクレーリング操作 (2人1組: 術者1人目) [相互実習]	1) 機械的スクレーラーを安全に操作できる。	(1) 超音波スクレーラーの準備ができる。 (2) 口腔内で、超音波スクレーラーを安全に操作できる。 (3) エアスクレーラーの準備ができる。 (4) 口腔内で、エアスクレーラーを安全に操作できる。 (5) スクレーリング後の患者説明ができる。	教科書1. 機械的スクレーラーと操作法P177-188を精読する (0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣) 情意 (受入)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育目標 領域
19 20	A 班 1/14 (木) 3.4 限 B 班 1/15 (金) 1.2 限	川尻 井上 森 常清 高木	ユニット3 機械的スケーラー を用いたスケーリ ング操作 (2人1組:術者2 人目) [相互実習]	1) 機械的スケー ラーを安全 に操作でき る。	(1) 超音波スケーラーの準備ができる。 (2) 口腔内で、超音波スケーラーを安全に操作できる。 (3) エアスケーラーの準備ができる。 (4) 口腔内で、エアスケーラーを安全に操作できる。 (5) スケーリング後の患者説明ができる。 授業アンケート	教科書 1. 機械的 スケーラーと操 作法P177-188 を 精読する (0.5時 間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣) 情意 (受入)

歯科保健指導論（講義）Ⅰ

開講時期：	2年次前期
授業時間数：	10コマ；20時間1単位
受験資格要件：	2/3（7コマ）以上の出席
科目番号：	DH021231
評価責任者：	石井綾子
授業担当者：	石井綾子

1. 一般目標

地域口腔保健活動を実施する中で対象者の生活の質（QOL）の向上を目的として、個人や特定の小集団が抱える問題を発見、解決するための知識を修得する。

2. 教育方法

講義・演習、相互学習・グループワーク等のアクティブ・ラーニングを行う。

医療機関において歯科衛生士として地域保健活動に関わった実務経験を生かした基礎教育並びに実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、DVD、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業を受講するに当たり、下記予習項目に記載の学修を行うこと。また、授業後は、配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。事前・事後学修（予習・復習）を怠らず、また、授業中は真摯に臨み、理解できないことはその場で質問を行い解決すること。相互学習やグループワーク、症例検討等のアクティブラーニングについては、グループで協力して資料を作成し、発表に備えること。レポート課題を提示された場合には、期日までに仕上げること。

授業には、教科書と配布プリントを必ず持参すること。

本科目は他の主要3科目や関連科目で学習したことがベースとなるので、事前に理解を深めておくことが必要となる。準備学習を行うことにより他の科目との関連性を理解し、本科目に興味を持ち意欲的に取り組むことを期待する。

【単位修得に必要な授業外学修時間：25時間】

5. 評価

[形成的評価] ミニテスト・レポート

[フィードバック] 不十分な箇所にはコメントを加え、再提出を求める場合もある。

基本的にミニテストは、前回学修した内容の復習、または、講義内容の確認として授業開始直後・終了直前に実施する。内容の振り返りは、その時間、または、次の回の講義時に答案の返却で行う。

[総括的評価] 記述試験（80%）、ミニテスト・レポート（10%）、授業参加状況（予習・復習の実施状況含む）（10%）

[フィードバック] 総括的評価の結果（成績）は、集計後に通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025

7. 参考書

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版」（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025
2. 「歯科衛生学シリーズ 歯科材料学」（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2023
3. 「歯科衛生士国試対策集 2026年対応」歯科衛生士国試対策研究会編 クインテッセンス出版 2024

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育目標 領域
1 2	4/6 (月) 1限目 4/7 (火) 3限目	石井	ユニット1-1 地域口腔保健活動(集団対象)の基礎知識1 [講義] ユニット1-2 地域口腔保健活動(集団対象)の基礎知識2 [講義]	1) 地域口腔保健活動の変遷について理解する。 2) 地域口腔保健活動の対象者と現場で果たす歯科衛生士の役割を理解する。 3) 健康教育の進め方を理解する。	(1) 健康教育の対象と場の特徴を説明できる。 (2) 健康教育活動の工夫と留意点を説明できる。 (3) 健康教育活動の計画立案評価ができる。 (4) 集団・組織・地域の実態が把握できる。 (5) 健康教育活動の方法を説明できる。	教科書1. P400-407 指導型健康教育と学修援助型健康教育の手法について調べる。 事前学修 2時間 事後学修 2時間	認知 (想起)
3	4/7 (火) 4限目	石井	ユニット2 歯科衛生教育活動の現場の理解1 [講義]	1) 保健所、地域保健センターにおける歯科衛生士の役割を理解する。	(1) 集団・組織・地域の実態が把握できる。 (2) 対象者の特性と口腔保健ニーズの把握ができる。 (3) 地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割を説明できる。	教科書1. P408-425 を精読し、1.6歳児、3歳児のう蝕罹患型の分類と各指導内容を調べる。 事前学修 2時間	認知 (想起)
4	4/8 (水) 1限目	石井	ユニット3-1 各ライフステージ別の口腔保健管理1 [講義]	1) 妊産婦期・新生児期における口腔保健管理について理解する。	(1) 母子歯科保健の意義と歯科衛生士の果たす役割として以下の項目について説明できる。 ・妊産婦健診における歯科の役割 ・妊産婦の特性 ・乳幼児健診における歯科の役割 ・乳幼児の特性 (2) 妊産婦期・新生児期における口腔保健管理として以下の項目について説明できる。 ・一般的特徴と口腔の特徴 ・望ましい歯科保健行動 ・プロフェッショナルケアの目標 ・セルフケアの目標 ・食生活の特徴と指導	教科書1. P304-311を精読し、妊産婦期・新生児期の口腔の特徴と望ましい歯科保健行動についてまとめる。 事前学修 2時間 事後学修 1時間	認知 (解釈)
5	4/16 (木) 1限目	石井	ユニット3-2 各ライフステージ別の口腔保健管理2 [講義]	1) 乳児期・幼児期における口腔保健管理について理解する。	(1) 乳児期・幼児期における口腔保健管理として以下の項目について説明できる。 ・一般的特徴と口腔の特徴 ・望ましい歯科保健行動 ・プロフェッショナルケアの目標 ・セルフケアの目標 ・食生活の特徴と指導	教科書1. P311-329を精読し、乳児期・幼児期の口腔の特徴と望ましい歯科保健行動についてまとめる。 事前学修 2時間 事後学修 1時間	認知 (解釈)
6	4/20 (月) 2限目	石井	ユニット3-3 各ライフステージ別の口腔保健管理3 [講義]	1) 学童期・青年期における口腔保健管理について理解する。	(1) 学童期・青年期における口腔保健管理について説明できる ・一般的特徴と口腔の特徴 ・望ましい歯科保健行動 ・プロフェッショナルケアの目標 ・セルフケアの目標 ・食生活の特徴と指導	教科書1. P329-344を精読し、学童期・青年期の口腔の特徴と望ましい歯科保健行動についてまとめる。 事前学修 2時間 事後学修 1時間	認知 (解釈)
7	4/22 (水) 1限目	石井	ユニット3-4 各ライフステージ別の口腔保健管理4 [講義]	1) 成人期における口腔保健管理について理解する。 2) 老年期における口腔保健管理について理解する。	(1) 成人期・老年期における口腔保健管理について説明できる。 ・一般的特徴と口腔の特徴 ・口腔保健と生活習慣の関係を説明できる。 (2) 非感染性疾患 (NCDs) の種類と特徴および口腔との関連を説明できる。 ・対象者の疾患・異常のリスクに応じた生活習慣指導ができる。 ・禁煙支援ができる。 (3) ストレスマネジメントを説明できる。	教科書1. P344-372を精読し、成人期・老年期の口腔の特徴と望ましい歯科保健行動についてまとめる。 事前学修2時間 事後学修 1時間	認知 (解釈)
8 9	5/13 (水) 1,2限目	石井	ユニット4-1 対象者把握と理解 [講義・演習、相互学習]	1) 対象者が抱える問題を理解する 2) 対象者に応じた支援法を修得する。	(1) 対象者が抱える問題を示すことができる。 (2) 対象者に合わせたコミュニケーションができる。 (3) 対象者に合わせたモチベーションを与えることができる。 (4) 媒体を活用し、対象者に合わせた支援ができる。	ユニット4-1～5の対象者が抱える問題点を抽出する。 事前学修 1時間 抽出した問題点に対する支援策を考える。(宿題) 事後学修 4時間	認知 (問題解決) 態度 (受入)
10	7/17 (金)	石井	ユニット4-2 各ライフステージ別口腔管理のまとめ [講義・演習、相互学習]	1) 対象者が抱える問題を理解する 2) 対象者に応じた支援法を修得する。	(1) 対象者が抱える問題を示すことができる。 (2) 対象者に合わせたコミュニケーションができる。 (3) 対象者に合わせたモチベーションを与えることができる。 (4) 媒体を活用し、対象者に合わせた支援ができる。	ユニット4-1～5の対象者が抱える問題点を抽出する。 事前学修 1時間 抽出した問題点に対する支援策を考える。(宿題) 事後学修 4時間	認知 (問題解決) 態度 (受入)

歯科保健指導論（講義）Ⅱ

開講時期： 2年次後期
授業時間数： 9コマ；18時間 1単位
受験資格要件： 2/3（6コマ）以上の出席
科目番号： DH021232
評価責任者： 石井 綾子
授業担当者： 石井綾子 内藤徹 井上庸子
南レイラ 森 沙耶香 川尻望
常清美佑 高木未沙稀

1. 一般目標

各ライフステージの特徴と生活習慣を把握し、その対象者が抱える問題について科学的思考をもって解決を図り、望ましい歯科保健行動に導くための手法として歯科衛生過程を学ぶ。また、口腔保健管理の実施記録（歯科衛生業務記録）の記載を修得する。

2. 教育方法

講義・演習、相互学習・グループワーク等のアクティブ・ラーニングを行う。

医療機関において歯科衛生士・歯科医師として地域保健活動に関わった実務経験を生かした基礎教育並びに実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、DVD、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業を受講するに当たり、下記予習項目に記載の学修を行うこと。また、授業後は、配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。事前・事後学修（予習・復習）を怠らず、また、授業中は真摯に臨み、理解できないことはその場で質問を行い解決すること。相互学習やグループワーク、症例検討等のアクティブラーニングについては、グループで協力して資料を作成し、発表に備えること。レポート課題を提示された場合には、期日までに仕上げること。

授業には、教科書と配布プリントを必ず持参すること。

本科目は他の主要3科目や関連科目で学習したことがベースとなるので、事前に理解を深めておくことが必要となる。準備学習を行うことにより他の科目との関連性を理解し、本科目に興味を持ち意欲的に取り組んでくれることを期待する。

【単位修得に必要な授業外学修時間：27時間】

5. 評価

形成的評価：ミニテスト・レポート

フィードバック：不十分な箇所にはコメントを加え、再提出を求める場合もある。

基本的にミニテストは、前回学修した内容の復習、または、講義内容の確認として授業開始直後・終了直前に実施する。内容の振り返りは、その時間、または、次の回の講義時に答案の返却で行う。

総括的評価：記述試験（70%）、ミニテスト・レポート（20%）、授業参加状況（予習・復習の実施状況含む）（10%）

フィードバック：総括的評価の結果（成績）は集計後に通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 第1版 医歯薬出版 2025
2. 歯科衛生士テキスト「口腔衛生学・口腔保健統計を含むー 2018」 荒川浩久他 第4版 学建書院

7. 参考書

1. 歯科衛生士国試対策研究会編 歯科衛生士国試対策集 2026年対応 クインテッセンス出版 2025

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	11/11 (水) 4限目	石井	ユニット1 健康教育の手法 [講義・演習 グループワーク 討論]	1) 幼児・学童を対象とした 集団に対する健康教育の手法 を理解する。	(1) 幼児・学童を対象とした集団 に対する健康教育の内容を評価し、 改善することができる。	幼児・学童を対象とした健康 教育の改善を図る。 事前事後学修 4時間	認知 (問題解決) 情意 (反応) 精神運動 (コントロール)
2	12/3 (木) 3限目	石井	ユニット2-1 歯科衛生過程1 歯科衛生アセスメント [講義・演習 グループワーク 討論]	1) 歯科衛生過程の概念と目的 を理解す	(1) 対象者から必要な全身的・口腔 内情報を適切に収集できる。 (2) 問診、口腔内診査結果、生活 習慣などの情報を整理できる。	教科書1. P66-80を精読し まとめる。 小テストに向けて学修する。 事前事後学修 4時間	認知 (解釈) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
3	12/7 (月) 2限目	石井	ユニット2-2 歯科衛生過程2 歯科衛生診断、計画立案 [講義・演習]	1) 歯科衛生過程の各段階 (情報収集・アセスメント・計 画立案・実施・評価)を体系的に 理解する① 【小テスト1 歯科衛生ニーズについて】	(1) 収集した情報を基に口腔内の 問題点を明確化できる。 (2) 歯周疾患・う蝕リスク・セル フケア状況を評価できる。 (3) 対象者の生活背景や行動特 性を踏まえた課題を抽出できる。		
4	12/9 (水) 4限目	石井	ユニット2-3 歯科衛生過程3 介入と評価 [講義・演習]	1) 歯科衛生過程の各段階 (情報収集・アセスメント・計 画立案・実施・評価)を体系的に 理解する②	(1) 抽出した問題点に基づき、適 切な歯科保健指導目標を設定可 能 (2) 対象者に応じた具体的な指 導内容・方法を計画できる指導 計画に優先順位を付けて立案可 能	教科書1. P80-89を精読し まとめる。 事前事後学修 4時間	認知 (解釈) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
5	12/16 (水) 4限目	内藤	ユニット3 多職種連携について (歯科衛生士・看護師との 連携) [講義・演習 グループワーク 討論]	1) 多職種連携の意義 歯科・ 看護の連携について学ぶ。 2) 歯科衛生士と看護の連携 について学ぶ。	(1) 多職種連携の意義 歯科・ 看護の連携について説明できる	他職種連携(歯科衛生士・ 看護師)の意義について調べる 事前事後学修 5時間	認知 (解釈) 情意 (反応)
6 7	1/13 (水) 1.2限目	石井 井上 森 常清 高木	ユニット2-4 歯科衛生過程における事例 検討 ユニット2-5 歯科衛生過程における事例 発表 [講義・演習 グループワーク 討論]	1) モデルケースから歯科衛生 過程について検討する。	(1) モデルケースを基に、歯科衛 生過程のワークを実施できる。 (2) モデルケースの情報からア セスメントの整理ができる。 (3) 長期目標・短期目標を 作成し、介入計画を立案できる。	モデルケース1(症例検討) によるアセスメントから 介入計画まで立案する。 事前事後学修 5時間	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神運動 (コントロール)
8 9	1/18 (月) 1.2限目	石井 南 川尻 森 高木	ユニット2-6 歯科衛生過程まとめ [講義・演習 グループワーク 討論]	1) モデルケースの改善内容を 検討する。	(1) 検討した内容の発表が可 能。 (2) 他者が発表した内容を評 価し、アドバイスができる。 (3) 他者からのアドバイスを 参考にモデルケースの発表内 容の改善が図れる。 【授業アンケート実施】	モデルケースを基にアセス メントから介入計画まで立 案する。モデルケースの発 表内容を改善する。 事前事後学修 5時間	認知 (問題解決) 情意 (反応) 精神運動 (自動化)

栄養学

開講時期： 2年次前期
 授業時間数： 15コマ；30時間 1単位
 受験資格要件： 2/3（10コマ）以上の出席
 科目番号： DH021233
 評価責任者： 中園 栄里
 授業担当者： 中園 栄里

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として対象者の生活の質（QOL）の向上のため、基本的な栄養学の知識と食事摂取基準や食生活に関連した制度を理解する。

2. 教育方法

講義・相互学習

管理栄養士として栄養相談などに携わった実務経験を活かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、配布資料、PC+プロジェクター。

4. 学修方法

授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席になる。授業は予習していることを前提に開始する。レポート課題は締切期日を守る。本授業を理解する上で、口腔生化学の知識が必要であり、本授業は食育の理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：15時間]

5. 評価方法

[形成的評価] ミニテスト

[フィードバック] 採点后、答案を返却するとともに正解例を掲示する。

[総括的評価] 記述試験（70%）・ミニテスト（20%）・授業参加状況（予習・復習の実施状況等）（10%）

[フィードバック] 試験結果のフィードバックは採点后、試験結果（成績）を通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能3 栄養学」（一社）全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版、2025年

7. 参考書

1. 「日本人の食事摂取基準 2025年版」佐々木 敏・伊藤貞嘉（監修）、第一出版、2025年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	4/23 (木) 1限	中園	オリエンテーション ユニット1 栄養の概念・食生活 の意義 [講義]	1) 五大栄養素の種類と概要を理解する。 2) 健康づくりと食生活の関連を理解する。	(1) 五大栄養素の種類を列挙できる。 (2) 国民健康・栄養調査の結果から現在の日本人の食生活を考察する。	「五大栄養素とは何か」をレポート用紙に書く。 (1時間)	認知 (想起)
2	4/23 (木) 4限	中園	ユニット1 糖質の種類と働き [講義]	1) 糖質の種類を理解する。 2) 糖質の働きを理解する。 3) 糖質とその他の栄養素との関係を理解する。	(1) 糖質の種類を列挙できる。 (2) 糖質の働きを列挙できる。 (3) 糖質とその他の栄養素との関係を述べる事ができる。	糖質の種類と構造を調べ、レポート用紙に書く。 (1時間)	認知 (想起)
3	4/30 (木) 1限	中園	ユニット1 脂質の種類と働き [講義]	1) 脂質の構造を理解する。 2) 脂肪酸の種類と特徴を理解する。 3) 脂質の働きを理解する。 4) 脂質の不足と過剰による体への影響を理解する。	(1) 脂質の構造を列挙できる。 (2) 脂肪酸の種類と特徴を列挙できる。 (3) 脂質の働きを列挙できる。 (4) 脂質の不足と過剰による体への影響を述べる事ができる。	脂肪酸の種類を調べ、レポート用紙に書く。 (1時間)	認知 (想起)
4	5/14 (木) 1限	中園	ユニット1 タンパク質の種類と働き [講義]	1) アミノ酸の種類を理解する。 2) タンパク質の働きを理解する。 3) 摂取タンパク質の質の評価を理解する。	(1) アミノ酸の種類を列挙できる。 (2) タンパク質の働きを列挙できる。 (3) 摂取タンパク質の質の評価を述べる事ができる。	アミノ酸の種類を調べ、レポート用紙に書く。 (1時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習項目と 必要時間	教育 目標 領域
5	5/21 (木) 1限	中園	ユニット1 ビタミンの種類と働き [講義]	1) ビタミンの種類を理解する。 2) ビタミンの働きを理解する。 3) ビタミンの過剰症を理解する。 4) ビタミンの欠乏症を理解する。	(1) ビタミンの種類を列挙できる。 (2) ビタミンの働きを列挙できる。 (3) ビタミンの過剰症を述べることができる。 (4) ビタミンの欠乏症を述べることができる。	ビタミンの種類を調べ、レポート用紙に書く。 (1時間)	認知 (想起)
6	5/28 (木) 1限	中園	ユニット1 ミネラルの種類と働き [講義]	1) ミネラルの種類を理解する。 2) ミネラルの働きを理解する。 3) ミネラルの不足と過剰による体への影響を理解する。	(1) ミネラルの種類を列挙できる。 (2) ミネラルの働きを列挙できる。 (3) ミネラルの不足と過剰による体への影響を述べることができる。	ミネラルの種類を調べ、レポート用紙に書く。 (1時間)	認知 (想起)
7	6/4 (木) 1限	中園	ミニテスト ユニット2 水分、食物繊維、フィトケミカルの働き [講義]	ユニット1に関する知識習得を確認する。 1) 水分の働きを理解する。 2) 食物繊維の働きを理解する。 3) フィトケミカルの体への影響を理解する。	ユニット1に関する重要な栄養素の種類と働きを確認することができる。 (1) 水分の働きを列挙できる。 (2) 食物繊維の働きを列挙できる。 (3) フィトケミカルの体への影響を述べることができる。	ユニット1の復習をする。 (1時間)	認知 (想起)
8	6/11 (木) 1限	中園	ユニット3 消化と吸収 [講義]	1) 消化の種類を理解する。 2) 消化の過程を理解する。 3) 吸収のメカニズムを理解する。	(1) 消化の種類を列挙できる。 (2) 吸収のメカニズムを述べることができる。	三大栄養素の吸収のメカニズムをレポート用紙に書く。 (1時間)	認知 (想起)
9	6/18 (木) 1限	中園	ユニット4 健康と栄養 (日本人の食事摂取基準) [講義]	1) 日本人の食事摂取基準の見方を理解する。 2) エネルギーの指標を理解する。 3) 栄養素の指標を理解する。	(1) 食事摂取基準の見方を述べることができる。 (2) エネルギーの指標を述べることができる。 (3) 栄養素の指標を述べることができる。	「食事摂取基準とはなにか？」をレポート用紙に書く。 (1時間)	認知 (想起)
10	7/2 (木) 1限	中園	ユニット5 食事と食品 (食生活指針、食事バランスガイド) [講義] [相互学習]	1) 食生活指針を理解する。 2) 食事バランスガイドを理解する。 3) 食事バランスガイドを活用し、自分の食事内容を書き出し、問題点を調べる。 4) 食事バランスガイドから自分および他者の食事内容の問題点を発見し、指導する。	(1) 食事バランスガイドを述べることができる。 (2) 自分の食事内容の問題点を述べることができる。 (3) 自分および他者の食事内容の問題点を改善できる述べることができる。	自分の1日の食事を記録する。 (1時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣)
11	7/7 (火) 4限	中園	ユニット5 食事と食品 (食品群、食品の栄養素、代用甘味料) [講義]	1) 食品成分表を理解する。 2) 食品の分類(三分類、四分類、六分類)を理解する。 3) 代用甘味料を理解する。	(1) 食品成分表を列挙できる。 (2) 食品の分類(三分類、四分類、六分類)を列挙できる。 (3) 代用甘味料の種類を列挙できる。	代用甘味料が使われている食品や飲料を調べ、レポート用紙に書く。 (1時間)	認知 (想起)
12	7/9 (木) 1限	中園	ユニット5 食品の分類と表示 (食品の表示、保健機能食品、食品の安全) [講義]	1) 食品の表示を理解する。 2) 保健機能食品の分類を理解する。 3) 食品の安全を理解する。	(1) 食品表示の制度を列挙できる。 (2) 保健機能食品の分類を列挙できる。 (3) 食品の安全を列挙できる。	保健機能食品の種類を調べ、レポート用紙に書く。 (1時間)	認知 (想起)
13	7/16 (木) 1限	中園	ユニット5 食品の分類と表示 (食品の機能、食品の調理) [講義]	1) 食品の機能を理解する。 2) 食品の調理を理解する。 3) 摂食嚥下機能に合わせた調理の工夫を理解する。	(1) 食品機能の制度を列挙できる。 (2) 食品の調理を列挙できる。 (3) 摂食嚥下機能に合わせた調理の工夫を述べることができる。	摂食嚥下機能とは何かを調べ、レポート用紙に書く。 (1時間)	認知 (想起)
14	7/21 (火) 3限	中園	ユニット6 栄養ケア・マネジメント [講義]	1) 栄養ケア・マネジメントを理解する。 2) 栄養スクリーニングを理解する。	(1) 栄養ケア・マネジメントを述べることができる。 (2) 栄養スクリーニングを列挙できる。	栄養スクリーニングの種類について調べ、レポート用紙に書く。 (1時間)	認知 (想起)
15	7/23 (木) 1限	中園	ユニット6 栄養ケア・マネジメント [講義]	1) 栄養アセスメントを理解する。 2) 栄養アセスメントツールを理解する。	(1) 栄養アセスメントを述べることができる。 (2) 栄養アセスメントツールを列挙できる。	栄養アセスメントツールとは何かを調べ、レポート用紙に書く。 (1時間)	認知 (想起)

食育

開講時期： 2年次後期
 授業時間数： 12コマ；24時間1単位
 受験資格要件： 2/3（8コマ）以上の出席
 科目番号： DH021234
 評価責任者： 中園 栄里
 授業担当者： 中園 栄里

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として対象者の生活の質（QOL）の向上ために、新生児期から老年期に至るまでのライフステージ別の食生活の問題や健康を維持するためのエネルギーや栄養素摂取、また食生活に関する施策を理論的に分析・考察する能力を修得する。

2. 教育方法

講義・相互学習
 管理栄養士として栄養相談などに携わった実務経験を活かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、配布資料、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業は定刻に始まるので、遅刻は欠席になる。授業は予習していることを前提に開始する。レポート課題は締切期日を守る。本授業を理解する上で、栄養学の知識が必要であり、本授業は歯科保健指導実習の理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修時間：21時間]

5. 評価方法

[形成的評価] レポート
 [フィードバック] 模範解答を示し、不十分な部分についてコメントを付して返却する。
 [総括的評価] 記述試験（70%）・課題レポート（20%）・授業参加状況（予習・復習の実施状況等）（10%）
 [フィードバック] 試験結果のフィードバックは採点后、試験結果（成績）を通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能3 栄養学」（一社）全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版、2025年

7. 参考書

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（第2版）」（一社）全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版、2025年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習項目と必要時間	教育目標 領域
1	9/15 (火) 1限	中園	オリエンテーション ユニット1 食育基本法 [講義]	1) 食育基本法を理解する。 2) 食育推進基本計画の目標を理解する。	(1) 食育基本法を説明できる。 (2) 食育推進基本計画の目標を述べるができる。	食育推進計画の重点項目をレポート用紙に書く。 (2時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣)
2	9/28 (月) 1限	中園	ユニット2 妊産婦期 [講義]	1) 妊産婦期の体の特徴を理解する。 2) 妊産婦期の食生活の問題を理解する。 3) 妊産婦期の食生活指導を理解する。	(1) 妊産婦期の体の特徴を列挙できる。 (2) 妊産婦期の食生活の問題を列挙する。 (3) 妊産婦期の食生活指導を述べるができることができる。	妊産婦のための食生活指針と食事バランスガイドをレポート用紙に書く。 (2時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣)
3	10/5 (月) 1限	中園	ユニット3 新生児期・乳児期 [講義]	1) 新生児期・乳児期の体の特徴を理解する。 2) 新生児期・乳児期の食生活の問題を理解する。 3) 新生児期・乳児期の食生活指導を理解する。	(1) 新生児期・乳児期の体の特徴を列挙できる。 (2) 新生児期・乳児期の食生活の問題を列挙する。 (3) 新生児期・乳児期の食生活指導を述べることができる。	教科書の「新生児期・乳児期」の項目を熟読する。講義内で口頭試問する。 (1.5時間)	認知 (想起)

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習項目と必要時間	教育目標 領域
4	10/19 (月) 1限	中園	ユニット3 新生児期・乳児期 [講義]	1) 離乳までの栄養摂取を理解する。 2) 授乳・離乳の支援を理解する。 3) 離乳期の食生活指導を理解する。	(1) 離乳までの栄養摂取を列挙できる。 (2) 授乳・離乳の支援を列挙できる。 (3) 離乳期の食生活指導を述べることができる。	「離乳食の進め方の目安」をレポート用紙に書く。 (1.5時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣)
5	10/26 (月) 1限	中園	ユニット4 幼児期 [講義]	1) 幼児期の体の特徴を理解する。 2) 幼児期の食生活の問題を理解する。 3) 幼児期の食生活指導を理解する。	(1) 幼児期の体の特徴を列挙できる。 (2) 幼児期の食生活の問題を列挙する。 (3) 幼児期の食生活指導を述べるができる。	課題レポートを次回までに提出する。 (2時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣)
6	11/2 (月) 1限	中園	ユニット5 学齢期 [講義]	1) 学齢期の体の特徴を理解する。 2) 学齢期の食生活の問題を理解する。 3) 学齢期の食生活指導を理解する。	(1) 学齢期の体の特徴を列挙できる。 (2) 学齢期の食生活の問題を列挙する。 (3) 学齢期の食生活指導を述べるができる。 (4) 演習問題を記述する。	教科書の「学齢期」の項目を熟読する。講義内で口頭試問する。 (1.5時間)	認知 (想起)
7	11/12 (木) 1限	中園	ユニット6 青年期 [講義] [相互学習]	1) 青年期の体の特徴を理解する。 2) 青年期の食生活の問題を理解する。 3) 青年期の食生活指導を理解する。 4) 自分および他者の食事内容の問題点を発見し、指導する。	(1) 青年期の体の特徴を列挙できる。 (2) 青年期の食生活の問題を列挙する。 (3) 青年期の食生活指導を述べるができる。 (4) 自分および他者の食事内容の問題点を改善できる述べるができる。	課題レポートを次回までに提出する。 (2時間)	認知 (想起) 精神運動 (模倣)
8	11/16 (月) 1限	中園	ユニット7 成人期 [講義]	1) 成人期の食生活の問題を理解する。 2) 成人期の食生活指導を理解する。 3) 糖尿病の病態と食事を理解する。	(1) 成人期の食生活の問題を列挙できる。 (2) 成人期の食生活指導を列挙できる。 (3) 糖尿病の病態と食事を列挙できる。	教科書の「成人期」の項目を熟読する。講義内で口頭試問する。 (1.5時間)	認知 (想起)
9	11/30 (月) 1限	中園	ユニット7 成人期 [講義]	1) 生活習慣病・メタボリックシンドロームと食生活の関連を理解する。 2) 生活習慣病予防のための食生活を理解する。	(1) 生活習慣病・メタボリックシンドロームと食生活の関連を列挙できる。 (2) 生活習慣病予防のための食生活を述べることができる。	課題レポートを次回までに提出する。 (2時間)	認知 (想起)
10	12/7 (月) 1限	中園	ユニット8 老年期 [講義]	1) 老年期の体の特徴を理解する。 2) 老年期の食生活の問題を理解する。 3) 老年期の食生活指導を理解する。	(1) 老年期の体の特徴を列挙できる。 (2) 老年期の食生活の問題を列挙する。 (3) 老年期の食生活指導を述べることができる。	教科書の「老年期」の項目を熟読する。講義内で口頭試問する。 (1.5時間)	認知 (想起)
11	12/14 (月) 1限	中園	ユニット8 老年期 [講義]	1) 老年期の咀嚼・嚥下機能を理解する。 2) 嚥下食を理解する。	(1) 老年期の咀嚼・嚥下機能を列挙できる。 (2) 嚥下食を分類する。	嚥下食の種類をレポート用紙に書く。 (1.5時間)	認知 (想起)
12	12/14 (月) 2限	中園	ユニット9 スポーツ栄養 [講義]	1) スポーツ時の代謝を理解する。 2) スポーツアスリートに必要な栄養素を理解する。 3) スポーツアスリートの食育の問題点を考える。	(1) スポーツ時の代謝を列挙できる。 (2) スポーツ時に必要な栄養素を列挙できる。 (3) スポーツ時の食育の問題点を記述する。	事例を熟読。講義内で口頭試問する。 (2時間)	認知 (想起)

歯科保健指導実習Ⅲ

開講時期： 2年次前期
 授業時間数： 15コマ；30時間 1単位
 受験資格要件： 4/5（12コマ）以上の出席
 科目番号： DH021237
 評価責任者： 石井綾子
 授業担当者： 石井綾子 南レイラ 森沙耶香
 常清美佑 高木未沙稀 山下雅美

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として3年次に実施する臨床・臨地実習の中で各診療科における患者指導が実践できることを目的に、う蝕や歯周疾患のリスクに応じた口腔保健管理を実施するために必要な資料の収集・媒体の作成・支援の手法を修得する。また、対象者にあわせたコミュニケーションが図れる能力を獲得する。

2. 教育方法

講義・演習、実習・相互学習・グループワーク・討論等のアクティブラーニングを行う。
 医療機関において歯科衛生士として地域保健活動や臨床に従事した実務経験を生かした基礎教育並びに実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、DVD、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業を受講するに当たり、下記予習項目に記載の学修を行うこと。また、授業後は、配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。事前・事後学修（予習・復習）を怠らず、また、授業中は真摯に臨み、理解できないことはその場で質問を行い解決すること。相互学習やグループワーク、症例検討等のアクティブラーニングについては、グループで協力して資料を作成し、発表に備えること。レポート課題を提示された場合には、期日までに仕上げること。

授業には、教科書と配布プリントを必ず持参すること。

本科目は他の主要3科目や関連科目で学習したことがベースとなるので、事前に理解を深めておくことが必要となる。準備学習を行うことにより他の科目との関連性を理解し、本科目に興味を持ち意欲的に取り組んでくれることを期待する。

【単位修得に必要な授業外学修時間：19時間】

5. 評価

【形成的評価】 ミニテスト・レポート

【フィードバック】不十分な箇所にはコメントを加え、再提出を求める場合もある。

基本的にミニテストは、前回学修した内容の復習、または、講義内容の確認として授業開始直後・終了直前に実施する。

内容の振り返りは、その時間、または、次の回の講義時に答案の返却で行う。

【総括的評価】 記述試験（60%）、ミニテスト・レポート・授業参加状況（予習・復習の実施状況含む）（40%）

【フィードバック】総括的評価の結果（成績）は、集計後に通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025年

7. 参考書

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版」（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025年
2. 「歯科衛生学シリーズ 歯科材料学」（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2023年
3. 「歯科衛生士国試対策集 2026年対応」歯科衛生士国試対策研究会編 クインテッセンス出版 2024年

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	4/8 (水) 3限目	南	オリエンテーション ユニット 1-1 口腔保健管理に必要な用具の理解1 【講義】	1) 補助的清掃用具による口腔清掃効果の違いを理解する。	(1) 補助的清掃用具による口腔清掃効果の違いを説明できる。 ・デンタルフロス ・ポイントブラシ ・歯間ブラシ ・ラバーチップ ・電動歯ブラシ ・音波ブラシ ・ジェット水流洗口器	補助的清掃用具の特徴について調べる。 【1時間】	認知 (解釈)

回	授業日	授 業 担 当 者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
2 3	4/16 (木) 3.4 限目	南 山下	ユニット 1-2 口腔保健管理に 必要な用具の理 解2 【実習】	1) 補助的清掃用具による口 腔清掃効果の違いを評価す る。	(1) 各種補助的清掃用具の特徴と、口腔清掃効 果の違いを説明できる。 (2) 補助的清掃用具の適切な使用方法につ いて、患者指導の要点を理解し説明できる。	補助的清掃用 具の清掃効果 の違いをまと める。 事後学修 【2時間】	認知 (問題解決) 精神運動 (模倣) 情意 (受け入れ)
4	4/22 (水) 2限目	石井 常清 高木	ユニット 2-1 個人指導用媒体 の作成1 【実習】	1) 妊産婦・新生児対象の指 導媒体を作成する。	(1) 妊産婦・新生児対象の指導媒体を活用し、 以下の項目についてまとめることができる。 ・一般的特徴と口腔の特徴 ・望ましい歯科保健行動 ・セルフケアの目標 ・食生活の特徴と指導	妊産婦・新生 児対象の指導 媒体を作成す るための資料 を収集する。 【1時間】	認知 (解釈) 精神運動 (コントロ ール)
5	4/12 (火) 3限目	石井 高木	ユニット 2-2 個人指導用媒体 の作成2 【実習】	1) 乳幼児対象の指導媒体を 作成する。	(1) 乳幼児対象の指導媒体を活用し、以下の項 目についてまとめることができる。 ・一般的特徴と口腔の特徴 ・望ましい歯科保健行動 ・セルフケアの目標 ・食生活の特徴と指導	乳幼児対象の 指導媒体を作 成するための 資料を収集す る。 【2時間】	認知 (解釈) 精神運動 (コントロ ール)
6	4/19 (火) 3限目	石井 高木	ユニット 2-3 個人指導用媒体 の作成3 【実習】	1) 学童(低学年・高学年)対 象の指導媒体を作成する。	(1) 学童(低学年・高学年)対象の指導媒体を活 用し、以下の項目についてまとめることがで きる。 ・一般的特徴と口腔の特徴 ・望ましい歯科保健行動 ・セルフケアの目標 ・食生活の特徴と指導	学童(低学年・ 高学年)対象 の指導媒体を 作成するための 資料を収集す る。 【2時間】	認知 (解釈) 精神運動 (コントロ ール)
7	6/1 (月) 2限目	石井 高木	ユニット 2-4 個人指導用媒体 の作成3 【実習】	1) 乳幼児対象の指導媒体 を作成する。 2) 学童(低学年・高学年) 対象の指導媒体を作成 する。	(1) 各対象に合わせた指導原稿を以下の項目に 沿って作成し、それを活用して説明がで きる。 ・一般的特徴と口腔の特徴 ・望ましい歯科保健行動 ・セルフケアの目標 ・食生活の特徴と指導	各対象の指導 原稿を作成す るための資料 を収集する。 【2時間】	認知 (解釈) 精神運動 (コントロ ール)
8	6/2 (火) 3限目	石井 森 常清 高木	ユニット 2-5 個人指導用原稿 の作成 【実習】	1) 妊産婦・新生児対象の指 導原稿を作成する。 2) 乳幼児対象の指導原稿を 作成する。 3) 学童(低学年・高学年)対 象の指導原稿を作成する。 【媒体中間提出】	(1) 各対象に合わせた指導原稿を以下の項目に 沿って作成し、それを活用して説明がで きる。 ・一般的特徴と口腔の特徴 ・望ましい歯科保健行動 ・セルフケアの目標 ・食生活の特徴と指導	各対象の指導 原稿を作成す るための資料 を収集する。 【2時間】	認知 (解釈) 精神運動 (コントロ ール)
9	6/19 (火) 3限目	石井 森 常清 高木	ユニット 3-1-1 媒体を活用した 指導の実際1 【実習】	1) 妊産婦・新生児対象の指 導媒体を活用して指導す る。 媒体の作成・リハサール 【媒体最終提出】	(1) 妊産婦・新生児対象の個人指導ができる。 (2) 相手の指導内容を評価し、アドバイスがで きる。(ループリック等の評価用紙・視覚媒 体を活用して自己・他者を評価する。) (3) アドバイスを参考に実施した指導内容の改 善が図れる。	指導媒体・原 稿の手直し。 【2時間】	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)
10	6/23 (火) 3限目	石井 高木	ユニット 3-1-2 媒体を活用した 指導の実際1 【実習】	1) 妊産婦・新生児対象の指 導原稿を作成する。 2) 乳幼児対象の指導原稿を 作成する。 3) 学童(低学年・高学年)対 象の指導原稿を作成する。	(1) 各対象に合わせた指導原稿を以下の項目に 沿って作成し、それを活用して説明がで きる。 ・一般的特徴と口腔の特徴 ・望ましい歯科保健行動 ・セルフケアの目標 ・食生活の特徴と指導	指導媒体・原 稿の手直し。 (宿題) 【1時間】	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)
11	7/2 (木) 4限目	石井	ユニット 3-1-3 媒体を活用した 指導の実際1 【実習】	1) 妊産婦・新生児対象の指 導原稿を作成する。 2) 乳幼児対象の指導原稿を 作成する。 3) 学童(低学年・高学年)対 象の指導原稿を作成する。	(1) 各対象に合わせた指導原稿を以下の項目に 沿って作成し、それを活用して説明がで きる。 ・一般的特徴と口腔の特徴 ・望ましい歯科保健行動 ・セルフケアの目標 ・食生活の特徴と指導	指導媒体・原 稿の手直し。 (宿題) 【1時間】	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)
12	7/7 (火) 3限目	石井 常清	ユニット 3-1-4 媒体を活用した 指導の実際1 【実習】	1) 妊産婦・新生児対象の指 導原稿を作成する。 2) 乳幼児対象の指導原稿を 作成する。 3) 学童(低学年・高学年)対 象の指導原稿を作成する。	(1) 各対象に合わせた指導原稿を以下の項目に 沿って作成し、それを活用して説明がで きる。 ・一般的特徴と口腔の特徴 ・望ましい歯科保健行動 ・セルフケアの目標 ・食生活の特徴と指導	指導媒体・原 稿の手直し。 (宿題) 【1時間】	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)
13 14	7/8 (水) 3.4 限目 7/9 (木) 3.4限目	石井 南 森 常清 高木	ユニット 3-2-1 媒体を活用した 指導の実際3 グループワー ク討論 【実習】	1) 乳幼児・学童(低学年・ 高学年)対象の指導媒体を活 用して指導する。	(1) 学童(低学年・高学年)対象の個人指導がで きる。 (2) 相手の指導内容を評価し、アドバイスがで きる。相手の指導内容を評価し、アドバイ スができる。(ループリック等の評価用紙・視 覚媒体を活用して自己・他者を評価する。) (3) アドバイスを参考に実施した指導内容の改 善が図れる。	指導媒体・原 稿の手直し。 (宿題) 【2時間】	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)

回	授業日	授業者 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
15	7/17 (金) 4限目	石井 常清	ユニット 3-2-2 媒体を活用した 指導の実際4 グループワー ク討論 【実習】	1) 手直し後の媒体・原稿の 検討	(1) 撮影した自身の個人指導の動画を見ながら客 観的視点で指導内容を評価・修正する。 (2) 他者評価・自己評価を元に今後の課題や改 善点をまとめる。 【授業アンケートの実施】	媒体・原稿の 必要な箇所の 改善を図る。 (宿題) 【1時間】	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (内面化)

歯科保健指導実習Ⅳ

開講時期： 2年次後期
授業時間数： 15コマ；30時間1単位
受験資格要件：4/5（12コマ）以上の出席
科目番号： DH021238
評価責任者： 石井綾子
授業担当者： 石井綾子 黒木まどか 南レイラ
川尻望 森 沙耶香 常清美佑
高木未沙稀

1. 一般目標

将来、地域保健活動の中で対象者のQOLの向上を図るためには、個人や集団の特性を理解し、対象者に合わせた口腔保健管理を主体とする健康教育のプレゼンテーションが実施できる技能を修得する。

2. 教育方法

講義・演習、実習・相互学習・グループワーク・討論等のアクティブラーニングを行う。

医療機関において歯科衛生士として地域保健活動や臨床に従事した実務経験を生かした基礎教育並びに実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、DVD、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業を受講するに当たり、下記予習項目に記載の学修を行うこと。また、授業後は、配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。事前・事後学修（予習・復習）を怠らず、また、授業中は真摯に臨み、理解できないことはその場で質問を行い解決すること。相互学習やグループワーク、症例検討等のアクティブラーニングについては、グループで協力して資料を作成し、発表に備えること。レポート課題を提示された場合には、期日までに仕上げること。

授業には、教科書と配布プリントを必ず持参すること。

本科目は他の主要3科目や関連科目で学習したことがベースとなるので、事前に理解を深めておくことが必要となる。準備学習を行うことにより他の科目との関連性を理解し、本科目に興味を持ち意欲的に取り組むことを期待する。

【単位修得に必要な授業外学修時間：15時間】

5. 評価

[形成的評価] ミニテスト・レポート

[フィードバック] 不十分な箇所にはコメントを加え、再提出を求める場合もある。

基本的にミニテストは、前回学修した内容の復習、または、講義内容の確認として授業開始直後・終了直前に実施する。内容の振り返りは、その時間、または、次の回の講義時に答案の返却で行う。

[総括的評価] 記述試験（60%）、ミニテスト・レポート、授業参加状況（予習・復習の実施状況含む）（40%）

[フィードバック] 総括的評価の結果（成績）は、集計後に通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025年

7. 参考書

1. 「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版」（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025年
2. 「歯科衛生学シリーズ 歯科材料学」（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2023年
3. 「歯科衛生士国試対策集 2026年対応」歯科衛生士国試対策研究会編 クインテッセンス出版 2025年

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/17 (木) 1限目	石井 常清 高木	オリエンテーシ ョン ユニット1-1 幼児・学童を対 象とした集団指 導 〔講義・演習〕	1) 幼児・学童を対象と した集団に対する健康教育 を理解する。	(1) 幼児・学童を対象とした集団に対する健 康教育の項目を説明できる。 ・対象とする集団の特性 ・話の組み立て ・媒体の活用 ・話法	幼児・学童を対 象とした集団指 導を実施するた めの資料を収集 する (1時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール) 情意 (受入)
2	9/28 (月) 3限目	石井	ユニット1-2-1 幼児・学童を対 象とした集団指 導 〔講義・演習〕	1) 幼児・学童を対象と した集団に対する健康教育 を理解する。	(1) 幼児・学童を対象とした集団に対する健 康教育に必要な媒体を作成するこ とができる。 (2) 幼児・学童を対象とした集団に対する健 康教育に必要な原稿を作成するこ とができる。	幼児・学童を対 象とした集団指 導の原稿を作成 するために必要 な資料を収集す る (1時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール) 情意 (受入)
3	10/1 (木) 4限目	石井 常清 高木	ユニット1-2-2 幼児・学童を対 象とした集団指 導 〔講義・演習・ グループワーク〕	1) 幼児・学童を対象と した集団に対する健康教育 を実施する。	(1) 幼児・学童を対象とした集団に対する健 康教育を作成した媒体を活用して実施す ることができる。 (2) 他者が作成した幼児・学童を対象とし た集団に対する健康教育を検討するこ とができる。	幼児・学童を対 象とした集団指 導の改善を図 る。 (1時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (コントロール) 情意 (受入)
4	10/21 (水) 1限目	石井 川尻 高木	ユニット1-2-3 幼児・学童を対 象とした集団指 導 〔講義・演習・ グループワーク〕	1) 幼児・学童を対象と した集団に対する健康教育 を実施する。	(1) 幼児・学童を対象とした集団に対する健 康教育を作成した媒体を活用して実施す ることができる。 (2) 他者が作成した幼児・学童を対象とし た集団に対する健康教育を検討するこ とができる。	幼児・学童を対 象とした集団指 導の改善を図 る。 (1時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (コントロール) 情意 (受入)
5	10/28 (水) 1限目	石井 森 高木	ユニット1-2-4 幼児・学童を対 象とした集団指 導 〔講義・演習・ グループワーク〕	1) 幼児・学童を対象と した集団に対する健康教育 を実施する。	(1) 幼児・学童を対象とした集団に対する健 康教育を作成した媒体を活用して実施す ることができる。 (2) 他者が作成した幼児・学童を対象とし た集団に対する健康教育を検討するこ とができる。	幼児・学童を対 象とした集団指 導の改善を図 る。 (1時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (コントロール) 情意 (受入)
6	11/5 (木) 1限目	石井 常清 高木	ユニット1-2-5 幼児・学童を対 象とした集団指 導 〔講義・演習・ グループワーク〕	1) 幼児・学童を対象と した集団に対する健康教育 を実施する。	(1) 幼児・学童を対象とした集団に対する健 康教育を作成した媒体を活用して実施す ることができる。 (2) 他者が作成した幼児・学童を対象とし た集団に対する健康教育を検討するこ とができる。	幼児・学童を対 象とした集団指 導の改善を図 る。 (1時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (コントロール) 情意 (受入)
789	11/9 (月) 1. 2. 3 限目	石井 南 森 川尻 常清 高木	ユニット1-2 幼児・学童を対 象とした集団指 導 〔グループワー ク・討論〕	1) 幼児・学童を対象と した集団に対する健康教育 を実施する。	(1) 検討した内容の発表ができる。 (2) 他者が発表した内容を評価し、アドバ イスができる。 (ルーブリック等の評価用紙を活用して 自己・他者を評価する。) (3) 他者からのアドバイスを参考に発表内 容の改善が図れる。	幼児・学童を対 象とした集団指 導を仕上げる。 (3時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)
10	10/16 (月) 3限目	川尻	ユニット2-1 成人・有病者を 対象とした集団 指導 〔講義・演習〕	1) 成人・有病者を対象と した集団に対する健康教 育を理解する。	(1) 成人・有病者に対する歯科的支援を説明 できる。 ・歯周病と全身疾患の関連 メタボ、糖尿病、喫煙者、妊産婦、 誤嚥性肺炎 ・話の組み立て ・媒体の活用 ・話法	成人・有病者を 対象とした集団 指導を実施す るための資料を 収集する。 (1時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール) 情意 (受入)
11 12	10/27 (金) 1限目 11/4 (金) 1限目	川尻	ユニット2-2 成人・有病者を 対象とした集団 指導 〔演習〕	1) 成人・有病者を対象と した集団に対する健康教 育を理解する。	(1) 成人・有病者に対する健康教育に必要な 媒体を作成することができる。 (2) 成人・有病者を対象とした集団に対 する健康教育に必要な原稿を作成す ることができる。	成人・有病者を 対象とした集団 指導の原稿を 作成するために 必要な資料を 収集する。 (2時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール) 情意 (受入)
13 14 15	11/10 (木) 1. 2. 3 限目	川尻 黒木 石井 南 森 常清 高木	ユニット2-3 成人・有病者を 対象とした集団 指導 〔グループワー ク・討論〕	1) 健康教育の方法を理解 する。 2) 成人・有病者を対象と した集団に対する健康教 育を実施する。	(1) 成人・有病者を対象とした集団に対 する健康教育の内容を発表する。 (2) 他者が発表した内容を評価し、アドバ イスができる。 (ルーブリック等の評価用紙を活用して 自己・他者を評価する。) (3) 他者からのアドバイスを参考に発表内 容の改善が図れる。 〔授業アンケート〕	成人・有病者を 対象とした集団 指導を仕上げ る。 (3時間)	認知 (問題解決) 精神運動 (自動化) 情意 (反応)

歯科診療補助論（講義）Ⅱ

開講時期： 2年次後期
授業時間数： 12コマ；24時間1単位
受験資格要件： 2/3（8コマ）以上の出席
科目番号： DH021242
評価責任者： 後藤加寿子
授業担当者： 後藤加寿子 井上庸子 石井綾子
南レイラ 森沙耶香 加倉加恵
常岡由美子 関 真理子 北向由紀子
榮 梨恵 山口佳那子 江端紀代美
野村亜美

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として多様な対象者を支援するために、専門歯科領域ごとの歯科診療補助業務における歯科衛生士の役割についての知識を修得する。

2. 教育方法

講義を行う。

大学病院等において、歯科医師として歯科治療に携わった実務経験を生かした実践的教育を行う。

大学病院等において、歯科衛生士として歯科診療補助業務に携わった実務経験を生かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、DVD、PC+プロジェクター

4. 学修方法

授業には、該当する指定の教科書と配布プリント等を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。授業中はノートを取る。授業後は、教科書や配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。レポート課題は、締め切り期日を守る。授業は定刻に始まるので遅刻は欠席になる。本授業を理解するうえで、口腔外科学、材料学、歯科補綴学、保存修復学、歯内治療学、歯周病治療学、歯科矯正学、解剖学、高齢者歯科学の理解が必要となる。 【単位修得に必要な授業外学修（予習・復習）時間：21時間】

5. 評価方法

[総括的評価]：記述試験（80%）・確認テスト（20%）で実施する。

[フィードバック]：試験結果ならびに正解例は、試験終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

- 1 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 （一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025
- 2 歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 （一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2023年
- 3 歯科衛生学シリーズ 歯周病学 （一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2023年
- 4 歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 （一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025
- 5 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 （一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2023
- 6 歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版 （一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2024
- 7 歯科衛生士講座 口腔外科学 第2版 古森孝秀 編著 永末書店 2020年
- 8 歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 第3版 有地榮一郎他 監修 学建書院 2019
- 9 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 （一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2023
- 10 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 （一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2023

7. 参考書

- 1 松浦 正朗、矢島 安朝 編著：歯科衛生士が知っておきたい よくわかる口腔インプラント 医歯薬出版 2012
- 2 新刊 歯科衛生士講座 口腔外科の治療と診療補助 永末書店 2023
- 3 歯科衛生士国試対策集 第1回～34回重要問題解説集 2026年対応

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (G10)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/30 (水) 4限	常岡	ユニット1 保存修復治療・歯内治療・歯周治療時における診療補助業務 [講義]	1) 保存治療の補助のために、必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を理解する。	(1) 保存修復治療と診療補助の特徴を説明できる。 (2) 保存修復治療後の患者指導を説明できる。 (3) 歯内治療の特徴を説明できる。 (4) 歯内治療後の患者指導を説明できる。 (5) 歯周外科治療の特徴を説明できる。 (6) 歯周外科治療の補助の概要を説明できる。 (7) 歯周外科治療における患者説明を説明できる。 (8) 保存治療の補助のために必要な歯科衛生士としての心構えや意思を説明できる。	教科書1. のP111-137、教科書4. の指定された項目を精読する 参考書3. のP308～P319を解答する (2時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
2	10/7 (水) 4限	北向	ユニット1 口腔外科治療時および周術期における診療補助業務 [講義]	1) 口腔外科治療や歯科麻酔時の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を理解する。 2) 周術期における口腔健康管理および歯科衛生士の役割について理解する。	(1) 口腔外科治療と診療補助の特徴を説明できる。 (2) 口腔外科治療の例と診療補助の流れを説明できる。 (3) 局所麻酔の診療補助および注意事項について説明できる。 (4) 抜歯術における偶発症、術後患者指導を説明できる。 (5) 周術期口腔機能管理の流れについて説明できる。 (6) 周術期の病態とその治療法を説明できる。 (7) 周術期の歯科衛生士の対応を説明できる。 (8) 口腔外科治療の補助および周術期における口腔健康管理のために必要な歯科衛生士としての心構えや意思を説明できる。	教科書1. のP153-164、286-291 教科書8. のP153-173を精読する 参考書3. のP325～P329を解答する (2時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
3	10/14 (水) 4限	森	ユニット2 ラバーダム防湿法 [講義]	1) ラバーダム防湿法について理解する。	(1) ラバーダム防湿法の目的が説明できる。 (2) ラバーダム防湿法で用いる器具の用途を説明できる。 (3) ラバーダム防湿の術式を列挙できる。	教科書1. のP95-101を精読する (2時間)	認知 (解釈)
4	10/15 (木) 3限	榮	ユニット1 矯正歯科治療時における診療補助業務 [講義]	1) 矯正歯科治療の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を理解する。	(1) 矯正治療と診療補助の特徴を説明できる。 (2) 矯正治療に関する患者指導を説明できる。 (3) 矯正治療の補助のために必要な歯科衛生士としての心構えや意思を説明できる。	教科書1. のP173-182、教科書7. のP120-154の関連項目を精読する 参考書3. のP329～P335を解答する (2時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
5	10/22 (木) 4限	江端	ユニット1 障害児者歯科治療時および訪問歯科診療における診療補助業務 [講義]	1) 障害児者歯科治療の補助のために必要な患者対応について理解する。 2) 歯科訪問診療時における歯科診療補助業務の内容を理解する。	(1) 障害児者治療と診療補助の特徴を説明できる。 (2) 障害児者の状態把握と対応を説明できる。 (3) 吸入鎮静・静脈内鎮静の診療補助および注意事項について説明できる。 (4) 歯科訪問診療の概要を述べることができる。 (5) 歯科訪問診療時に必要な器材・薬剤と治療の流れを説明できる。 (6) 歯科訪問診療時の適切な患者対応を説明できる。 (7) 歯科訪問診療における感染予防対策を説明できる。 (8) 歯科訪問診療における口腔健康管理を説明できる。 (9) 障害児者歯科治療の補助および歯科訪問診療のために必要な歯科衛生士としての心構えや意思を説明できる。	教科書1. のP59-61、P292-305、参考書3. のP338～P353を解答する (2時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
6	10/29 (木) 3限	関	ユニット1 補綴治療時における診療補助業務 [講義]	1) 補綴治療の補助のために必要な検査や治療手順および器材の使用法を理解する。	(1) 補綴治療と診療補助の特徴を説明できる。 (2) 補綴治療と診療補助の流れを説明できる。 (3) 補綴装置装着後の患者指導を説明できる。 (4) インプラント装着後の患者指導を説明できる。 (5) 補綴治療の補助のために必要な歯科衛生士としての心構えや意思を説明できる。	教科書1. のP138-148、教科書5. の関連項目を精読する 参考書3. のP319～P325を解答する (2時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
7	11/2 (月) 3限	南 野村	ユニット1 歯の漂白時における診療補助業務 [講義]	1) 歯の漂白時における歯科診療補助業務の内容を理解する。	(1) 生活歯漂白法の手順を説明できる。 オフィスブリーチ法とホームブリーチ法 (2) 漂白法で用いる器具や薬剤の用途を説明できる。	教科書1. のP120-123、教科書4. のP146-157を精読する (2時間)	認知 (解釈)

回	授業日	授 業 担 当 者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
8	11/4 (水) 4限	山口	ユニット1 小児歯科治療 時における診 療補助業務 [講義]	1) 小児歯科治療の補助 のために必要な患者対 応について理解する。 2) 小児歯科治療の補助 のために必要な治療手 順、薬剤および器材の 使用法を理解する。	(1) 小児歯科治療と診療補助の特徴を説明できる。 (2) 小児の状態把握と対応を説明できる。 (3) 小児の治療の例と診療補助の流れを説明できる。 (4) 保護者への対応を説明できる。 (5) 小児歯科治療の補助のために必要な歯科衛生士とし ての心構えや意思を説明できる。	教科書1. のP 183-190、教科 書11. のP78-149 を精読する 参考書3. のP335 ～P337を解答す る (2時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
9	11/12 (木) 3限	加倉	ユニット1 インプラント 治療時におけ る診療補助 [講義]	1) インプラント治療に ついて理解する。	(1) インプラント治療の概要を述べるができる。 (2) インプラント治療の手順が説明できる。 (3) インプラント治療時の役割を説明できる。	教科書1. の P149-152、教科 書5. のP172- 181、参考書1の 指定項目を精読 する。 (2時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
10	11/12 (木) 4限	森	ユニット3 バステクニク [講義]	1) 器具の取り扱いや受 け渡しについて理 解できる。	(1) 器具の受け渡しの注意点を説明できる。 (2) 器具の受け渡しに適している位置を説明できる。 (3) ペングリップとパームグリップによる受け渡しを説 明できる。 (4) 小器具等の取り扱いを説明できる。	教科書1の P 86-88 を精読する。 (1時間)	認知 (解釈)
11 12	1/18 (月) 3.4限	後藤 井上 石井	ユニット4 エックス線撮 影時における 診療補助業務 [講義・演 習・相互学 習]	1) 口腔内エックス線画 像について理解す る。	(1) 正常および基本的な病変のエックス線画像を読影で きる。 授業アンケート	教科書1. の P 71-73 教科書9. の P 84-89、144- 161を精読する (2時間)	認知 (解釈)

歯科診療補助実習Ⅲ

開講時期： 2年次前期
授業時間数： 20コマ；40時間 1単位
受験資格要件： 4/5（16コマ）以上の出席
科目番号： DH021246
評価責任者： 後藤 加寿子
授業担当者： 馬場 篤子、後藤 加寿子、
泉 喜和子、井上 庸子、
石井 綾子、南レイラ、
川尻 望、森 沙耶香、
常清 美佑、高木 未沙稀

1. 一般目標

歯科衛生士として根拠や理論に基づいた口腔保健管理を実施するために必要な口腔内の情報収集を実施するための知識や技術を修得する。また、多様な対象者を支援するために必要な歯科診療における共同動作を修得する。

2. 教育方法

講義・演習・実習を行う。

実務家教員として歯科医療機関において歯科医師あるいは歯科衛生士として治療に携わった実務経験を活かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、配布資料、PC+プロジェクター、DVD、各種実習器材

4. 学修方法

実習には、該当する指定の教科書と配布プリント等を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。実習中は、重要点など記録すること。実習後は、アクティブラーニングとして事後学習（復習）を行い、技術を修得すること。レポート課題は、締め切り期日を守ること。授業は定刻に始まるので遅刻は欠席になる。本授業を理解するうえで、歯科材料学、歯科補綴学、保存修復学の理解が必要となる。 [単位修得に必要な授業外学修時間：10時間]

5. 評価方法

[形成的評価] 確認テスト・レポート

[フィードバック] 不十分な部分についてコメントを行う。場合によっては再提出を求める。

[総括的評価] 記述試験（70%）・小テスト・レポート（20%）・授業参加状況（10%）

[フィードバック] 以上を総合的に評価し、定期試験終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025
2. 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論第2版（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2025

7. 参考書

1. 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版 2023
2. 新・歯科衛生士教育マニュアル 保存修復 クインテッセンス出版 2020
3. 歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 医歯薬出版 2025
4. 歯科衛生士国試対策集 第1回～34回重要問題解説集 2026年対応

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1 2	4/9 (木) 3.4限	井上 後藤 常清 高木	ユニット1 口腔衛生アセス メント1 歯の観察・記録 [講義・演習・ 相互学習]	1) 歯の検査項目について理解する。 2) 歯の本数、修復物や補綴装置の状況を理解する。 3) 歯科診療録について理解する。	(1) 歯の検査項目について説明できる。 (2) 口腔内写真から、歯の本数、修復物、補綴装置の状況を正確に記録することができる。 (3) 各自で記録した歯科診療録をもとに問題点を抽出し相互で検討することができる。	教科書1の「歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理」P105-120を精読する。 (1時間)	認知 (想起) 情意 (受入) 精神運動 (模倣)
3	5/12 (火) 4限	後藤	ユニット2 スタディモデルの作成1 [講義]	1) 印象採得・咬合採得について理解できる。 2) 歯科用石膏について理解できる。	(1) 印象採得・咬合採得の手順を説明できる。 (2) 印象採得・咬合採得で用いる器材と用途を説明できる。 (3) 歯科用石膏の特徴・種類・用途を説明できる。	教科書2のP253-263、P276-282 参考書3のP87-88を精読する。 (1時間)	認知 (解釈)
4 5	5/15 (金) 3.4限	後藤 井上 南 川尻 森 常清 高木	ユニット2 スタディモデルの作成2 印象採得・石膏注入(2人一組) [実習]	1) 印象採得(回転・前歯・全顎)を実施し、石膏を用いて模型が作製できる。	(1) 印象採得とその対応を実施できる。 (2) 歯科用石膏の練和と管理を実施できる。	第3回目の講義で配布された資料と教科書の関連項目を精読する。 (1時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール)
6	5/26 (火) 3限	後藤	ユニット3 寒天印象材・精密印象材の取り扱い [講義]	1) 寒天-アルジネート連合印象について理解する。 2) 合成ゴム質印象材について理解する。 3) 歯肉圧排について理解する。	(1) 寒天-アルジネート連合印象の手順を説明できる。 (2) 寒天-アルジネート連合印象で用いる器具と用途を説明できる。 (3) 精密印象採得の手順を説明できる。 (4) 精密印象採得で用いる器具と用途を説明できる。 (5) 歯肉圧排法の手順を説明できる。 (6) 歯肉圧排法で用いる器具と用途を説明できる。	教科書2のP264-272、P102-105、 参考書3のP84-86を精読する。 (1時間)	認知 (解釈)
7 8	5/29 (金) 3.4限	後藤 馬場 泉 石井 川尻 常清 高木	ユニット2 スタディモデルの作成3 印象採得・咬合採得(3人一組；1人目) [実習]	1) 印象採得と咬合採得を実施できる。	(1) 印象採得とその対応を実施できる。	第3回目の講義で配布された資料と教科書の関連項目を精読する。 (1時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール)
9 10	6/3 (水) 3.4限	後藤 馬場 泉 南 川尻 常清 高木	ユニット2 スタディモデルの作成3 印象採得・咬合採得(3人一組；2人目) [実習]	1) 印象採得と咬合採得を実施できる。	(1) 印象採得とその対応を実施できる。	第3回目の講義で配布された資料と教科書の関連項目を精読する。 (1時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール)
11 12	6/4 (木) 3.4限	後藤 馬場 南 川尻 森 常清 高木	ユニット2 スタディモデルの作成3 印象採得・咬合採得(3人一組；3人目) [実習]	1) 印象採得と咬合採得を実施できる。	(1) 印象採得とその対応を実施できる。	第3回目の講義で配布された資料と教科書の関連項目を精読する。 (1時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール)
13 14	6/10 (水) 3.4限 6/11 (木) 3.4限	後藤 馬場 泉 井上 石井 川尻 常清	ユニット2 スタディモデルの作成4 トリミング [実習]	1) 作製した石膏模型をトリミングできる。	(1) 作製した石膏模型をトリミングできる。 (2) 歯科用石膏の管理を実施できる。	第3回目の講義で配布された資料と教科書の関連項目を精読する。 (1時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール)
15 16	6/12 (金) 3.4限 6/17 (水) 3.4限	後藤 馬場 泉 井上 川尻 森 常清	ユニット3-1 寒天印象材の取り扱い (2人一組) [実習]	1) 寒天-アルジネート連合印象採得が実施できる。	(1) 寒天-アルジネート印象材による連合印象採得に必要な器具・材料が準備できる。 (2) マネキン模型上で、寒天-アルジネート連合印象採得が実施できる。	14回目の講義で配布された資料と、教科書の関連項目を精読する。 (1時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール)

回	授業日	授業 担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
17 18	6/24 (水) 3.4限 6/25 (木) 3.4限	後藤 馬場 井上 石井 森 高木	ユニット3-2 精密印象材の取 り扱い (2人一組) [実習]	1) 合成ゴム質印象材 による精密印象採得が 実施できる。 2) 歯肉圧排が実施で きる。	(1) 合成ゴム質印象材による 精密印象採得に必要な器 具・材料が準備できる。 (2) 合成ゴム質印象材による 精密印象採得が実施でき る。 (3) 歯肉圧排法に必要な器 具・材料が準備できる。 (4) 歯肉圧排法が実施できる。	14回目の講義で 配布された資料 と、教科書の関 連項目を精読す る。 (1時間)	認知 (解釈) 精神運動 (コントロ ール)
19 20	7/1 (水) 3.4限 7/3 (金) 3.4限	馬場 泉 後藤 井上 石井 高木	ユニット4 成形歯冠修復材 の取り扱い (レジン充填・ 隔壁法) [講義・実習]	1) レジン充填が実施 できる。 2) 隔壁法が実施でき る。	(1) レジン充填に必要な器具 や材料が準備できる。 (2) レジン充填が実施でき る。 (3) 隔壁法に必要な器具や材 料が準備できる。 (4) 隔壁法が実施できる。 (5) レジン充填後の患者説明 ができる。	教科書2のP106- 119、参考書1の P90-93、参考書2 のP44-47、82-95 を精読する。 (2時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)

歯科診療補助実習Ⅳ

開講時期： 2 年次後期
 授業時間数： 20 コマ；40 時間 1 単位
 受験資格要件： 4/5（16 コマ）以上の出席
 科目番号： DH021247
 評価責任者： 泉 喜和子
 授業担当者： 泉 喜和子、後藤 加寿子、
 馬場 篤子、内藤 徹、井上 庸子、
 森 沙耶香、石井 綾子、南 レイラ、
 川尻 望、常清 美佑、高木 未沙稀、
 看護大教員

1. 一般目標

歯科衛生士として多様な対象者を支援するために、専門歯科領域ごとの歯科診療補助業務に関する知識・技術・態度を修得する。

2. 教育方法

講義・演習・実習を行う
 大学病院等において、歯科医師、歯科衛生士として治療に携わった実務経験を生かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、PC プロジェクター

4. 学修方法

授業には、指定教科書と配布プリント等を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。授業中はノートを取る。授業後は、教科書や配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。レポート課題は、締め切り期日を守ること。本授業を理解するうえで、口腔外科学、材料学、歯科補綴学、歯科保存学、保存修復学、解剖学、小児歯科学の理解が必要となる。

[単位修得に必要な授業外学修時間：20 時間]

5. 評価方法

[形成的評価] 確認テスト・レポート

[フィードバック] 不十分な部分についてコメントを行う。場合によっては再提出を求める。

[総括的評価] 記述試験（70%）、実技試験（20%）、小テスト・レポート・授業態度（10%）

[フィードバック] 以上を総合的に評価し、定期試験終了後に通知する。

尚、詳細は各ユニットの初日に説明する。

6. 教科書・テキスト

1. 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版 （一社）全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版 2025

7. 参考書

1. 歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 医歯薬出版 2025
2. 歯科衛生士講座 口腔外科学 第2版 永末書店 2020
3. 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 医歯薬出版 2023
4. 歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版 医歯薬出版 2024

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	9/25 (金) 1・2限	泉 馬場 石井 常清 井上 高木	ユニット1 口腔外科器具 の取扱い [演習]	1) 口腔外科処置時の器具の準備ができる。 2) 器具の取り扱いを説明できる。	(1) 局所麻酔に必要な器具を列挙し準備ができる。 (2) 縫合処置に必要な器材を列挙し準備ができる。 (3) 抜歯術や小手術に必要な器材を列挙できる。	教科書1のP170-183, 参考書2のP215- 225, P339-350を精読 する (2 時間)	認知 (解釈) 精神 運動 (模倣)
2	9/30 (水) 1・2限						
3	10/6 (火) 1・2限	井上 高木	ユニット2 矯正治療時の 診療補助業務 [実習]	1) I 期治療に用いる器具・装置の取り扱いができる。 2) マルチブラケット治療に用いる器具の取り扱いができる。	(1) 可撤式矯正装置に用いる器具と装置の取り扱いについて説明できる。 (2) 固定式矯正装置に用いる器具と装置の取り扱いについて説明できる。 (3) マルチブラケット治療に用いる器具が準備できる。	教科書1のP196-205, 参考書3のP150-166, 参考書4のP87- 108, P142-173を精読 する (2 時間)	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神運動 (模倣)
4	10/7 (水) 1・2限						

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
5	10/9 (金) 1・2限	後藤 馬場 石井 常清 高木 森	ユニット3 プロビジョナ ルレストレー ション (テン ポラリークラ ウン) の作 製・仮着 [実習]	1) プロビジョナル レストレーシ ョンが作製 できる。 2) プロビジョ ナルレスト レーシ ョンが仮着 できる。	(1) マネキン模型上で、プロ ビジョナルレストレーシ ョンが作製できる。 (2) 仮着で必要な器材が準備 できる。 (3) マネキン模型上で、プロ ビジョナルレストレーシ ョンを仮着できる。	教科書1のP150-156、 305 参考書1のP89- 92を精読する (2時間)	認知 (解釈) 精神 運動 (コントロール)
6	10/15 (木) 1・2限						
7	10/19 (月) 3・4限	森 南 川尻 高木	ユニット4 パステクニ ック [実習]	1) 安全に器具の取 り扱いや受け渡 しができる。	(1) マネキン模型上で、安全に 器具の取り扱いが実施でき る。	教科書1のP 86-88 を精読する。 (1時間)	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神 運動 (模倣)
8	10/20 (火) 1・2限						
9	10/22 (木) 1・2限	森 井上 石井 常清 川尻	ユニット5 ラバーダム防 湿法 (1歯露出) [実習]	1) ラバーダム防湿 法が実施できる。	(1)ラバーダム防湿法で必要な器 具が準備できる。 (2)ラバーダム防湿法の手順を説 明できる。 (3)マネキン模型上で、1歯露出 のラバーダム防湿法が実施で きる。 【確認テスト】事前講義 (歯科 診療補助論Ⅱのラバーダムの 講義で配布されたプリント) を復習すること。	ラバーダム防湿法の 講義で配布されたプ リントを精読する (2時間)	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神 運動 (コントロール)
10	10/30 (金) 1・2限						
11	11/5 (木) 3・4限	森 井上 南 川尻 高木	ユニット5 ラバーダム防 湿法 (多数歯露出) [実習]	1) ラバーダム防湿 法が実施できる。	(1)ラバーダム防湿法で必要な器 具が準備できる。 (2)ラバーダム防湿法の手順を説 明できる。 (3)マネキン模型上で、多数歯露 出のラバーダム防湿法が実施 できる。 【確認テスト】事前講義 (歯科 診療補助論Ⅱのラバーダムの 講義で配布されたプリント) を復習すること。	ラバーダム防湿法の 講義で配布されたプ リントを精読する (2時間)	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神 運動 (コントロール)
12	11/10 (火) 1・2限						
13	11/17 (火) 1・2限	森 井上 南 高木	ユニット5 ラバーダム防 湿実技試験前 復習 [実習]	1) ラバーダム防湿 法が実施できる。	(1)ラバーダム防湿法で必要な器 具が準備できる。 (2)ラバーダム防湿法の手順を説 明できる。 (3)マネキン模型上で、1歯露出 と多数歯露出のラバーダム防 湿法が実施できる。	ラバーダム防湿法の 講義で配布されたプ リントを精読する (2時間)	認知 (問題解決) 情意 (内面化) 精神 運動 (自動化)
14	11/18 (水) 1・2限						
15	11/19 (木) 1・2限	森 井上 高木 南	ユニット5 ラバーダム防 湿実技試験 [実習]	1) ラバーダム防湿 法が実施できる。	(1)ラバーダム防湿法で必要な器 具が準備できる。 (2)ラバーダム防湿法の手順を説 明できる。 (3)マネキン模型上で、1歯露出 と多数歯露出のラバーダム防 湿法が実施できる。	ラバーダム防湿法の 講義で配布されたプ リントを精読する (2時間)	認知 (問題解決) 情意 (内面化) 精神 運動 (自動化)
16	11/20 (金) 1・2限						
17	12/17 (木) 1限	内藤 (南)	ユニット6 多職種連携に ついて (歯科衛生 士・看護師 との連携) [講義・演習 グループワー ク 討論]	1) 多職種連携の 意義 歯科・看護 の連携について学 ぶ。 2) 歯科衛生士と看 護の連携について 学ぶ。	1) 多職種連携の意義 歯科・看 護の連携について説明できる	他職種連携 (歯科衛 生士・看護師) の意 義について調べる (事前学習 2時間)	認知 (解釈) 情意 (反応)
18	12/17 (木) 2・3・ 4限	看護大 教員 (泉)	ユニット7 バイタル・救 急蘇生 [演習]	リスク管理につ いて理解する。	(1) バイタルサインについて理解 し、測定できる。 (2) 患者が心肺停止した場合の救 急蘇生法を実践できる。	バイタルの測定方 法、緊急蘇生 (BLS)、AEDの取り扱 いについて調べる。 (2時間)	認知 (問題解決) 情意 (内面化) 精神 運動 (自動化)
19	12/18 (金) 2・3・ 4限						
20	12/18 (金) 2・3・ 4限						

口腔・全身介護演習

開講時期： 2年次後期
授業時間数： 40 コマ：80 時間 2 単位
受験資格要件： 4/5 (32 コマ以上) の出席
科目番号： DH021251
評価責任者： 古野みはる
授業担当者： 古野みはる、高原佳央理
黒木まどか、秋竹 純
石井 綾子、後藤加寿子
馬場 篤子、南 レイラ
森 沙耶香、川尻 望、
常清 美佑、高木未沙稀
古谷 幸子

1. 一般目標

本授業は、要介護者や障害者の生活の質（QOL）の向上を図るため、口腔介護の必要性とその支援システム並びに口腔介護に関わる歯科衛生士の役割を理解する。また、多職種と連携・協働し、根拠や理論に基づいた口腔介護（摂食嚥下指導並びに口腔衛生・口腔機能管理）の提供ができる能力を修得することを到達目標とする。

2. 教育方法

講義・演習・実習・相互学習・小グループ学習・DVD 視聴

病院、行政機関、高齢者施設等で医師、歯科医師、言語聴覚士、社会福祉士、介護福祉士、歯科衛生士として高齢者や障害者の治療や支援に携わった実務経験を生かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、PC+プロジェクター、DVD。

4. 学修方法

授業は求められた予習項目を予習していることを前提に開始するので、授業開始までに予習しておくこと。授業中はノートを取る。授業後は、教科書や配布プリント等で講義内容の確認と復習をその日のうちに行うこと。課題がある場合は締め切り期日を守る。

本授業は、解剖学、生理学、口腔衛生学、高齢者・障害者歯科学と密接な関係があり、臨床・臨地実習での患者や利用者理解に不可欠である。

【単位修得に必要な授業外学修（予習・復習）時間：18 時間】

5. 評価方法

[形成的評価] 口腔ケア実技試験（10%）

[総括的評価] 記述試験（70%）、授業参加状況（予習・復習の実施状況等）（20%）

[フィードバック] 試験結果（成績）は、採点終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

1. 歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 医歯薬出版 2025 年

2. 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版 2025

7. 参考書

1. 内藤 徹他 高齢者の歯科診療はじめの一步 介護・介助の基本スキル 医歯薬出版株式会社 2017

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
1	9/14 (月) 4限	古野	オリエンテーション ユニット1	1) 加齢に伴う身体的・精神的変化を理解する。 2) フレイルが心身に与える影響を理解する。	(1) 高齢者の全身状態、精神・心理的变化について説明できる。 (2) 高齢者の病気の特徴を理解し、予防のための方策を検討できる。	サルコペニア、フレイルについて調べる。 (0.5時間)	認知 (想起解 釈)
2	9/16 (水) 2限	古野	高齢者・要介護者の理解 [講義]	3) 高齢者・要介護者の心身状態に関する各種評価法を理解する。 4) 脳血管障害後遺症・認知症について理解する。	(1) 生活機能・認知機能・栄養評価について説明できる。 (2) 中途障害と認知症の種類と特徴について説明できる。	生活機能、認知機能の評価法を調べる。 (0.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
3	9/17 (木) 3限	古野	[DVD]	5) 高齢者に関わる法制度について理解する。	(1) 介護保険制度の概要について説明できる。 (2) 施設介護と在宅介護における多職種との連携について説明できる。	高齢者施設の種類について調べる。 (0.5時間)	認知 (想起)
4	9/24 (木) 3限	古野		6) 地域包括ケアシステムのなかで、要介護者のQOLの向上のための取り組みについて理解する。	(1) 地域包括ケアシステムのなかで期待される歯科衛生士の役割について説明できる。	地域包括ケアシステムについて調べる。 (0.5時間)	認知 (想起)
5	9/29 (火) 2限	高原	ユニット2 摂食嚥下リハビリテーションの基礎知識と実践 [講義] [実習]	1) 摂食嚥下機能を理解する。	(1) 摂食嚥下に関わる各器官の名称や構造を説明できる。 (2) 摂食嚥下に関わる組織・器官、およびその成長と発達について説明できる。 (3) 摂食嚥下のメカニズムについて理解できる。 (4) 嚥下造影検査の目的と適応について説明できる。 (5) 嚥下造影検査の利点、欠点について説明できる。 (6) 嚥下造影検査の診断方法を説明できる。 (7) 嚥下内視鏡検査の目的と適応について説明できる。 (8) 嚥下内視鏡検査の利点、欠点について説明できる。 (9) 嚥下内視鏡検査の診断方法を説明できる。	摂食嚥下機能について調べる。 (0.5時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
6	10/5 (月) 3限	高原		2) 摂食嚥下障害の評価とリハビリテーションを理解する。	(1) 成人期の摂食嚥下障害に関わる全身疾患について説明できる。 ①摂食嚥下機能 ② 脳血管障害 ③認知症 ④神経・筋疾患など (2) 咀嚼、嚥下器官の神経学的正常と異常、加齢について説明できる。 (3) 発声と構音機能の解剖と生理を説明できる。 (4) 構音障害の診査診断と対応を説明できる。 (5) 摂食嚥下の過程と食物の流れを説明できる。 (6) リハビリテーション医学の概要を説明できる。 (7) 摂食嚥下リハビリテーションの意義と目的を説明できる。	摂食嚥下障害の評価とリハビリテーションについて調べる。 (0.5時間)	認知 (解釈) 情意 (受入)
7	10/8 (木) 1限 2限	黒木 秋竹 高木 常清		3) 食機能の基本を、体験的学習を通して理解する。	(1) 姿勢、呼吸、唾液、食物性状が摂食嚥下機能に及ぼす影響について説明できる。 (2) 食物の性状による食塊形成の違いと、嚥下時のリスクについて説明できる。 (3) 摂食嚥下機能の低下が生じた場合に想定される問題点を説明できる。 (4) 間接訓練・直接訓練について説明できる。	食べやすい食べにくいのは、何で決まるのかについて「食物・唾液・姿勢・加齢」の観点からまとめる。(1時間)	認知 (解釈) 精神・運動 (コントロール) 情意 (受入)
8							

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
9	㉔ 10/19 (月) 3限 4限	秋竹 常清	ユニット3 車椅子 [演習]	1) 移動動作が困難な患者の特性を理解し、基本的移動・移乗介助方法について理解する。	(1) 移動・移乗介助の基本原則が説明できる。	杖の種類について調べる。 (0.5時間)	認知 (解釈)
10	㉕ 10/20 (火) 1限 2限				(1) 杖の種類や車椅子の主要部位が説明できる (2) 車椅子の基本操作を習得し安全に移乗介助ができる。	車椅子の主要部位の名称について調べる。 (0.5時間)	認知 (解釈) 精神・運動 (模倣) 情意 (受入)
11	10/15 (木) 4限	黒木	ユニット4 口腔ケア概論 [講義]	1) 口腔衛生管理の基礎を理解する。	(1) 口腔ケア、口腔健康管理、口腔衛生管理、口腔機能管理の違いについて整理し、説明できる。 (2) 基本的な口腔観察のポイントを説明できる。 (3) 歯科衛生士が口腔健康管理を担う意義と専門性について説明できる。	「口腔ケア」「口腔健康管理」の定義を調べる。 (0.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
12	10/21 (水) 4限			2) 口腔状態のアセスメントと症状・状態・疾患別の口腔健康管理を理解する。	(1) アセスメントの目的を説明できる。 (2) 目的に応じたアセスメントを挙げることができる。 (3) 薬物による口腔内への影響について説明できる。	OHAT、OAGについて調べる。 (0.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
13	10/26 (月) 3限			3) ステージ別口腔健康管理について理解する。	(1) ステージ(急性期・回復期・在宅・施設・終末期)ごとの口腔健康管理の目的を説明できる。 (2) 口腔健康管理における他職種との連携の必要性について説明できる。	急性期・在宅・施設・終末期の各ステージの対象者の特徴をまとめる。 (0.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
14 15	10/29 (木) 1限 2限	石井 南 常清	ユニット5 口腔ケア演習 [講義] [演習]	1) スポンジブラシの操作法並びに介助磨きを理解する。	(1) 座位における誤嚥を防止するポジショニング(頸部前屈など)を説明・実施できる。 (2) 要介護高齢者に負担をかけずに安全に介助磨きの介入ができる。 (3) 口腔周囲筋のマッサージによるリラクゼーションができる。 (4) 口腔内の観察ができる。 (5) 粘膜を傷つけないスポンジブラシの動かし方と、効率的な清拭手順を実践できる。 (6) ウェットティッシュを用いた手指による口腔清掃およびリハビリテーションの手法を実践できる。	多職種に対する口腔ケアリーフレットを作成する。 (2時間)	認知 (解釈) 情意 (反応) 精神・運動 (模倣)
16 17	㉔11/4 (水) 1限 2限	石井 常清 高木					
	㉕11/6 (金) 1限 2限	石井 南 高木					
18 19	㉔11/10 (火) 1限 2限	常清 石井		5) 全介助(視覚・聴覚障害における口腔ケアの介入法について理解する。	(1) 全介助における口腔ケア介入時の注意点を説明できる。 ・安全な姿勢の保持ができる。 ・脱感作の必要性を理解し、正しい手技で実施できる。 ・口腔内の観察ができる。 ・ベッド上でのがいができる。 ・口腔乾燥に対する対応ができる。 ・適切な保湿剤の使用ができる。	全介助における口腔ケアの介入、ユマニチュードについてまとめる。 (1時間)	認知 (問題解決) 精神・運動 (コントロール) 情意 (反応)
	㉕11/13 (金) 1限 2限	常清 川尻					

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
20 21	㊦-1 11/17 (火) 1限 2限	常清 黒木 石井 川尻		6) 吸引器・吸引歯ブラシの操作方法について理解する。	(1) 吸引歯ブラシの特徴と適応を説明できる。 (2) 吸引器の準備・操作・後片付けを適切に行える。 (3) 吸引歯ブラシを用いた口腔清掃を安全に実施できる。 (4) 操作時のトラブルやリスク(粘膜損傷、咳込み、吸引不良など)への対応法を説明できる。	吸引器の操作、吸引歯ブラシによる清掃手技についてまとめる。 (1時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
	㊦-2 11/18 (水) 1限 2限	常清 泉 黒木 石井					
	㊦-2 11/19 (木) 1限 2限	常清 黒木 石井 南					
	㊦-1 11/20 (金) 1限 2限	常清 泉 馬場 黒木					
22 23	㊦ 11/11 (水) 1限 2限	後藤 馬場 石井 高木	ユニット5 高齢者の口腔ケア5 義歯の取り扱い [講義] [演習]	1) 義歯の取り扱いを理解する。 2) 義歯の保管方法、洗浄剤について理解する。	(1) 義歯の取り扱いを説明できる。 (2) 義歯の保管方法、洗浄剤について説明できる。 (3) 義歯の清掃を実施できる。	教科書 1P134-139, 173-176 教科書 2P258-259, 262-264を精読する。 (0.5時間)	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
	㊦ 11/13 (金) 1限 2限	後藤 石井 森 高木					
24 25	12/7 (月) 3限 4限	石井 黒木 南 川尻 森 常清 高木	ユニット6 口腔ケア実技試験	1) スポンジブラシの操作法、並びに介助磨きを実践できる	(1) 器質的口腔ケアについて説明できる。 (2) 誤嚥に注意してスポンジブラシの操作ができる。 (3) 要介護高齢者に負担をかけずに安全に介助磨きの介入ができる。 ・口腔周囲筋のマッサージによるリラクゼーションができる。 ・口腔内の観察ができる。	多職種に対する口腔ケアリーフレットを作成する。 (2時間)	認知 (問題解決) 精神・運動 (コントロール) 情意 (反応)
26	11/30 (月) 2限	常清	ユニット7 摂食嚥下機能診 査の診断・評 価・リハビリ	1) 口腔機能低下症を理解する。	(1) 口腔機能低下症に対するスクリーニング検査について説明できる。	教科書 1.P70-、P392-396を精読し、まとめる。 (0.5時間)	認知 (解釈)
27 28	12/1 (火) 1限 2限	常清 川尻 古谷	[講義] [実習]	2) 口腔機能低下症を理解し、実施する。 3) 口腔機能低下の症状と管理(介入)方法を理解する。 4) 口腔機能低下症に対する指導法を理解し、実施する。	(1) 口腔機能低下症の検査の実施と評価ができる。 ・口腔衛生状態の不良、口腔乾燥、咬合力低下、舌口唇運動機能低下、嚥下機能低下、EAT-10、自記式質問票 (2) 口腔機能低下症の管理(介入)方法を説明できる。 ・全身状態、栄養状態、口腔衛生状態不良、口腔乾燥、口唇の運動機能の低下、舌の運動機能の低下、舌の筋力の低下、咬合力・咀嚼機能の低下、嚥下機能の低下 (3) 口腔機能低下症に対する指導ができる。	口腔機能低下症の検査と評価法について調べる。 (0.5時間) 演習内容のまとめを行う。 (0.5時間)	認知 (問題解決) 精神・運動 (コントロール) 情意 (反応)

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目 と必要時間	教育 目標 領域
29 30	㊿ 12/21 (月) 1限 2限	常清 森 高木		5) 摂食・嚥下機能の評価と口腔リハビリについて理解する。	(1) 各種スクリーニング検査について説明できる。 ・RSST、水飲みテスト、頸部聴診法、オーラルディアドコキネシス、保湿度の測定ができる。 (2) 間接訓練について説明できる。 ・健口体操、パタカラ、嚥下体操、唾液腺マッサージができる。 (3) 直接訓練について説明できる。	口腔リハビリの手法について調べる。 (1時間)	認知 (問題解決) 精神・運動 (コントロール) 情意 (反応)
	㊿ 12/21 (月) 3限 4限						
31	11/26 (木) 1限	高木 秋竹	ユニット8 介護予防 (コミュニケーションレクリエーション) [講義] [演習] [グループワーク] [発表]	1) 生活支援に着目したレクリエーションの手法を理解する。	(1) 生活支援に着目したレクリエーションの手法を説明できる。 (2) 身体機能並びに口腔機能の向上について説明できる。	症例に応じたレクの手法をまとめる。 (0.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入)
32	12/2 (水) 1限	高木 秋竹			(3) 生活支援に着目したレクリエーションの立案ができる。 (4) 生活支援に着目したレクリエーションに必要な媒体を作成することができる。 (5) 生活支援に着目したレクリエーションに必要な原稿を作成することができる。	症例に応じたレクの立案をまとめ、原稿を作成するために必要な資料を収集する (1時間)	認知 (解釈) 精神・運動 (模倣) 情意 (受入)
33	12/15 (火) 1限	高木 秋竹			(6) 身体機能並びに口腔機能の促進に着目したレクリエーションのリハーサルを実施できる。 (ループリック等の評価用紙を活用して自己・他者を評価する。)	発表内容の事前リハーサルの実施 (1時間)	認知 (問題解決) 精神・運動 (コントロール) 情意 (反応)
34 35	1/19 (火) 1限 2限	高木 秋竹 常清			(7) 身体機能並びに口腔機能の促進に着目したレクリエーションを実施できる。 (8) 他者が発表した内容を評価し、アドバイスできる。 (ループリック等の評価用紙を活用して自己・他者を評価する。)	発表内容の事前リハーサルの実施 (1時間)	認知 (問題解決) 精神・運動 (コントロール) 情意 (反応)
36 37	1/20 (水) 1限 2限	高木 秋竹 石井 南 森 川尻 常清					
38 39 40	㊿1/17 (木) 2限 3限 4限	石井 黒木 南 森 高木	ユニット9 多職種連携演習 口腔ケア (短大・看護大生との連携教育) [実習]	1) スポンジブラシの操作法、並びに介助磨きを実践できる 2) 看護大学生に対し多職種連携で口腔ケアを実践できる。	(1) 口腔ケアの定義と意義、全身疾患との関連、他職種連携の重要性を説明できる。 (2) 口腔ケア用品の選択を実施し、体験することにより、それらの器具を使用した口腔ケア法を学習する。 (3) 患者座位で行う口腔ケアについて実践できる。 (4) 口腔の健康状態を把握するためのアセスメントの活用について学習する。 (5) 口腔内の汚れの理解と口腔の健康を保つための管理法について提案できる。 (6) 他者の口腔内を観察し、口腔の健康を保つための管理法についての支援を学習する。	座位での口腔ケアについて自身の改善点をまとめる。 (0.5時間)	認知 (解釈) 精神・運動 (コントロール) 情意 (反応)
	㊿1/18 (金) 2限 3限 4限						

コミュニケーションスキル

開講時期： 2年次後期
 授業時間： 15コマ：30時間2単位
 受験資格要件： 2/3(10コマ)以上の出席
 科目番号： DH022301
 評価責任者： 古野みはる
 担当教員： 林 美和

1. 一般目標

歯科衛生士として社会生活を営む上で、良好な人間関係を構築するための必要なマナーを修得する。さらに社会で活躍していくための「自己表現」「相手への働きかけ力」「情報交換、共有」の手法を学ぶ事でコミュニケーション能力を獲得する。

2. 教育方法

講義・演習・グループワーク・実践

3. 教育教材

教科書・プリント

4. 学修方法

授業には、指定教科書・配布プリントを持参すること。演習・実践は積極的に行い身につけること。講義内容を日常生活に活かすこと。下記予習・復習項目に記載された学修を怠らないこと。本講義は、3年次の「臨床実習」でのコミュニケーションに不可欠である。

【単位修得に必要な授業外学修時間：60時間】

5. 評価

[形成的評価] 出席状況、提出物、授業態度（挨拶・発問・質疑・グループワークでの取り組む姿勢など）

[フィードバック] 不備がある場合は、コメントを付して返却し、場合によっては再提出を求める

[総括的評価] レポート課題40%、確認テスト（授業14回で実施）30%、授業態度20%、提出物10%

※確認テストに再テストはないので、必ず出席すること

[フィードバック] 成績は評価後に通知する。

6. 教科書・テキスト

コミュニケーション技法 株式会社ウイネット出版 2017

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/18 (金) 3限	林	オリエンテーション ユニット1 講義概要の説明 自己紹介 他者紹介 講義・実践	1) コミュニケーションの 基本を理解する 2) 社会人として効果的な 自己紹介ができる	(1) 自分自身を知り、相手に良さを効果 的に伝えることができる (2) 他人の良さを認め、その良さを他者 に伝えることができる	教科書 P9-21を精読し まとめる 2時間	認知 (解釈) 情意 (受入)
2	9/25 (金) 3限	林	ユニット2 相手に与える印象 講義・討論・実践	1) 自己表現法を理解する 2) 社会が求める人材を 知る	(1) コミュニケーションの技法を体験す ることで、表現方法を学ぶ (2) 第一印象の重要性を理解する	教科書 P22-36を精読 しまとめる 2時間	認知 (解釈) 情意 (受入)
3	10/2 (金) 3限	林	ユニット3 第一印象 講義・グループ学 習・実践	1) 自己表現法を体得する 2) 効果的な表現力を身に つける 3) 感じの良い印象を与 えることができる	(1) 自己の与える印象を自覚する ことができる (2) 表情・態度・挨拶が感じよく できる (3) 表現力を高めるジェスチャーを 身につける	教科書 P100-115を 精読しまとめる 2時間	認知 (解釈) 情意 (表現)
4	10/9 (金) 3限	林	ユニット4 伝える能力 講義・演習・実践	1) 話す能力を育成する 2) きれいな発音・発声・ 発話を身につける	(1) 効果的な話し方を身につける (2) 呼吸法・発声方法・滑舌・アクセ ント・イントネーションの方法を知る (3) 相手に伝わる話し方を実践できる	教科書 P38-46 P82-98を 精読・演習 する 2時間	精神運動 (模倣)

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
5	10/16 (金) 3限	林	ユニット5 敬語① 講義・演習・実践	1) 敬語の重要性を理解する 2) 敬語の基本を知る 3) 間違った敬語の使い方を理解する	(1) 敬語の種類を知る (2) 状況に応じた尊敬語・謙譲語・丁寧語の使い方ができる (3) 誤った敬語に気づき、正しい敬語にできる	教科書 P48-57を精読・演習する 2時間	認知 (解釈/表現)
6	10/23 (金) 3限	林	ユニット6 敬語② 講義・演習・実践	1) 相手や状況に合わせた敬語を習得する 2) 敬語のランクを理解する	(1) 演習をすることで正しい敬語を身につける (1) T・P・Oに合わせた敬語表現ができる (2) 正しい敬語で、患者様対応ができる	教科書 P58-68を精読・演習する 2時間	認知 (解釈)
7	10/30 (金) 3限	林	ユニット7 聴き方 講義・相互学習・実践	1) 相手の立場・価値観を理解して聞く 2) 相手に興味を持ち、認めることの重要性を知る	(1) 「聞くのも表現である」を意識し、聞き方の技法を身につける (2) 積極的傾聴で、相手の話を引き出すことができる	教科書 P122-140 を精読しまとめる 2時間	認知 (相互作用) 情意 (表現)
8	11/6 (金) 3限	林	ユニット8 医療機関の接遇 講義・実践	1) 医療スタッフとして働く意義を知る 2) チームワークの重要性を理解する	(1) 歯科衛生士として働く自覚を持つ (2) チームワークに大切な報告・連絡・相談ができる (3) 働くことの意味を明確にし、プロ意識の大切さを理解できる	教科書 P144-151 を精読しまとめる プリント 2時間	認知 (表現)
9	11/13 (金) 3限	林	ユニット9 患者対応 信頼関係を築く言葉遣い 講義・グループ学習・実践	1) 接遇の基本を知る 2) 良い接遇を理解する 3) 言葉遣いが与える影響を知る	(1) 医療機関における接遇とは何かを理解する (2) 良い接遇を知り、実践ができる (3) クッション言葉、依頼形、プラス表現等を相手に合わせて使い分け、信頼関係を築くことができる	プリント 2時間	認知 (解釈) 情意 (協調)
10	11/20 (金) 3限	林	ユニット10 患者対応 (受付・案内業務) 講義・実習・演習	1) 歯科衛生士が受付を兼務する医院があることを理解する 2) 受付・案内の流れと方法を知る 3) 患者様の気持ちを考えることができる	(1) 受付と案内業務が感じよくできる (2) 相手の立場、価値観を理解できる (3) 患者様の要望を確認し、適した対応ができる	プリント 2時間	認知 (解釈) 情意 (相互作用)
11	11/27 (金) 3限	林	ユニット11 状況対応能力① <電話対応> 講義・演習・実践 ※レポート課題を発表	1) 電話対応の基本を知る 2) 医療機関での電話対応を身につける	(1) 一般的なビジネス電話を知る (2) 患者様や外部からの電話の対応ができる (3) 電話でのコミュニケーションの取り方を理解し実践できる (4) 取次と伝言メモの作成ができる	プリント 2時間	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
12	12/4 (金) 3限	林	ユニット12 状況対応能力② <説明の技法> 講義・演習・ケーススタディ ※レポート課題第1回提出日	1) さまざまな状況に合わせた説明方法を実践する 2) 患者様の気持ちに寄り添った対応の重要性を学ぶ	(1) 患者様の状況確認が的確に行える (2) 施術の説明ができる (3) 患者様の質問に返答できる (4) 患者様の心理を理解しながらの言動ができる	教科書 P73-80を精読する 2時間	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
13	12/11 (金) 3限	林	ユニット13 状況対応能力③ <トラブル対応> 講義・ケーススタディ・実践 ※レポート課題第2回提出日	1) 患者様の心理を理解した対応を身につける 2) トラブルの対処法を理解する	(1) 患者様と認識の違いがある場合の対応方法を知る (2) 多様な患者様に合わせた対応ができる (3) 予約時変更の申し込みの対応を理解する (4) 苦情対応の基本を理解し、対応ができる	プリント 2時間	認知 (解釈/応用)
14	1/8 (金) 3限	林	ユニット14 ※確認テスト 来客対応 講義・演習・実践 ※レポート課題第3回提出日	1) 歯科衛生士が来客対応を学ぶ必要性を理解する 2) 状況に応じた対応ができる	(1) 全体の流れを知る (2) 予約の有無による対応の仕方ができる (3) 取り次ぎの言葉と案内のマナーを理解し実践できる	プリント 確認テストに向けて 3時間	認知 (解釈)
15	1/15 (金) 3限	林	ユニット15 面接 総括 講義・小グループ学習・実践	1) 面接におけるコミュニケーションの活かし方を知る 2) 今までの知識の確認と今後の活かし方を理解する	(1) 就職面接で、今までの学びを活かし自己アピールできる (2) コミュニケーションスキルの知識・技術の活かし方を自ら考えることができる	教科書 P152-157を精読しまとめる プリント 2時間	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)

接遇

開講時期： 2年次後期
 授業時間数： 15コマ；30時間2単位
 受験資格要件： 2/3（10コマ）以上の出席
 科目番号： DH022302
 評価責任者： 古野 みはる
 担当教員： 佐竹 桂子

1. 一般目標

本授業は将来歯科衛生士として活躍する為に、豊かな教養と人間性を備え周りから信頼される人間形成を目指す。多様な対象者に対し感じの良い対応をする為に必要な接遇能力を修得する。また、社会人基礎力の一つである傾聴力を身につけ、誰からも信頼され、より良い人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を身につける。学生と社会人の違いを理解し、社会人としての自覚をもって行動できる為のビジネスマナーを身に付ける。

2. 教育方法

講義、演習、ペアワーク、ロールプレイング、グループディスカッション

3. 教育教材

教科書、プリント、PC+プロジェクターを用いたプレゼンテーション

4. 学修方法

授業を受講するにあたり、時間を守り主体性をもって参加すること。授業には指定教科書とノートを持参。配布プリントは綴って保管する。接遇は気持ちから始まることを理解し、接遇に対する自分なりの考えを下記予習項目記載の内容に合わせて行うこと。共同作業では協調性を意識した上で積極的に発言しお互いの言動を尊重する。参加し学んだことは復習を欠かさず日常生活に取り入れ習慣化する。本科目に興味をもつていただき、社会参加において接遇を活かすことで円滑な人間関係を構築されることを期待する。本講義は、3年次の「臨床実習」の患者・利用者・スタッフとのコミュニケーションに不可欠である。
 【単位修得に必要な授業外修時間：60時間】

5. 評価方法

[形成的評価] 小テスト

[フィードバック] 小テストは次回に授業で返却して振り返りをする。特に間違いが多かった箇所は改めて説明する。

[総括的評価] 小テスト（40%） レポート（30%） 授業態度（30%）

[フィードバック] 結果（成績）は、集計後に通知する。

6. 教科書

歯科スタッフのマナーと実践マニュアル（第3版）編集・発行 一般財団法人 口腔保健協会 2020年

7. 参考書

なし

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/18 (金) 3限	佐竹	ユニット1 デンタルスタッフの 一員として 【講義・グループディス カッション】	1) デンタルスタッフ・組織 の一員としての心構えを 理解する 2) 身につけたいマナーと 自己管理を理解する	(1) デンタルスタッフとしての仕 事を理解する (2) 組織の一員としての心構え、 マナー、自己管理を身につけ る (3) 遅刻・欠勤・早退などの注意 点を理解し、適切な行動がで きる	教科書第一章と P16・17を予習・復 習する。 組織とはどんなも のか、組織の一員 としてどんな心構 えが必要か考え る。 4時間	認知 (想起) 情意 (受入)
2	9/25 (金) 3限	佐竹	ユニット2 社会人としての基本マ ナー 【講義・ペアワーク・ グループディスカッ ション】	1) 社会人としての心構え・ マナーを考える 2) 挨拶の重要性を理解する 3) マナーに対する世代間ギ ャップを理解する	(1) 職場のマナーや身だしなみの 基本を身につける (2) 笑顔で明るい挨拶・はきはき とした返事ができるようにする (3) 世代間ギャップに対して適切 な行動ができるようになる	教科書第二章を予 習・復習する。 学生と社会人とは どう違うか、社会 生活での一般的な マナーについてど のようなものがある か考える 4時間	認知 (想起) 情意 (受入)

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目と 必要時間	教育 目標 領域
3	10/2 (金) 3限	佐竹	ユニット3 接遇とはなに？ 【講義・ペアワーク・ ロールプレイング】	1) 接遇とはどんなものか理解する 2) 接遇における基本動作を理解する 3) 非言語コミュニケーションの重要性を理解する	(1) 基本動作を身につける (2) 声づくりに必要な発音・発声・伝わりやすくするための技術を理解する	動作を整えることにどんな意味があるのか考える。 4時間	認知 (解釈) 情意 (受入)
4	10/9 (金) 3限	佐竹	ユニット3 来客対応 【講義・演習・ペアワーク】	1) 来客に対しての心構えを理解する 2) 応対マナーの基本を理解する	(1) 名刺交換・案内・席次・エレベーターでのマナー (2) 入室時のマナー・ドアの開閉 (3) お茶の出し方 (4) 伝言の仕方 等の方法を理解する	教科書第2章P22～23を予習・復習する。 4時間	認知 (解釈) 情意 (受入) 精神 運動 (模倣)
5	10/16 (金) 3限	佐竹	ユニット4 言葉づかいⅠ 敬語 【講義・ペアワーク・ ロールプレイング】	1) 基本的な敬語を理解する 2) 今どきの接客用語・間違いやすい敬語について理解する	(1) 丁寧語、尊敬語、謙譲語の違いを理解する (2) 人称・敬称の使い方を知る (3) 言葉の多様性と相手に合った言葉選びを考える	教科書第2章P18～21を予習・復習する。 なぜ敬語が必要か、敬語の良さなどについて考える。 4時間	認知 (解釈) 精神 運動 (模倣)
6	10/23 (金) 3限	佐竹	ユニット4 言葉づかいⅡ 接遇話法と傾聴 【講義・ペアワーク・ ロールプレイング】	1) クッションことば・依頼形・疑問形を理解する 2) 傾聴を理解しより相手に寄り添う話し方を行う	(1) 好感の持たれる話し方ができる (2) 傾聴することができる (3) 話す際の態度を意識し相手に合わせたスピードや声の大ききで話せる	前回の講義を踏まえ実践的に話せるよう練習する。 4時間	認知 (解釈) 精神 運動 (自動化)
7	10/30 (金) 3限	佐竹	ユニット4 言葉づかいⅢ 患者応対時に必要な話し方 【講義・演習・グループ ディスカッション】	1) 状況に合った話し方を理解する 2) 待ち時間が長い時などどういった配慮が必要か理解する	(1) 受付・案内・治療中・会計などで適切な会話ができる (2) お待たせするときなど気遣いのある会話ができる	前回までの内容を復習し、状況に合わせてどんな話し方をするか考える。 4時間	情意 (受入) 精神 運動 (自動化)
8	11/6 (金) 3限	佐竹	ユニット5 電話対応Ⅰ 電話対応の基本スキル 【講義・ペアワーク・ ロールプレイング】	1) 電話対応の基本を理解する 2) 声の大切さを理解する	(1) 電話対応の基本を身につける (2) 聞き取りやすく明るい声で受け答えができる (3) 名指し人への取次ができる (4) 聞き取りやすい速さ・声のボリュームで話す	教科書第4章P52～63までを予習・復習する。 4時間	情意 (受入) 精神 運動 (自動化)
9	11/13 (金) 3限	佐竹	ユニット5 電話対応Ⅱ 実践編 【講義・グループ ディスカッション】	1) 歯科の電話対応の特徴を理解する 2) 様々なケースに合わせた対応方法を理解する	(1) 基本スキルをフルに活用し実践力を高める (2) 聞き取りやすさと感じの良さを意識する (3) 予約や予約変更・キャンセルの対応ができる	前回行った電話のかけ方と対応のマナーを整理し実践できるようにする。 4時間	認知 (解釈) 精神 運動 (自動化)
10	11/20 (金) 3限	佐竹	ユニット6 ホスピタリティマインドと医療接遇 【講義・グループ ディスカッション】	1) 医療サービスとはにか、ホスピタリティマインドとはどんなものか理解する 2) 歯科医療で大切にしたい接遇を理解する	(1) 患者さんが求める医療サービスを理解する (2) ホスピタリティマインドの大切さを理解する (3) 患者さんの視点でどんな接遇が必要か考える	医療に求めたいサービス・自分だったらどんな歯科に行きたいか患者さんの視点で考える 4時間	情意 (受入) 精神 運動 (自動化)
11	11/27 (金) 3限	佐竹	ユニット7 デジタル化と接遇 【講義・ペアワーク・ グループ ディスカッション】	1) デジタル化の現状を理解する 2) 進むデジタル化の中で接遇の重要性を考える	(1) デジタル化のメリットとデメリットを理解する (2) デジタル化の中でなぜ接遇が必要なのか考える	医療現場で進められているデジタル化にどのようなものがあるか調べる。 4時間	情意 (受入) 精神 運動 (自動化)
12	12/4 (金) 3限	佐竹	ユニット8 クレーム対応Ⅰ 【講義・演習・グループ ディスカッション】	1) クレーム対応の基本を理解する 2) 不安や痛みを抱える患者さんの気持ちを理解する	(1) 基本となるお詫び・受容から対応を最後まで行うスキルを理解する (2) 敬語やクッション言葉、依頼形など話し方の工夫をして患者さんの気持ちを鎮めることができる	教科書第5章を予習・復習する。クレームとはどんなものか考える。 4時間	情意 (受入) 精神 運動 (自動化)
13	12/11 (金) 3限	佐竹	ユニット8 クレーム対応Ⅱ 様々なトラブルへの対応 【講義・演習・グループ ディスカッション】	1) トラブルに対する心構えを理解する 2) トラブルが起きた時、接遇スキルをどう活用するか理解する	(1) 接遇の基本を踏まえ様々なトラブルにどう接遇を活かすか実践できる (2) 相手の立場に立つことの重要性を理解する (3) 表情や声のトーンなどにも気配りができる	教科書第5章を予習・復習する。これまで学んだ接遇スキルを実践できるよう練習する。 4時間	認知 (解釈) 精神 運動 (コントロール)

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習項目と 必要時間	教育 目標 領域
14	1/8 (金) 3限	佐竹	ユニット9 1日の仕事の流れと患者 さん対応 【講義・グループディ スカッション】	1) デンタルスタッフの一日 の流れと対応ポイントを 理解する 2) スタッフ間のコミュニケ ーションの重要性を理解 する	(1) 診療の流れを知り自分の役割 を確認する (2) 業務に必要な報告・連絡・相談 が的確にできる (3) 子どもや高齢者への対応ポイ ントを理解する	教科書第1章P10～ 11、第3章・第4章 のP50～51を予習・ 復習する。 4時間	情意 (受入) 精神 運動 (コント ロール)
15	1/15 (金) 3限	佐竹	ユニット10 個人情報を守るために 知っておくこと 接遇は“心に残ることを する”ということ 【講義・グループディ スカッション】	1) 医療現場の個人情報とは どんなものか理解する 2) 守秘義務・個人情報の重 要性を理解する 3) 医療人の接遇は何のため にあるのか考える	(1) 守られるべき個人情報保護の 重要性を知り患者対応に生か す (2) 医療人として大切なことは何 か、どんな医療人になりたい か自分自身の軸を持つ	個人情報の保護と はどんなものか調 べる、これまでの 人生の中で心に強 く残っている嬉し かったことを考え る。 4時間	認知 (解釈) 精神 運動 (コント ロール)

中国語

開講時期： 2年次後期
 授業時間数： 15コマ；30時間 2単位
 受験資格要件： 2/3（10コマ）以上の出席
 科目番号： DH022303
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 張 璐（チョウ ロ）

1. 一般目標

初心者として、中国語の発音の仕方を習得し、基本的な文法の仕組みを理解する。将来、初歩的な中国語によるコミュニケーションを行うための基礎作りを目標とする。

2. 教育方法

講義・ペアワーク・グループワークを行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、DVD、プロジェクター

4. 学修方法

授業には、指定教科書と配布プリント等を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。授業中は発音練習などに積極的に参加すること。授業後は、教科書にあるCDを聴き、配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。レポート課題は、締め切り期日を守ること。本講義は、3年次の「臨床実習」の患者・利用者の理解に不可欠である。 【単位修得に必要な授業外学修（予習・復習）時間：60時間】

5. 評価

[形成的評価] 確認テスト・レポート・授業態度（発問・質疑・ペアワークでの暗誦や協力等）（40%）

確認テストは、各ユニットの終了時に行う。授業時間内においてミニテストを5～6回実施する予定。

[フィードバック] 採点后、答案を返却し、模範解答を示し、解説を行う。

[総括的評価] 定期試験：記述試験（60%）

[フィードバック] 試験結果（成績）は、試験終了後に通知する。尚、詳細は講義の初日に説明する。

6. 教科書・テキスト

<最新版> 『1年生のコミュニケーション中国語』劉穎 著、白水社、2014

7. 参考書

なし

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/16 (水) 3限	張	オリエンテーション ユニット1 中国、中国語 講義・グループワーク・ビデオ供覧	映像資料を交えて、 1、中国事情の概要 2、中国語の特徴を理解する。	1、中国について関心を持ち、基本的な事情を理解することができる。 2、中国語の発音の特徴を理解し、真似して発音できる。	教科書にあるCDを聴きながら、p6を読む 4時間	認知 (想起) 精神運動 (模倣)
2	9/30 (水) 3限	張	ユニット2 発音編1-3・簡体字 講義・グループワーク・ビデオ供覧	1、単母音、声調、子音の発音の仕組みを理解する。 2、映像資料を通して、中国語の漢字（簡体字）と日本語の漢字の違いを理解する。	1、真似する練習を通して、中国語の発音の仕方を理解し、発音記号を判別し、正確に発音できる。 2、簡体字を正しく書くことができる。	教科書にあるCDを聴きながら、p6-7を読む 4時間	精神運動 (模倣) 認知 (想起)
3	10/7 (水) 3限	張	ユニット3 発音編3-5・第1課 自己紹介 講義・ペアワーク	1、子音、複母音、鼻母音の発音の仕組みを理解する。 2、名前の言い方、様々な呼び方を理解する。	1、練習を重ねて、中国語の発音の仕方を理解し、発音記号を判別し、正確に発音できる。 2、自己紹介や人を紹介する文の構造を理解し、正しく簡体字で書くことができる。	教科書にあるCDを聴きながら、p7-8とp10-13を読む 4時間	精神運動 (模倣) 認知 (解釈)

回	授業日	授 業 担 当 者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (G10)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育 目標 領域
4	10/14 (水) 3限	張	ユニット4 発音編5-8・第1課 人称代名詞、動詞の 「是」 講義・ペアワーク・ ビデオ供覧	1、鼻母音、軽声、声調の 変化、「r化」音の読 み方を理解する。 2、人称代名詞、「是」の 文を理解する。	1、練習を重ねて、中国語の発音の仕方を理解 し、発音記号を判別し、自分の名前などを中国 語で正確に発音できる。 2、例文の和訳や練習問題を通して、人称代名詞 と「是」の文を正しく書くことができる。	教科書にある CDを聴きなが ら、p8-9と 12-15を読む 4時間	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
5	10/21 (水) 3限	張	ユニット5 第1課会話、助詞 「呢」、副詞 「也」、「请」 講義・ペアワーク	1、会話本文の意味と助詞 「呢」、副詞「也」、 「请」の使い方を理解 する。 2、本文や練習問題の文を 真似して文を作る。	1、例文練習を通して、助詞「呢」、副詞 「也」、「请」を使って、正しい文を書くこと ができる。 2、ペアを組んで、初対面の場面での会話ができ る。	教科書にある CDを聴きなが ら、p12-15 を読む 4時間	認知 (解釈) 精神運動 (自動化)
6	10/28 (水) 3限	張	ユニット6 第2課指示代名詞 (1)、疑問詞 「吗」、否定の副詞 「不」 講義・ペアワーク・ ビデオ供覧	1、指示代名詞(1)、疑 問詞「吗」、副詞 「不」を使う動詞述語 の否定文の仕組みを理 解する。 2、会話本文の内容を真似 して文を作る。	1、例文の和訳を通して、指示代名詞(1)、疑 問詞「吗」、副詞「不」を使う動詞述語の否定 文を正しく使うことができる。 2、ペアを組んで、会話文本文を真似して作っ た文を言うことができる。	教科書にある CDを聴きなが ら、p16-18 を読む 4時間	認知 (解釈) 精神運動 (自動化)
7	11/4 (水) 3限	張	ユニット7 第2課疑問詞「什 么」、～の… 「(的)」 講義・ペアワーク・ グループワーク	1、疑問詞「什么(何)」 を使う文や、～の… 「(的)」の表現を理 解する。 2、イラストを活用し、も のをたずね・説明す る。	1、例文の和訳を通して、疑問詞「什么」や、～ の…「(的)」を使って正しい文を書くことが できる。 2、リスニングの練習を重ねて、中国語の単語や 文を正確に書き取ることができる。	教科書にある CDを聴きなが ら、p16-19 を読む 4時間	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール)
8	11/11 (水) 3限	張	ユニット8 第3課指示代名詞 (2)、形容詞述語文 講義・ペアワーク・ ビデオ供覧	1、指示代名詞(2)の使 い方や、形容詞述語文 の仕組みを理解する。 2、会話本文の内容を真似 して文を作る。	1、例文の和訳を通して、指示代名詞を正しく使 うことと、形容詞述語文を活用することができ る。 2、ペアを組んで、会話文本文を真似して作っ た文を言うことができる。	教科書にある CDを聴きなが ら、p20-22 を読む 4時間	認知 (解釈) 精神運動 (自動化)
9	11/18 (水) 3限	張	ユニット9 第3課形容詞述語 文、疑問詞「怎么 样」 講義・ペアワーク・ グループワーク	1、形容詞述語文の組み を確認し、疑問詞「怎 么样」の使い方を理解 する。 2、イラストを活用し、人 やものについて評価す る表現を使いこなす。	1、例文の和訳を通して、形容詞述語文と、疑問 詞「怎么样」を使って、事物の様態を評価し、 活用することができる。 2、リスニングの練習を重ねて、中国語の単語や 文を正確に書き取ることができる。	教科書にある CDを聴きなが ら、p20-23 を読む 4時間	認知 (解釈) 精神運動 (自動化)
10	11/25 (水) 3限	張	ユニット10 第4課数詞、助詞 「吧」 講義・ペアワーク・ ビデオ供覧	1、日本語の数詞との違い を理解し、助詞「吧」 を使う文の意味を理解 する。 2、会話本文の内容を真似 して文を作る。	1、例文の和訳を通して、「吧」を使う文を正し く書くことができる。 2、中国語の数詞の発音を練習し、日付、時刻、 部屋の番号、電話番号などを中国語で言える。 3、ペアを組んで、会話文本文を真似して作っ た文を言うことができる。	教科書にある CDを聴きなが ら、p24-26 を読む 4時間	認知 (解釈) 精神運動 (自動化)
11	12/2 (水) 3限	張	ユニット11 第4課数量を表わす 語、数詞、人民元の 教え方 講義・ペアワーク	1、数詞と数量を表わす語 の組み合わせの仕方 や、人民元に関する知 識を理解する。 2、イラストを活用し、買 い物に用いる表現を使 いこなす。	1、例文の和訳を通して、物の数や金額を正確に 伝えることができる。 2、リスニングの練習を重ねて、数詞や金額など を正確に書き取ることができる。	教科書にある CDを聴きなが ら、p24-27 を読む 4時間	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール)
12	12/9 (水) 3限	張	ユニット12 第5課場所指示代名 詞、動詞「在」 講義・ペアワーク・ ビデオ供覧	1、場所指示代名詞の使 い方や、動詞「在」の文 の仕組みを理解する。 2、会話本文の内容を真似 して文を作る。	1、例文の和訳を通して、場所指示代名詞を活用 することと、動詞「在」の文を正確に書くこと ができる。 2、ペアを組んで、会話文本文を真似して作っ た文を言うことができ、人や物の所在について説 明できる。	教科書にある CDを聴きなが ら、p28-30 を読む 4時間	認知 (解釈) 精神運動 (自動化)
13	12/16 (水) 3限	張	ユニット13 第5課動詞「在」、 助動詞「想」、方位 詞 講義・ペアワーク	1、方位詞を使って、動詞 「在」の文の仕組みを 再確認し、助動詞 「想」の使い方を理解 する。 2、イラストを活用し、自 分の居場所やモノの所 在地をたずね・説明す る。	1、例文の和訳を通して、動詞「在」の文と助動 詞「想」を使う文を活用することができる。 2、リスニングの練習を重ねて、場所を示す部分 を聞き分けることができる。	教科書にある CDを聴きなが ら、p28-31 を読む 4時間	認知 (解釈) 精神運動 (自動化)
14	1/13 (水) 3限	張	ユニット14 第6課動詞「有」、 何の～(「什么」+ 名詞) 講義・ペアワーク・ ビデオ供覧	1、動詞「有」の文の組み みや、何の～(「什么」 +名詞)の使い方を 理解する。 2、会話本文の内容を真似 して文を作る。	1、例文の和訳を通して、動詞「有」の文を正確 に書くことと、(「什么」+名詞)を活用する ことができる。 2、ペアを組んで、会話文本文を真似して作っ た文を言うことができる。	教科書にある CDを聴きなが ら、p32-34 を読む 4時間	認知 (解釈) 精神運動 (模倣)
15	1/20 (水) 3限	張	ユニット15 第6課助数詞、総合 復習 講義・ペアワーク	1、日本語にある助数詞と の違いを理解する。 2、イラストを活用し、ど こに・何が・どのくら いあるかが言える。 3、第1-6課の学習ポ イントをまとめる。	1、助数詞の表現を動詞「有」の文に組み入れ て、ものを数えることができる。 2、リスニングの練習を重ねて、助数詞を示す部 分や「有り・なし」の意味を聞き分けることが できる。	教科書にある CDを聴きなが ら、p32-35 を読む 4時間	認知 (解釈) 精神運動 (コントロール)

韓国語

開講時期： 2年次後期
 授業時間数： 15コマ：30時間 2単位
 受験資格要件： 2/3(10コマ)以上の出席
 科目番号： DH022304
 評価責任者： 古野 みはる
 担当教員： 金 活蘭

1. 一般目標

本授業では、韓国語の基礎的な文字・発音・表現を習得するとともに、初歩的なコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。また、韓国の文化や社会に関する理解を深め、異文化理解力を養う。

2. 教育方法

講義・演習・グループワークや討論を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、プロジェクター、スライド

4. 学修方法

授業には、指定教科書と配布プリント等を必ず持参すること。下記予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。授業中はノートを取る。授業後は、教科書や配布プリント等で講義内容の確認をその日のうちに行うこと。レポート課題は、締め切り期日を守ること。本講義は、3年次の「臨床実習」の患者・利用者の理解に不可欠である。

【単位修得に必要な授業外学修（予習・復習）時間：60時間】

5. 評価方法

[形成的評価] 確認テスト・暗唱発表・レポート・授業態度（発問・質疑・グループワークでの発言や協力等）（40%）
 確認テストは、各授業開始の時間内にミニテストとして行う。

[フィードバック] 次の回の講義時に答案を返却し、模範解答を示す。

[総括的評価] 記述試験（60%）

[フィードバック] 成績は、試験終了後に通知する。

注 意：毎回の授業はとても大切です。無断欠席しないこと。欠席した場合は必ずその理由を報告すること。特に最初の文字を習う段階では必ず出席すること。

6. 教科書・テキスト

1. 「コミュニケーション韓国語 聞いて話そう I」、長谷川 由起子 著、白帝社、2012

2. プリント

7. 参考書

辞 書

回	授業日	授 業 担 当 者	ユニット番号 項目名 授業方法	学習目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	9/18 (金) 4限	金	オリエンテーショ ン 韓国の文化 ① 韓国について ユニット1 出会いⅠ 文字と発音：母音 講義・ペアワーク	1) 韓国についての基礎的 な知識を学び、韓国を 理解する。 2) 目上の人に対する出会 いの挨拶を理解する。 3) ハングルの母音（あ 行・や行）の読み方と 発音を理解する。	(1) 韓国語の概要を理解する。 (2) 韓国の文化や常識を知り、異文化を理解 し、柔軟に行動できる（異文化理解力）。 (3) 目上の人に対する出会いの挨拶ができる。 (4) ハングルの母音（あ行・や行）を正しく読 み、発音できる。	学んだこと をまとめ る。 4時間	認知 情意
2	9/25 (金) 4限	金	ユニット2 出会いⅡ 文字と発音：子音 講義・ペアワーク	1) 友達との出会いの挨拶 を理解する。 2) 基本子音字・単母音字 の読み方を理解する。	(1) 友達言葉で出会いの挨拶ができる。 (2) ハングルの基本子音（あかさたな相当）が 読め、発音できる。	学んだこと をまとめ る。 4時間	認知 情意

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学習目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習項目と 必要時間	教育目標 領域
3	10/2 (金) 4限	金	ユニット3 別れⅠ 文字と発音：子音 講義・ペアワーク	1) 目上の人に対する別れの挨拶を理解する。 2) ハングルの激音の構造と読み方を理解する。	(1) 敬語で別れの挨拶ができる。 (2) ハングルの激音を正しく読み、発音できる。	学んだことをまとめる。 4時間	認知 情意
4	10/9 (金) 4限	金	ユニット4 別れⅡ 文字と発音 小テスト① 講義・ペアワーク	1) 友達との別れの挨拶を理解する。 2) ハングルの濁音の構造と読み方を理解する。 3) これまで学習した文字の読みテストを行う。	(1) 友達言葉で別れの挨拶ができる。 (2) ハングルの濁音を正しく読み、発音できる。 (3) 読みテストを実施する。 (4) リスニング練習を通して、ハングル文字を聞き分けることができる。	学んだことをまとめる。 4時間	認知 情意
5	10/16 (金) 4限	金	ユニット5 尋ねる・答える 文字と子音 講義・ペアワーク	1) 短い会話を通して、尋ね方と答え方を理解する。 2) ハングルの濃音の構造と読み方を理解する。	(1) ペアで質問し、答えることができる。 (2) ハングルの濃音を正しく読み、発音できる。 (3) リスニング練習を通して、ハングル文字を聞き分けることができる。	学んだことをまとめる。 4時間	認知 情意
6	10/23 (金) 4限	金	ユニット6 感謝Ⅰ 小テスト② 講義・ペアワーク	1) 目上の人に対する感謝の挨拶を理解する。 2) ユニット5の会話を活用し、ペアで会話テストを行う。	(1) 目上の人に対する感謝の挨拶ができる。 (2) 会話テストを実施する。 (3) リスニング練習を通して、ハングル文字を聞き分けることができる。	学んだことをまとめる。 4時間	認知 情意
7	10/30 (金) 4限	金	韓国の文化 ②： 食文化 グループで発表 講義・グループワーク	1) 韓国の食文化について理解する。 2) グループで協力し、韓国料理を調べ、食文化への理解を深める。	(1) 異文化を理解し、柔軟に考え行動できる。 (2) 得た知識を基に、自分の考えをまとめて発表できる。	学んだことをまとめる。 4時間	認知 情意
8	11/6 (金) 4限	金	ユニット7-1 感謝Ⅱ 終声(パッチム) 講義・ペアワーク	1) ハングルの終声(パッチム)の構造を理解する。 2) 終声(パッチム)の発音規則を理解する。	(1) 終声(パッチム)を含む語を正しく読むことができる。 (2) 終声(パッチム)を意識して正しく発音することができる。	学んだことをまとめる。 4時間	認知 情意
9	11/13 (金) 4限	金	ユニット7-2 漢字語数詞、総合練習 講義・ペアワーク	1) 漢字語数詞の仕組みを理解する。 2) 漢字語数詞の基本的な用法を理解する。	(1) 漢字語数詞を用いて数量や金額を表現することができる。 (2) メニューの価格をハングルで読み、伝えることができる。	学んだことをまとめる。 4時間	認知 情意
10	11/20 (金) 4限	金	ユニット8-1 プレゼント 疑問詞 感嘆表現 講義・ペアワーク	1) 疑問詞の用法を理解する。 2) 感嘆表現の用法を理解する。	(1) 疑問詞を用いて会話を行うことができる。 (2) 感嘆表現を用いて会話を行うことができる。 (3) 自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。	学んだことをまとめる。 4時間	認知 情意
11	11/27 (金) 4限	金	ユニット8-2 プレゼント 連音Ⅰ、連音Ⅱ ユニット9-1 「ㄷ」弱音化 講義・ペアワーク	1) ハングルの発音規則(連音)を理解する。 2) ハングルの発音規則(「ㄷ」弱音化)を理解する。	(1) 連音の規則に従ってハングルを読むことができる。 (2) 「ㄷ」弱音化を意識して正しく発音することができる。	学んだことをまとめる。 4時間	認知 情意
12	12/4 (金) 4限	金	ユニット9-2 自己紹介 謝罪 鼻音化 ユニット10-1 一人称代名詞 主題を表す名詞 助詞 講義・ペアワーク	1) 目上の人に対する謝罪表現を理解する。 2) 自己紹介文の構成を理解する。 3) ハングルの発音規則(鼻音化)を理解する。 4) 一人称代名詞および助詞の用法を理解する。	(1) 目上の人に対する謝罪の挨拶を適切に用いることができる。 (2) 一人称代名詞や助詞を用いて自己紹介文を作成することができる。 (3) 鼻音化を含む語を正しく発音することができる。 (4) リスニング練習を通して、自己紹介の内容を聞き分けることができる。	学んだことをまとめる。 4時間	認知 情意
13	12/11 (金) 4限	金	ユニット10-2 自己紹介 小テスト③ 医療韓国語 講義・ペアワーク	1) 自己紹介の方法を理解する。 2) 医療現場に必要な基本的な韓国語表現を理解する。	(1) 韓国語で自己紹介を行うことができる。 (2) 医療現場において、簡単な質問や応答を行うことができる。 (3) 言葉が通じにくい場面でも、基本的な対応をすることができる。	学んだことをまとめる。 4時間	認知 情意
14	1/8 (金) 4限	金	ユニット11 日付 講義・グループワーク	1) 固有数詞の用法を理解する。 2) 日付の表し方を理解する。	(1) 自分の誕生日をハングルで言うことができる。 (2) 相手の誕生日を質問し、聞き取ることができる。	学んだことをまとめる。 4時間	認知 情意

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学習目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習項目と 必要時間	教育 目標 領域
15	1/15 (金) 4限	金	主要学習内容について復習、全体的なまとめ 韓国の文化：③ 韓服 講義・グループワーク	<ol style="list-style-type: none"> 1) これまで学習した内容を整理・復習する。 2) 韓国文化（韓服）についての説明を聞き、その特徴を理解する。 3) 日本の着物と韓国の韓服の共通点や相違点について理解する。 4) グループで協力し、比較・対照の内容を発表できるよう準備する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 既習内容を用いて会話を作成し、ペアで発表することができる。 (2) 韓国文化（韓服）について理解し、日本文化との違いを説明できる。 (3) 異文化を尊重し、柔軟に考える姿勢を身につける。 	<p>学んだことをまとめる。</p> <p>4時間</p>	認知 情意

心理学

開講時期： 2年次前期
 授業時間数： 15コマ；30時間 2単位
 受験資格要件： 2/3（10コマ）以上の出席
 科目番号： DH022307
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 石橋 孝明

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として、豊かな教養と人間性を備えるとともに、人の心の仕組みやストレス等を理解して多様な対象者との幅広いコミュニケーションを図り、対人関係能力を身につけた治療技術を行使するため、心理学の基礎知識を修得する。

2. 教育方法

教科書に基づいたパワーポイントによる講義（説明・解説）を行う。また、学生には資料を配布し、適宜記入をしてもらう。授業の最後には感想を書いてもらう。併せて、数回小テストを実施し、学修成果を確認する。

13回目と14回目の授業でグループ学習・討議を行う。

3. 教育教材

教科書、講義内配付プリント など

4. 学修方法

授業には、指定教科書を持参すること。下記、予習項目に記載された教科書の該当箇所を読むなど、事前学修（予習）を怠らないこと。授業中は、配布されたプリントを完成させ、授業後は、学修した内容の振り返りや自分なりの理解をまとめること（事後学修・復習）。

本講義は、3年次の「臨床実習」の患者・利用者の理解に不可欠である。

[単位修得に必要な授業外学修（予習・復習）時間：60時間]

5. 評価方法

[形成的評価] 平常評価（小テスト等）（30%）授業態度（10%）

[フィードバック] 授業後に行う感想に関して、フィードバックが必要な場合には次回授業にてフィードバックを行う。

[総括的評価] 記述・穴埋め試験（60%）

[フィードバック] 試験結果（成績）は、試験終了後に通知する。尚、詳細は[講義]の初日に説明する。

6. 教科書・テキスト

1. 『歯科衛生学シリーズ 心理学』（一社）全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2024

7. 参考書

1. 水原幸夫編（2016）『入門心理学－実験室からフィールドまで－』ナカニシヤ出版
2. 松田幸弘編著（2018）『心理学概論－ヒューマンサイエンスへの招待－』ナカニシヤ出版
3. 宮沢秀次・二宮克美・大野裕明編（2007）『自分でできる心理学』ナカニシヤ出版
4. 古城和子編著（2002）『生活にいかす心理学 ver. 2』ナカニシヤ出版

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習項目と 必要時間	教育 目標 領域
1	4/9 (木) 2限	石橋	オリエンテーション ユニット1 見る・聞く・感じる こころ [講義]	1) 知覚の成立を学ぶ 2) 知覚の特徴を学ぶ 3) 知覚への影響要因を学ぶ	1) 知覚の成立について説明することができる 2) 知覚の特徴を説明することができる 3) 知覚への影響要因を説明することができる	教科書のP1-14を精読する。また、わからない単語があれば調べておく。4時間	認知 (知識・ 理解)
2	4/16 (木) 2限	石橋	ユニット2 学ぶ・覚えるこころ [講義]	1) ヒトの学習プロセスを学ぶ 2) 記憶のメカニズムを学ぶ 3) 記憶の病理や歪みを学ぶ	1) 学習がどのように成立しているかを説明することができる 2) 記憶のメカニズムを説明することができる 3) 忘却や記憶の歪みについて説明することができる	教科書のP15-26を精読する。また、わからない単語があれば調べておく。4時間	認知 (知識・ 理解)
3	4/23 (木) 2限	石橋	ユニット3 やる気の心理 [講義] 小テスト	1) 動機づけの機能と種類を学ぶ 2) 欲求を学ぶ	1) 動機づけの機能や種類を説明することができる 2) 欲求の種類と特徴を説明することができる	教科書のP27-37を精読する。また、わからない単語があれば調べておく。4時間	認知 (知識・ 理解) 態度・ 主体性

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習項目と 必要時間	教育 目標 領域
4	4/30 (木) 2限	石橋	ユニット4 喜怒哀楽のこころ 〔講義〕	1) 感情の理論とメカニズムを学ぶ 2) フラストレーションと防衛機制を学ぶ 3) ストレスとその対処法を学ぶ	1) 感情の理論とメカニズムを説明することができる 2) フラストレーションとどのようにしてフラストレーションに対処するかを説明することができる 3) ストレスに対処することができる	教科書のP39-52を精読する。また、わからない単語があれば調べておく。4時間	認知 (知識・ 理解) 態度・ 主体性
5	5/7 (木) 2限	石橋	ユニット5 パーソナリティ 〔講義〕	1) パーソナリティの概念を学ぶ 2) パーソナリティの調べ方を学ぶ 3) パーソナリティに関わる障害を学ぶ	1) これまで提唱されてきたパーソナリティの概念を説明することができる 2) パーソナリティについて調べることができる 3) パーソナリティに関わる障害を説明することができる	教科書のP53-66を精読する。またわからない単語があれば調べておく。4時間	認知 (知識・ 理解)
6	5/14 (木) 2限	石橋	ユニット6 かしこさの心理 〔講義〕 小テスト	1) 知能とその構造について学ぶ 2) 知能の測定方法を学ぶ 3) 知的能力障害を学ぶ	1) 知能とはどういうもので、どういう構造になっているかを説明することができる 2) 知能の測定方法を説明することができる 3) 知的能力障害の症状や診断基準を説明することができる	教科書のP67-80を精読する。また、わからない単語があれば調べておく。4時間	認知 (知識・ 理解)
7	5/21 (木) 2限	石橋	ユニット7 考えるこころ 〔講義〕	1) 考えるとはどういうことかを学ぶ 2) 問題解決方法について学ぶ 3) 創造する過程とその方法を学ぶ	1) 考えるとはどういうことかを説明することができる 2) 問題解決法について説明することができる 3) 創造する過程とその方法について説明することができる	教科書のP81-92を精読する。また、わからない単語があれば調べておく。4時間	認知 (知識・ 理解)
8	5/28 (木) 2限	石橋	ユニット8 発達するこころ (1) 〔講義〕	1) 発達に影響する要因を学ぶ 2) 各発達段階の発達課題について学ぶ 3) 各発達段階の特徴を学ぶ	1) 発達に影響する要因を説明することができる 2) 発達課題についての理論を説明することができる 3) 各発達段階の特徴を説明することができる	教科書のP93-110を精読する。また、わからない単語があれば調べておく。4時間	認知 (知識・ 理解)
9	6/4 (木) 2限	石橋	ユニット9 発達するこころ (2) 〔講義〕	1) 青年期の特徴を学ぶ 2) 成人期の特徴を学ぶ 3) 高齢期の特徴を学ぶ	1) 青年期の特徴を説明することができる 2) 成人期の特徴を説明することができる 3) 高齢期の特徴を説明することができる	教科書のP111-124を精読する。また、わからない単語があれば調べておく。4時間	認知 (知識・ 理解)
10	6/11 (木) 2限	石橋	ユニット10 人と関わるこころ 〔講義〕 小テスト	1) 他者の特徴の捉え方と印象形成について学ぶ 2) ヒトの行動帰属について学ぶ 3) 他者を好きになる要因を学ぶ	1) 他者の特徴をどのように捉えて、印象を形成しているかを説明することができる 2) ヒトが自他の行動をどのように帰属しているかを説明することができる 3) 他者を好きになる要因について説明することができる	教科書のP125-134を精読する。また、わからない単語があれば調べておく。4時間	認知 (知識・ 理解)
11	6/18 (木) 2限	石橋	ユニット11 人と集うこころ 〔講義〕	1) 集団の特徴を学ぶ 2) リーダーシップについて学ぶ 3) 集団がヒトの行動に及ぼす影響について学ぶ	1) 集団の特徴にはどのようなものがあるかを説明することができる 2) リーダーシップとそれに関わる理論を説明することができる 3) 集団がヒトの行動に及ぼす影響についてどのようなものがあるのかを説明することができる	教科書のP135-148を精読する。また、わからない単語があれば調べておく。4時間	認知 (知識・ 理解)
12	7/2 (木) 2限	石橋	ユニット12 健康なこころ 〔講義〕	1) 心の健康、その測定法を学ぶ 2) 心の健康を保つことの役割について学ぶ 3) 様々な心理療法を学ぶ	1) 心の健康とその測定方法について説明することができる 2) 心の健康を保つことの意義を説明することができる 3) 代表的な心理療法について説明することができる	教科書のP149-164を精読する。また、わからない単語があれば調べておく。4時間	認知 (知識・ 理解)
13	7/9 (木) 2限	石橋	ユニット13 カウンセリングのこころ 〔講義・グループ学習・討議〕	1) 歯科医療に関わるカウンセリングのホスピタリティを学ぶ 2) カウンセリングマインドを学ぶ 3) 具体的な心理的援助について学ぶ	1) 歯科医療に関わるカウンセリングのホスピタリティを説明することができる 2) クライエント中心療法の考え方や技法を説明することができる 3) 歯科医療における心理的支援の意義について説明することができる	教科書のP165-182を精読する。また、わからない単語があれば調べておく。4時間	態度・ 主体性 (コミュニ ケーション)
14	7/16 (木) 2限	石橋	ユニット14 思いを伝え合うこころ 〔講義・グループ学習・討議〕 小テスト	1) 歯科医療におけるコミュニケーションの意義を学ぶ 2) 信頼関係の構築・傾聴姿勢・共感姿勢について学ぶ	1) 歯科医療におけるコミュニケーションの意義を説明できる 2) 信頼関係の構築・傾聴姿勢・共感姿勢について説明することができる	教科書のP183-198を精読する。また、わからない単語があれば調べておく。4時間	態度・ 主体性 (コミュニ ケーション)
15	7/23 (木) 2限	石橋	ユニット15 心理学の歩みと 研究法 まとめ 〔講義〕	1) 心理学の歴史を学ぶ 2) 心理学の研究法を学ぶ 3) 心理学で用いられる統計法について学ぶ 4) 様々な用語を振り返る	1) 心理学の流れを説明することができる 2) 心理学実験におけるデータ収集の方法を説明することができる 3) 集めたデータの結果の分析方法について説明することができる 4) 心理学の授業で学んだ専門用語の意味を説明することができる	教科書のP199-208を精読する。教科書およびこれまで配付されたプリントを精読する。また、わからない単語があれば調べておく。4時間	認知 (知識・ 理解)

倫理学

開講時期： 2年次前期
 授業時間数： 15コマ；30時間 2単位
 受験資格要件： 2/3（10コマ）以上の出席
 科目番号： DH022308
 評価責任者： 古野 みはる
 授業担当者： 永嶋 哲也

1. 一般目標

医療人としての自覚と倫理観を得るために、「尊厳」と生命倫理学の観点からそれらの問題について学び、豊かな教養と人間性を持つための基礎を得ることによって、日常のさまざまな事柄や医療における倫理的問題について自分の意見を持つことを到達目標とする。

2. 教育方法

板書による講義を中心に、ネット検索やグループワーク（討議）によるミニレポート作成など（私語や内職、居眠りなど禁止。遅刻も許容しない。受講に際して倫理的態度を保てない者は本講義を選択しないこと。）

3. 教育教材

黒板、プリント、iPad+プロジェクターなど（受講生は、講義を書き取るためのノートを用意しておくこと）。

4. 学修方法

授業では説明内容を集中して聞くこと。板書はノートに書き写し、そのほか重要で必要と思われる点を書き加えること。本講義は、3年時の「臨床実習」の患者・利用者の理解に不可欠である。

【単位修得に必要な授業外学修時間：60時間】

5. 評価方法

〔形式的評価〕ミニレポート（毎回の講義時に作成し提出）

〔フィードバック〕ミニレポートは次週講義時に返却され、不備がある場合は再提出が課される。

〔総括的評価〕学期末試験（60%、論述形式）+ミニレポート・出席点・授業態度（40%）

〔フィードバック〕試験結果（成績）は、試験終了後に通知する。

6. 教科書・テキスト

使用せず。授業において適宜プリントが詳細資料として配付される。

7. 参考書

参考文献は講義中に適宜紹介される。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 〔授業方法〕	学修目標（GIO）	行動目標（SB0s）	予習・復習項目 と必要時間	教育目標 領域
1	4/9 (木) 2限	永嶋	ユニット1 はじめに 〔講義〕	1) 倫理学とはどういう学問か理解する	(1) 倫理学の成り立ちについて説明できる	「倫理」「道徳」の意味・用い方を調べる 〔4時間〕	認知 (解釈)
2	4/16 (木) 2限	永嶋	ユニット1 はじめに 〔講義〕	1) 尊厳について基本的人権との関連から理解する	(1) 「尊厳」の意味について歴史的変遷を説明できる	「尊厳」を調べる 〔4時間〕	認知 (解釈)
3	4/23 (木) 2限	永嶋	ユニット2 終末期と尊厳死 〔講義〕	1) 自然死と積極的安楽死について理解する	(1) アメリカの自然死法と尊厳死法について説明できる (2) ヨーロッパでの尊厳死法、事前指示法、自己決定権法について説明できる	CA州「自然死法」、OR州「尊厳死法」を調べる 〔4時間〕	認知 (想起)
4	4/30 (木) 2限	永嶋	ユニット2 終末期と尊厳死 〔講義〕	1) 安楽死と自殺幫助の違いとの関係について理解する	(1) 安楽死について説明できる (2) 自殺幫助について説明できる (3) 日本での「尊厳死」の意味について説明できる	「自殺幫助」「終末期の治療停止」を調べる 〔4時間〕	認知 (想起) 情意 (受入)

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 ユニット項目 [授業方法]	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習項目 と必要時間	教育目標 領域
5	5/7 (木) 2限	永嶋	ユニット2 終末期と尊厳死 [講義]	1) 尊厳死に関する日本の法的状況について理解する	(1) 日本尊厳死協会の主張について説明できる (2) 尊厳死法案の案について説明できる	「日本尊厳死協会」 「尊厳死法案」を調べる [4時間]	認知 (想起) 情意 (受入)
6	5/14 (木) 2限	永嶋	ユニット2 終末期と尊厳死 [講義]	1) 終末期における患者の意思決定について理解する	(1) DNAR 指示について説明できる (2) ACP について説明できる	「DNAR 指示」「ACP/ 人生会議」「AD/事前 指示」「リビングウィル」を調べる [4時間]	認知 (想起)
7	5/21 (木) 2限	永嶋	ユニット3 職業倫理 [講義]	1) プロフェッショナリズムについて理解する	(1) プロフェッションの要件について説明できる (2) 職業倫理の必要性についてプロフェッショナリズムとの関係から説明できる	「プロフェッション」 を調べる [4時間]	認知 (想起)
8	5/28 (木) 2限	永嶋	ユニット4 生命倫理学 [講義]	1) 生命倫理学の始まりについて理解する	(1) 伝統的な医療倫理と新しい生命倫理との関係について説明できる	「生命倫理学」と “Bioethics”を調べる [4時間]	認知 (解釈)
9	6/4 (木) 2限	永嶋	ユニット4 生命倫理学 [講義]	1) 生命の始まりの倫理について理解する	(1) 人工妊娠中絶について生命の尊厳との関連から説明できる (2) 人工妊娠中絶について自己決定の尊重との関連から説明できる	母体保護法について調べる [4時間]	認知 (想起) 情意 (受入)
10	6/11 (木) 2限	永嶋	ユニット4 生命倫理学 [講義]	1) 生命の始まりの倫理について理解する	(1) 出生前診断と選択的中絶について説明できる	「出生前診断」「選択的中絶」を調べる [4時間]	認知 (想起) 情意 (受入)
11	6/18 (木) 2限	永嶋	ユニット4 生命倫理学 [講義]	1) 医の倫理原則について理解する	(1) 与益、無加害、正義、自律尊重原則について説明できる	「生命医学倫理の四原則」について調べる [4時間]	認知 (想起)
12	7/2 (木) 2限	永嶋	ユニット4 生命倫理学 [講義]	1) 正義原則について理解する	(1) 医療資源の公平配分について正義原則との関連から説明できる (2) トリアージについて人間の尊厳との関連から説明できる	「トリアージ」を調べる [4時間]	認知 (想起)
13	7/9 (木) 2限	永嶋	ユニット4 生命倫理学 [講義]	1) インフォームド・コンセントについて理解する	(1) インフォームド・コンセントについて自律尊重原則との関連から説明できる	“informed-consent” を調べる [4時間]	認知 (解釈)
14	7/16 (木) 2限	永嶋	ユニット4 生命倫理学 [講義]	1) 患者の意思決定支援について理解する	(1) パターナリズムについて説明できる (2) インフォームドアセントについて説明できる (3) SDM について説明できる	「パターナリズム」 “informed-assent” 「共同意思決定/ SDM」を調べる [4時間]	認知 (解釈)
15	7/23 (木) 2限	永嶋	ユニット4 生命倫理学 [講義]	1) プライバシーについて理解する	(1) プライバシーについて自律尊重原則との関連から説明できる	“privacy”を調べる [4時間]	認知 (解釈)

介護研修

開講時期： 1～3年次 通信＋集中講義
 授業時間数： 131.5時間 4単位 94コマ
 (集中講義 60コマ 13日間、施設見学 1日間)
 受験資格要件： 131.5時間の履修
 科目番号： DH043041
 評価責任者： 古野みはる
 授業担当者： 秋竹 純、齊田直樹、中園栄里
 吉田一生、古野みはる、田口智章

1. 一般目標

将来、歯科衛生士として必要な高齢者や障害者を支援するための基礎的知識や技術（身体介護・生活援助・多様な対象者とのコミュニケーション技術）を理解することで、対象者の QOLの向上支援を行う視点を身に付ける。また、地域包括ケアシステムの中で社会や他者のために責任ある行動がとれ、多職種と連携・協働し、根拠や理論に基づいた口腔介護（口腔衛生管理および口腔機能管理）の提供ができる能力を修得することを到達目標とする。

2. 教育方法

受講生は20名限定とする。それを超える場合は教科担当者による選抜を行う。通信による部分は科目ごとに課題が提示され、添削が行われる。対面授業では、講義・演習を一体的に行う。（福岡県の「介護職員初任者研修」事業の指定を受けた内容に基づいて実施する）アクティブラーニング・小グループ学習・体験実習
 高齢者施設で社会福祉士・介護福祉士として支援に携わった実務経験を生かした実践的教育を行う。

3. 教育教材

教科書、プリント、PC＋プロジェクター

4. 学修方法

介護職員初任者研修修了のためには、通信学習40.5時間、対面授業91時間の出席が必要である。人数は24人以内に限定する。通信学習については、科目ごとに指定された課題を期限内に提出すること。対面授業については、集中講義となるため、欠席しないこと。本授業は、高齢者・障害者歯科学と密接な関係があり、臨床・臨地実習での患者や利用者理解に不可欠である。
 【単位修得に必要な授業外学修（予習・復習）時間：42時間】

5. 評価

[総括的評価] 修了試験(70%)、課題提出状況(10%) 授業参加状況(予習・復習の実施状況等)(20%)
 [フィードバック] 課題レポートは内容に不足があった場合、個別指導の上再提出を求められる場合がある。
 試験結果(成績)は、試験終了後に掲示する。

6. 教科書・テキスト

- 「介護職員初任者研修テキスト1 介護のしごとの基礎」第5版 中央法規出版、2026
- 「介護職員初任者研修テキスト2 自立に向けた介護の実際」第3版 中央法規出版、2023

7. 参考書

特になし

回	授業日	授業担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育目標領域
1 2 3 4	8/17	古野	ユニット1 職務の理解 (通信0時間, 対面 6時間) 講義・演習	1) 多様なサービスについて 列挙できる。(3時間) 2) 介護職の仕事内容や働く 現場について理解する。 (3時間)	(1) 介護保険サービスによる居宅サ ービスの種類とサービスの提供される 場を説明できる。 (2) 介護保険による施設サービスの種 類とサービス提供される場を説明で きる。 (3) 介護保険外サービスの種類とサー ビス提供される意義や目的を説明で きる。 (1) 各種サービスの内容や利用者像な どを通じて介護職の仕事内容や働く 現場を説明できる。 (2) ケアマネジメントと、介護サー ビス提供に至るまでの流れを説明で きる。 (3) チームアプローチの必要性と、具 体的な連携方法を説明できる。	予習：居宅・施設サー ビスの種類を調べて ノートにまとめる (1時間) 復習：施設生活の1 日(代表例)の流れを ノートにまとめる。 (1時間)	認知 (想起)
						予習：介護に携わる チームメンバーを調 べノートにまとめ る。(1.5時間) 復習：介護サービス 提供までの流れにつ いてノートにまとめ る。(1時間)	

回	授業日	授 業 担 当 者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標(GIO)	行動目標(SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育目 標領域
5	8/18	古野	ユニット2 介護における尊 厳の保持・自立支 援(通信7.5時間、 対面1.5時間)	1) 人権と尊厳を支える介護 について理解する。(6時間)	(1)介護の目標や展開について、尊厳 の保持、QOL、 ノーマライゼーション、自立支援の 考え方を取り入れて説明できる。 (1)虐待の定義、身体拘束及びサー ビス利用者の尊厳、プライバシーを傷 つける介護についての基本的なポイ ントを列挙できる。	予習：人権と尊厳を 守る上で重要なこと をノートにまとめ る。(1時間) 復習：虐待の種類と 定義についてノー トにまとめる。 (1時間)	認知 (想起)
				2) 自立に向けた介護につい て理解する (3時間)	(1)介護における自立とは何かを説明 できる。 (2)「その人らしさ」を尊重するた めに歯科衛生士として配慮すべき点に ついて説明できる。 (3)介護予防の考え方について概説 できる。		
6 7	8/18	古野	ユニット3 介護の基本(通信3 時間、対面3時間)	1) 介護職の役割、専門性と 他職種との連携について理 解する。(2時間)	(1)介護の目指す基本的なものは何 かを概説でき、家族による介護と専 門職による介護の違い、介護の専 門性について説明できる。 (2)介護職に共通の基本的な役割と サービスごとの特性、医療・看護と の連携の必要性について説明できる。	予習：医療・看護・ 福祉との連携の必要 性をノートにまとめ る。(1.5時間) 復習：介護事故の事 例をノートにまとめ る。(1.5時間)	認知 (想起)
				2) 介護職の職業倫理につい て理解する。(2時間)	(1)介護に関わる際の職業倫理の重 要性を理解し、利用者や家族と関 わる際の留意点についてポイントを 列挙できる。		
				3) 介護における安全の 確保とリスクマネジメント について理解する。 (2時間)	(1)生活支援の場では出会う典型的 な事故や感染、介護における主要 なリスクを列挙できる。 (2)介護職起こりやすい健康障害 や受けやすいストレス、またそれら に対する健康管理、ストレスマネジ メントのあり方、留意点等を列挙 できる。		
8	8/18	古野	ユニット4 介護福祉サービスの 理解と医療との 連携 (通信7.5時間、対 面1.5時間)	1) 介護保険制度について理 解する。(3時間)	(1)生活全体の中で介護保険制度の 位置付けを理解し、各サービスや地 域支援の役割について列挙できる。	予習：介護保険制度 の目的を調べノート にまとめる。 (2時間) 復習：障害者総合支 援法の目的と対象者 を調べノートにまと める。 (2時間)	認知 (想起) 精 神 運 動 (模倣) 情意 (受入・ 反応)
				2) 障害者総合支援制度及び その他の制度について理解 する(3時間)	(1)高齢障害者の生活を支えるた めの基本的な考え方を理解し、代 表的な障害福祉サービス、権利擁 護や成年後見制度の目的、内容に ついて列挙できる。		
				3) 医療との連携と リハビ リテーションについて理解 する。(2時間)	(1)医行為の考え方、一定の 要件の下に介護福祉士等が行う 医行為などについて列挙できる。		
9 10	8/19	古野	ユニット5 介護におけるコ ミュニケーション 技術 (通信3時間、対 面3時間)	1) 介護におけるコ ミュニケーション について理解する。 (3時間)	(1)コミュニケーションの意義、 目的、役割を説明できる。 (2)利用者の状況、状態に応じた コミュニケーション技術を説明 できる。	予習：言語的・非言語 的コミュニケーション の種類を調べ ノートにまとめる (1時間) 復習：報告・連絡・相 談の留意点をノー トにまとめる。 (1.5時間)	認知 (想起) 情意 (受入・ 反応)
				2) 介護におけるチ ームコミュニケーション について理解する。 (3時間)	(1)記録における情報の共有化の 意義を説明できる。 (2)チームにおける報告・連絡・ 相談の必要性を説明できる。		
11 12	8/19	田口	ユニット6 老化の理解 (通信3時間、対 面3時間)	1) 老化に伴うこころとからだ の変化と日常について理 解する。(3時間)	(1)老年期の発達と老化に伴う心 身の変化の特徴を列挙できる。 (2)老化に伴う日常生活への影 響について説明できる。	予習：代表的な老 化学説をノートにま とめる(1.5時間)	認知 (想起)
				2) 高齢者と健康につい て理解する。(3時間)	(1)高齢者の症状、疾患の特徴を 列挙できる。 (2)高齢者に多い病気と日常生活 上の留意点を説明できる。		
13 14	8/20	吉田	ユニット7 認知症の理解 (通信3時間、対 面3時間)	1) 認知症を取り巻く状況 (環境)を理解する。 2) 医学的側面から見た認知 症の基礎と健康管理。(2時 間)	(1)認知症ケアの概念を説明 できる。 (2)認知症の原因疾患とその形 態を列挙できる。	予習：「新オレンジ プラン」を調べて ノートにまとめる。 (2時間) 復習：認知症と間違 いやすい疾患をノー トにまとめる。 (2時間)	認知 (想起) 情意 (受入・ 反応)
				3) 認知症に伴うこころと からだの変化と日常生活。(2 時間)	(1)認知症の人の生活障害、心 理・行動障害の特徴を列挙 できる。		
				4) 家族への支援につい て理解する。(2時間)	(1)家族へのレスパイトケアの 種類や方法について説明 できる。		

回	授業日	授 業 担 当 者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SB0s)	予習・復習 項目と 必要時間	教育目 標領域
15	8/20	古野	ユニット8 障がいの理解 (通信 1.5時間, 対面1.5時 間)	1) 障害の基礎的な理解をする。 2) 障害の医学的な側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援の等の基本的な理解をする。(2時間) 3) 家族の心理、かかわり支援について理解する。(1時間)	(1) 障害の概念とICFについて説明できる。 (2) 障害種別ごとの特性を理解できる。 (1) 家族の理解と障害受容支援の必要性について説明できる。	〔医学モデル〕と〔生活モデル〕の違いについてノートにまとめる(1.5時間) レスパイトサービスの種類について調べノートにまとめる。(1.5時間)	認知 (想起)
16	8/20	古野	ユニット9 人権学習(通信, 対面 1.5時間)	1) 高齢者問題をはじめとする人権問題を理解する。(1.5時間)	(1) 高齢者や障害者が守られるべき人権について説明できる。	人権意識を持つために大切なことをノートにまとめる。(1時間)	認知 (想起)
17 18	8/21	吉田	ユニット10 こころとからだの しくみと生活支援 技術 (通信12時間, 対面 63時間)	1) 介護の基本的な考え方(3時間) 2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解(3時間) 3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解(3時間)	(1) 要介護高齢者の生活状況について概説できる。 (2) 要介護高齢者の身体状況に合わせた介護、環境整備のポイントについて列挙できる。 (3) 人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。	予習：介護施設の1日の流れを調べノートにまとめる(1時間) 復習：環境整備が要介護高齢者に及ぼす影響についてノートにまとめる。(1時間)	認知 (想起) 情意 (受入・ 反応)
	8/21	中園		1) 生活と家事を理解する。(5時間)	(1) 家事援助の機能と基本原則について列挙できる。 (2) 家事援助とは何か具体的に説明できる。	予習：自身が住む家で快適と感じる場所をノートにまとめる。(2時間) 復習：福祉用具の活用事例をノートにまとめる。(2時間)	認知 (想起) 精 神 運 動 (模倣) 情意 (受入・ 反応)
	8/21	齊田		2) 快適な居住環境整備と介護(5時間)	(1) 快適な居住環境のポイントを列挙できる。 (2) 高齢者・障害者特有の居住環境と福祉用具の活用方法が説明できる。		
	8/24	秋竹 齊田		1) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護(5時間)	(1) 装うことや整容の意義について解説できる。 (2) 指導を受けながら根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。	予習：整容とは何か調べノートにまとめる。(1時間) 復習：演習内容のまとめと振り返りのレポートを作成(1時間)	
19 ~ 53	8/25	秋竹 齊田	1) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護(5時間)	(1) 体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説できる。 (2) 体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指導に基づいて介助を行うことができる。	予習：移動手段の種類を調べノートにまとめる。(2時間) 復習：演習内容のまとめと振り返りのレポートを作成(1時間)		
	8/26	秋竹 齊田	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護(7時間)	(1) 食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指導に基づいて介助を行うことができる。 (2) 口腔ケアの重要性について列挙でき、具体的な介助を行うことができる。 (3) 喀痰吸引が必要な高齢者の食事助を行う際に必要な注意点が列挙できる。	予習：食事の目的を調べノートにまとめる。(1時間) 復習：演習内容のまとめと振り返りのレポートを作成(1時間)		
	8/27	秋竹 齊田	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立(5時間)	(1) 入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙できる。 (2) 入浴に関わるからだのしくみが理解でき、指導に基づいて介助を行うことができる。	予習：清潔の目的を調べノートにまとめる。(1時間) 復習：演習内容のまとめと振り返りのレポートを作成(1時間)		

回	授業日	授 業 担当者	ユニット番号 項目名 授業方法	学修目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)	予習・復習 項目と 必要時間	教育目 標領域
54 ～ 56	8/28	秋竹 齊田		排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護(5時間)	(1)排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指導に基づいて介助を行うことができる。	予習：排泄介助時の注意点を調べノートにまとめる。 (1時間) 復習：演習内容のまとめと振り返りのレポートを作成 (1時間)	
	8/31	秋竹 齊田		睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護(5時間)	(1)睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指導に基づいて介助を行うことができる。	予習：睡眠の重要性を調べノートにまとめる。 (1時間) 復習：演習内容のまとめと振り返りのレポートを作成 (1時間)	
	9/1	秋竹 齊田		死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護に向けた介護(5時間)	(1)ターミナルケアの考え方、対応の仕方、留意点、本人・家族への説明と了解、介護職や他の職種との連携(ボランティアを含む)について列挙できる。	予習：ターミナルケアで大切なことを調べてノートにまとめる。 (2時間) 復習：授業で視聴するVTRの感想をレポートにまとめる。 (2時間)	
		秋竹		介護実習オリエンテーション	介護施設見学		
57	9/1	秋竹		1) 介護過程の基礎的理解ができる。(3時間)	1) 支援を行う際の思考過程を具体的に説明できる。	予習：ニーズとデマンドの違いをノートにまとめる。 (2時間) 復習：授業中に指示された事例をノートにまとめる。 (2時間)	認知 (想起) (1) 情意 (受入・ 反応)
				2) アセスメントの重要性について理解できる。(3時間)	1) アセスメントとは何か説明できる。		
				3) 介護過程の基本を踏まえ、課題解決に向けたアセスメントを展開できる。(4時間)	1) 事例問題からアセスメントを行い、具体的な課題を抽出できる。		
58 59 60	9/2	秋竹	ユニット11 振り返り(通信0時間, 対面4時間)	1) 研修全般の総括及び学びを振り返る (4時間)	1) 要介護高齢者への支援に必要な基本知識が概説できる。	予習：提示された課題を熟読する。 (2時間) 復習：初任者研修全般の振り返りをレポートにまとめる。 (2時間)	認知 (想起)
	9/2	古野 秋竹	修了テスト				

福 岡 医 療 短 期 大 学

〒814-0193 福岡市早良区田村二丁目15番1号

電 話 092 (801) 0439

F A X 092 (801) 4473